

Canon

POWER PROJECTOR

SX7/SX6/SX60/X700

使用説明書



ご使用の前に、必ずこの使用説明書をお読みください。
特に「安全にお使いいただくために」の項は必ずお読みになり、正しくご使用ください。
またお読みになった後、この使用説明書をいつでも見られる場所に保管してください。

本製品は日本国内用に設計されております。
電源電圧の異なる外国ではご使用になれません。

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

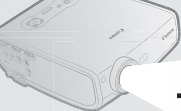
日常のお手入れ

困ったときには

付録

索引

JPN



早わかり・投写までの手順

コンピューター

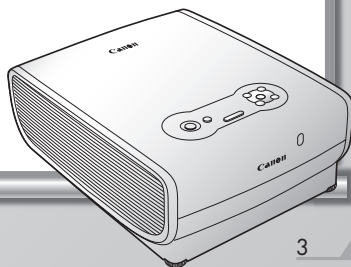
- | | | | |
|-----------|---|--------|---|
| 1 | 設置する | P30～31 | ●スクリーンまでの距離を決めて設置します。 |
| 2 | 接続する | P34～37 | ●プロジェクターとコンピューターをケーブルで接続します。 |
| 3 | 電源を入れる | P38～39 | ●電源コードを接続し、プロジェクターの電源を入れます。
●投写画面の高さを調整します。(P41)
●初めて電源を入れたときは、表示言語を選んでください。(P39) |
| 4 | AUTO SET
 ボタンを2回押す | P44～45 | ●画面のピントを合わせます。 |
| 5 | コンピューターの準備をする | P42～43 | ●コンピューターの電源を入れ、解像度を調整します。 |
| 6 | INPUT
 ボタンで入力信号を切り換える | P46～48 | ●コンピューターからの入力に合わせて入力信号を切り換えます。 |
| 7 | AUTO SET
もう一度  ボタンを2回押す | P44～45 | ●オートセットアップ機能を使って入力信号、ピント、台形ひずみなどを自動調整します。 |
| 8 | AUTO PC
 ボタンを押す | P52 | ●オートPC機能で入力信号の最適化を行います。
(正常に投写されている場合は不要です。) |
| 9 | IMAGE
 ボタンで表示を調整する | P53～54 | ●投写の目的に合った画質を選びます。
●必要に応じて、メニュー「アスペクト」で画面比や表示領域を変更します。(P55,86) |
| 10 | プレゼンテーションなどを行う | P74～79 | ●プレゼンテーションを演出する機能をリモコンで操作します。 |
| | 投写を終えるとき…電源を切る | P58～59 | ●電源を切ってから、電源コードを抜きます。 |



AV機器

- 1 設置する** P30~31 ●スクリーンまでの距離を決めて設置します。
●リモコンに電池を入れます。(P27)
-
- 2 接続する** P62~65 ●プロジェクターとAV機器をケーブル*で接続します(音声の接続はP36,37)。
-
- 3 電源を入れる** P38~39 ●電源コードを接続し、プロジェクターの電源を入れます。
●投写画面の高さを調整します。(P41)
●初めて電源を入れたときは、表示言語を選んでください。(P39)
-
- 4** AUTO SET **ボタンを2回押す** P44~45 ●画面のピントを合わせます。
-
- 5 AV機器の準備をする** ●AV機器の電源を入れて映像を再生します。
-
- 6** INPUT **ボタンで入力信号を切り換える** P68~69 ●デジタル映像のときは、入力信号をデジタルビデオに切り換えます*
●その他の信号のときは手順7に進みます。
-
- 7** AUTO SET **もう一度ボタンを2回押す** P67 ●オートセットアップ機能を使って入力信号、ピント、台形ひずみなどを自動調整します。
-
- 8** IMAGE **ボタンで表示を調整する** P53~54 ●投写の目的に合った画質を選びます。
●必要に応じて、メニュー「アスペクト」で画面比や表示領域を変更します。(P70,86,87)
-
- 投写を終えるとき…電源を切る** P58~59 ●電源を切ってから、電源コードを抜きます。

*: デジタル映像を投写するときは、本プロジェクターとAV機器をHDMI/DVIデジタルケーブルで接続してください。(P63)



目次

早わかり・投写までの手順	2
目次	4
安全にお使いいただくために	7
使用上のご注意	8
⚠ 電池の取り扱いに関する注意 [リモコン使用時]	10
⚠ ランプについての安全上のご注意	13
持ち運び／輸送時のご注意	13
設置のときのご注意	14
パワープロジェクター SX7/SX6/SX60/X700の特長	15
使用説明書の読みかた／表記について	16
使用説明書について	16
お使いになる前に	18
付属品の確認	18
各部のなまえ	20
リモコンの準備	27
プロジェクターを設置する	30
スクリーンまでの距離を決める	30
置き場所を決める	31
コンピューターの画像を投写する	34
コンピューターを接続する	34
電源を入れる	38
画面のサイズと高さを調整する	40
コンピューターの準備を行う	42
オートセットアップを行う	44
ピントを合わせる	49
画面の台形ひずみを調整する	50
コンピューター画像の自動調整を行う (AUTO PC)	52
画質のモードを選ぶ (IMAGE)	53
画面の表示モードを選ぶ (アスペクト)	55
投写画面の比率を選ぶ (スクリーンアスペクト)	57
電源を切る	58
AV機器の映像を投写する	62
AV機器と接続する	62
AV機器の投写までの手順	66
オートセットアップを行う	67
画面の表示モードを選ぶ (アスペクト)	70

投写画面の比率を選ぶ(スクリーンアスペクト)	71	
プレゼンテーションで使える便利な機能	74	
画像を一時的に消す	NO SHOW	74
音声を一時的に消す	MUTE	74
静止画にする	FREEZE	75
音量を調節する	VOL	75
経過時間を表示する	P-TIMER	76
アプリケーションソフトのページを送る/戻す	PAGE	76
画像を拡大する	D.ZOOM	77
リモコンでマウス操作する	R-CLICK	78
スポットライトで位置を示す	SPOT	79
メニューによる機能設定	82	
メニューの使いかた	82	
表示状態を設定する	86	
画面の表示モードを選ぶ	アスペクト	86~87
入力信号を選ぶ	入力信号選択	87~88
総ドット数を調整する	総ドット数	89
トラッキングを調整する	トラッキング	89
水平位置を調整する	水平位置	90
垂直位置を調整する	垂直位置	90
水平表示ドット数を調整する	水平表示ドット数	91
垂直表示ドット数を調整する	垂直表示ドット数	91
プログレッシブ処理を行う	プログレッシブ	92
メニューの位置を選ぶ	メニュー表示位置	92
天吊り/リア投写で使う	反転表示	93
スクリーンの色補正を行う	スクリーン色補正	94
表示するロゴを登録する	ユーザー画像登録	94
ロゴの表示位置を選ぶ	ユーザー画像位置	95
ロゴを表示する(入力信号なし時)	無信号時画面	95
ロゴを表示する(NO SHOW時)	NO SHOW時画面	96
電源入力時の画面を選ぶ	起動時画面	96
スクリーンの比率を選ぶ	スクリーンアスペクト	97
画質を調整する	98	
画質を選ぶ	イメージモード設定	98
明るさを調整する	明るさ	99
コントラストを調整する	コントラスト	99

シャープネスを調整する	シャープネス	100
ガンマ補正を行う	ガンマ	100
色の調整を行う	色調整	101
高度な色調整を行う	ダイナミックガンマ/記憶色補正/6軸色調整	102~103
ランプの明るさを絞る	ランプモード	103
イメージ調整をリセットする	リセット	104
動作を設定する		105
オートセットアップの項目を選ぶ	オートセットアップ	105
パワーマネジメントモードを選ぶ	パワーマネジメントモード	105
POWERボタン操作を省略する	ダイレクトパワーオン	106
電子音の入/切	電子音	106
表示言語を選ぶ	言語	107
プロジェクターの操作を禁止する	キーロック	108
ガイドメッセージの表示/非表示	ガイド	108
LEDの点灯の入/切	LEDイルミネーション	109
リモコンを設定する	リモコン	109
デジタルビデオの入力信号を設定する	デジタルビデオ	110
パスワードを設定する	パスワード設定	110
パスワードを登録する	パスワード登録	111
購入時の状態に戻す	工場出荷設定	111
ランプカウンターをリセットする	ランプカウンター	112
日常のお手入れ		114
プロジェクター本体を清掃する		114
エアフィルターを清掃・交換する		115
ランプを交換する		116
困ったときには		120
WARNINGランプの見かた		120
困ったときのアドバイス		121
付録		126
対応信号形式		126
画面サイズと投写距離の関係		127
用語集		128
製品の仕様		132
索引		134
保証とアフターサービス		136
メニューの構成		138

安全にお使いいただくために

安全上の注意を表す記号

この使用説明書で使用しているマークについて説明します。本書では製品を安全にお使いいただくため、大切な記載事項には次のようなマークを使用しています。これらの記載事項は必ず守りください。



警告

この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。



注意

この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害または物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。



感電注意

⚠ の記号は、注意（警告を含む）をうながす事項を示しています。⚠ の中に具体的な注意内容が描かれています（例の記号は感電注意を表します）。



分解禁止

🚫 の記号は、行ってはいけない行為（禁止事項）を示しています。🚫 の中に具体的な禁止内容が描かれています（例の記号は分解禁止を表します）。



プラグをコンセントから抜け

🔌 の記号は、行わなければならない行為を示しています。🔌 の中に具体的な指示が描かれています（例の記号は電源プラグをコンセントから抜くという指示を表します）。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

使用上のご注意

安全に関する重要な内容ですので、ご使用前によくお読みの上、正しくお使いください。

警告



警告



電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



警告

- 使用中はレンズをのぞかないでください。強い光が出ていますので、目を傷める恐れがあります。特に小さなお子様にはご注意ください。



警告



電源プラグをコンセントから抜く

- 万一本機の内部に水などがいった場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



警告



電源プラグをコンセントから抜く

- 万一異物が本機の内部に入った場合は、まず本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。特にお子様にはご注意ください。



警告



電源プラグをコンセントから抜く

- 画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて修理を販売店にご依頼ください。



警告



電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、本機を倒したり、キャビネットを破損した場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



分解禁止



感電注意

- 本機のキャビネットは外さないでください。内部には電圧の高い部分および温度の高い部分があり、感電ややけどの原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



禁止



水ぬれ禁止

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

警告



禁止

- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



風呂、シャワーでの
使用禁止

- 風呂、シャワー室では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

- 本機に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



禁止

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。またコードを釘などで固定しないでください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードを敷物で覆うと、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードが傷んだら、（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
- コンセント付き延長コードを使う場合は、つなぐ機器の消費電力の合計が延長コードの定格電力を超えない範囲でお使いください。超えて使用すると電源コードが発熱し、火災の原因となります。
- 電源プラグとコンセントは定期的に点検し、プラグとコンセントの間にたまったホコリ・ごみ・汚れなどを取り除いてください。それらがたまって湿気を帯びると、火災の原因となります（結露するところや水槽の近くでは特にご注意ください）。



禁止

- ご使用中は吸気口・排気口の中のファンが回転しています。これらの穴から物などを差し込まないでください。事故や故障の原因となります。特にお子様にはご注意ください。

警告



接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



禁止

- 本機の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様にはご注意ください。
- 本機や付属の接続コードの接点部に金属類を差し込まないでください。火災・けがの原因となります。



禁止

- 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠電池の取り扱いに関する注意 [リモコン使用時]



注意



禁止

電池を取り扱う際は次のことをお守りください。

守られない場合、破裂、発熱、発火、漏液の原因になります。

- 火の中に入れてたり、加熱、ショート、分解したりしないでください。
- 乾電池は充電しないでください。



警告



禁止

電池を取り扱う際は次のことをお守りください。

守られない場合、破裂、発熱、発火、漏液の原因になることがあります。

- 電池を使いきったときや、長時間使用しないときは電池を取り外してください。
- 電池を交換するときは2本いっしょに交換してください。また、種類の違う電池をいっしょに使用しないでください。
- +と-の向きを正しく入れてください。
- 万一、液漏れなどで内部の液体が体についたときは、水でよく洗い流してください。

注 意



禁止

- 電源コードを細かく折り曲げたり、巻いたり、束ねたまま使用しないでください。放熱しにくくなり、発熱やショートを起こし、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源コードや接続ケーブルを床の上にはわせないでください。足を引っ掛けて転倒して、けがの原因となることがあります。



禁止

- 湿気やホコリの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- 内部の温度上昇を防ぐため、冷却用のファンを内蔵しています。ご使用の際は、ファンの吸気口および排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。設置のときは、ファンの排気口を壁から1メートル以上あけてください。空調設備の排気ダクト付近などに設置しないでください。
次のような使い方はしないでください。
 - ・横倒しなど、指定以外の方向への設置。
 - ・押し入れ、本箱など風通しの悪い狭いところに押し込む。
 - ・じゅうたんや布団の上に置く。
 - ・テーブルクロスなどを掛ける。
 また、壁など、周囲のものから1メートル以上離し、風通しをよくしてください。



注意

- キャスター付き台に本機を設置する場合には、キャスター止めをしてください。動いたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

- 本機の上に重い物をのせたり、乗らないでください。特に小さなお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。

注 意



禁止

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなどを外したことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

- 長期間、機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



注意

- 長年のご使用で内部にホコリがたまるとう火災や故障の原因となることがあります。掃除は梅雨の前が効果的です。費用などは販売店にご相談ください。

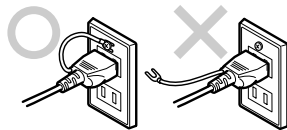


注意



アース線を接続する

- 電源コードのアース線を、必ずアースに接続してください。アース線の接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。またアース線を外すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。



ランプについての安全上のご注意

本プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプを使用しています。
この水銀ランプには、次のような性質があります。

- 衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりします。
- ランプの個体差や使用条件によって破裂や不点灯、寿命に至るまでの時間は大きく異なります。使用開始後まもなく破裂したり、不点灯になる場合もあります。
- ランプは使用時間の経過による劣化などで、次第に暗くなります。
- ランプ交換の指示（WARNINGランプが2回点滅など）が出たら、破裂の可能性が高くなっていますので、すみやかに新しいランプと交換してください。
- ランプが破裂した場合、ランプから生じるガスを吸い込んだり、目や口に入る恐れがあります。ご使用中は排気口に顔を近づけないでください。



警告

プロジェクター内部にガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスや粉じんが排気口から出たりすることがあります。ランプ内部のガスには水銀が含まれています。破裂した場合は窓や扉を開けるなど部屋の換気を行ってください。万一吸い込んだり、目や口に入った場合はすみやかに医師にご相談ください。

また、プロジェクター内部にガラス片が散乱している可能性がありますので、キャノンお客様相談センターへプロジェクター内部の清掃と点検、ランプの交換をご依頼ください。



注意

使用済みランプを捨てる時
プロジェクターの水銀ランプは、蛍光灯と同じ取り扱いで各自治体の条例に従って廃棄してください。

持ち運び／輸送時のご注意

- プロジェクターは精密機器です。衝撃や振動を与えたり、倒したりしないでください。故障の原因となります。
- 持ち運ぶときは、レンズの保護のためにレンズキャップをはめ、表面をキズや汚れから守るために付属のキャリーバッグに入れてください。
- 冷却ファンが止まるまで、キャリーバッグに収納しないでください。冷却ファンが回っている状態で収納すると、熱のため故障する恐れがあります。
- キャリーバッグはプロジェクターを外部の衝撃から保護するには設計されていません。キャリーバッグに入れて持ち運ぶときは、衝撃を与えたり、落としたり、上にものを置いたりしないでください。破損や故障の原因になります。
- プロジェクターをキャリーバッグで輸送しないでください。車両・航空機などを利用し持ち運んだり、輸送したりする場合は、耐衝撃性の高い輸送用ケースをご使用ください。

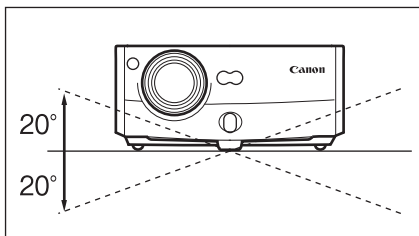
設置のときのご注意

- 本プロジェクターの左右、後ろ、上方は、壁などから1m以上離して設置してください。

本体は水平に設置してください

本プロジェクターは正しい方向に設置してください。誤った方向に設置すると、故障や事故の原因となります。

- 左右の傾きは各20°以内としてください。
- 上向きや下向きでご使用になる場合は、真上と真下方向での設置のみ投写可能です。
- 横に立てて設置して投写しないでください。

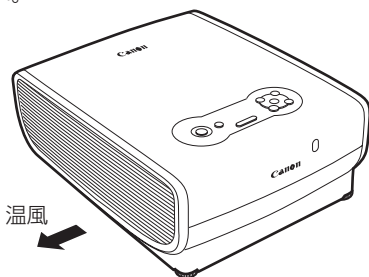


- 本プロジェクターを20°以上傾けて設置すると故障する恐れがあります。

排気口の温風にご注意ください

- 排気口からは温風が吹き出します。次の点にご注意ください。

- ・ スプレー缶を置かないでください。熱で缶内の圧力が上がり、爆発の原因となります。
- ・ 金属を置かないでください。高温になり、事故やけがの原因となります。
- ・ 観葉植物やペットを置かないでください。
- ・ 熱で変形したり、悪影響を受けるものを置かないでください。
- ・ 排気口付近には視聴席を設けしないでください。



- 動作中は排気口周辺や排気口上部のキャビネットが高温になりますので、手で触れたりしないでください。やけどの原因となります。特に小さいお子様にはご注意ください。
- 熱で変形や変色の恐れのあるものを上に置かないでください。

こんな場所には設置しないでください

- 湿気やホコリ、油煙やタバコの煙が多い場所には設置しないでください。レンズやミラーなどの光学部品に汚れが付着して、画質を損なう原因となります。
- 高温、低温になる場所に設置しないでください。故障の原因となります。
 - ・ 使用温度範囲 5℃～35℃
 - ・ 保管温度範囲 -10℃～60℃

結露にご注意

- 低温の場所から高温の場所へ急に持ち込んだときや、部屋の温度を急に上げたとき、空気中の水分が本機のレンズやミラーに結露して、画像がぼやけることがあります。結露が消えて通常の画像が映るまでお待ちください。

海拔2300m以上の高地でご使用のお客様へ

- 本機を海拔2300m以上の高地でご使用される場合は、プロジェクター内部の冷却を充分に行うために特別な設定が必要です。最寄りのキヤノンサービスセンターへお問い合わせください。

パワープロジェクターSX7/SX6/SX60/X700の特長

キヤノン製品のお買い上げ、誠にありがとうございます。

パワープロジェクター SX7/SX6/SX60/X700は、コンピューターの画像や、DVDなどの映像を大画面に投写できる高性能プロジェクターです。

主な特長

なめらかで美しい描写性能

キヤノン独自の光学エンジン・AISYSとLCOS（反射型液晶パネル）の採用により、高輝度・高コントラストで格子感の少ないなめらかで美しい描写を実現しています。

高輝度4000ルーメン(SX7/X700)

クラス*最高水準となる4000ルーメンの高輝度投写を実現しています。

*5kg未満のポータブルプロジェクター

27dB*の超静粛駆動(SX60)

わずか27dBの超静粛性で、映画に集中できる快適な空間をつくります。

*ランプモード静音時

SXGA+までの解像度にリアル対応(SX7/SX6/SX60)

SXGA+（1400×1050ドット）の広い表示領域にリアル対応し、高解像・高画質を実現しています。

※ X700はXGA（1024×768ドット）にリアル対応です。

高倍率1.7倍ズームレンズ

非球面レンズとUDレンズを採用した高倍率1.7倍ズームレンズにより、100インチの大画面を3mから4.9mの距離で投写できます。

『オートセットアップ』でかんたん設置

ピント調整や台形ひずみ補正などを自動的に調整する『オートセットアップ』機能を備えていますので、プロジェクターの設置がとても簡単です。

Adobe® RGBの色空間に対応(SX7/SX6)

忠実な色再現に適したAdobeRGBの色空間に対応しています。

映画館の雰囲気を実現する『ホームシアター』モード(SX60)

イメージモードで『ホームシアター』を選べば、本格的な映画館の雰囲気を自宅で再現できます。

使用后すぐに持ち運びできる『オフ&ゴー』機能

電源コードを抜いても冷却ファンが回り続けるので、使用后すぐにプロジェクターを持ち運ぶことができます。

※冷却ファンが止まるまではキャリーバッグに収納しないでください。

コンパクトで使いやすいワイヤレスリモコン

プロジェクターの全ての機能が操作できるワイヤレスリモコンが付属されています。

使用説明書の読みかた／表記について

使用説明書について

使用説明書（本書）

本書はパワープロジェクター SX7、SX6、SX60 および X700 共通の使用説明書です。プロジェクターの使いかたが詳しく説明されています。プロジェクターを安全にお使いいただくため、またプロジェクターの機能を十分に活用していただくため、お使いになる前によくお読みください。

クイックスタートガイド（別紙）

投写までの手順や、終了の手順、投写中に使える機能などが1枚のシートにまとめられています。

ボタン操作を表す記号

本プロジェクターは、付属のリモコンまたは本体の操作パネル（本体パネル）のボタンを使って操作します。なお、本プロジェクターはリモコンですべての機能が操作できます。

本書では、ボタン操作を次のように表記しています。

ピントを合わせる

画面のピントを合わせます。
オートセットアップ（オートフォーカス）で正しく調整されない場合は、この手順で調整します。

1 **[FOCUS] ボタンを押す。**
「フォーカス調整」画面が表示されます。

本体パネルの操作を表します

リモコンの操作を表します

操作するボタンを表します

説明の内容を表す記号

本文中マークがついた欄は、それぞれ次のような内容となっています。



操作上の注意事項や制限事項が記載されています。



操作上知っておいていただきたい事や参考になる事が記載されています。

著作権についてのご注意

本プロジェクターを営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において画面サイズ切換え機能等を利用して画面の圧縮、引き伸ばし等を行いますと、著作権法で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。

- Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh および Mac は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。
- Adobe は、Adobe systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

お使いになる前に

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

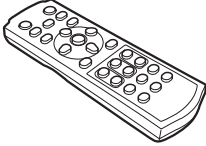
索引

お使いになる前に

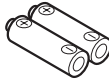
付属品の確認

プロジェクター本体のほかに、次の付属品がそろっていることを確かめてください。

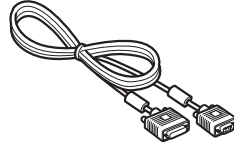
- リモコン



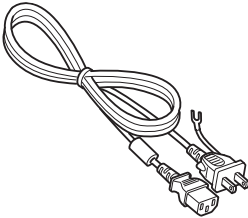
- リモコン用乾電池
(単4形2本)



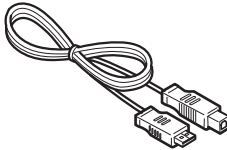
- コンピューター接続ケーブル (1.8m)
(DVI/ミニD-sub15ピン用)



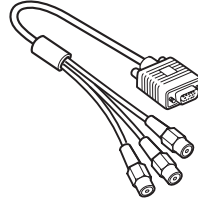
- 電源コード (2m)



- USBケーブル (1.8m)

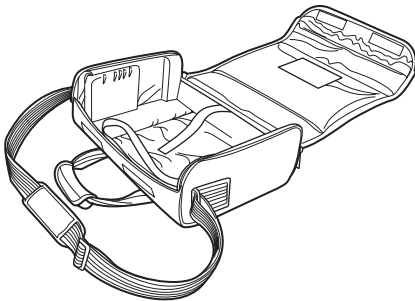


- コンポーネントケーブル
(RCA/ミニD-sub15ピン用) (0.4m)



アース線にはキャップが付いています。

- キャリーバッグ



- レンズキャップ



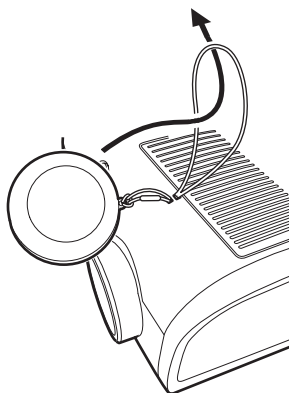
- レンズキャップ用のひも



- 使用説明書
- クイックスタートガイド
- 保証書

レンズキャップの取り付けかた

図のようにレンズキャップの穴にひもを通してから、本体側面の取り付け穴にひもを通します。

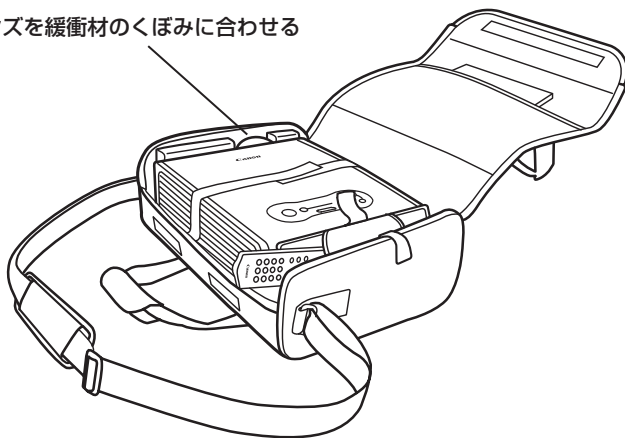


- 本プロジェクターを使用しないときは、ホコリやキズからレンズを守るため、レンズキャップをはめてください。

キャリーバッグへの収納のしかた

図のようにバッグを肩からさげたときに、レンズ面が横方向になるように収納してください。

レンズを緩衝材のくぼみに合わせる

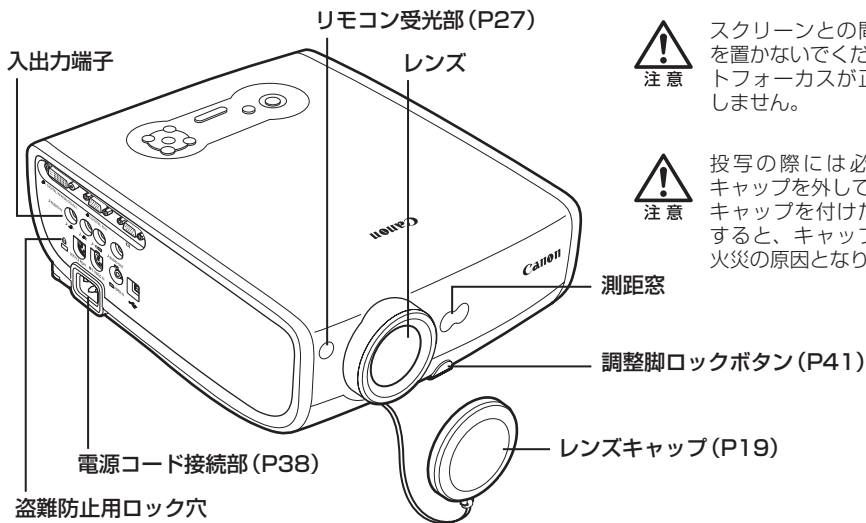


- 収納の方向を間違えて携行した場合、レンズが破損したり、ズーム/フォーカスなどの故障の原因になります。
- 冷却ファンが止まるまでは収納しないでください。

各部のなまえ

プロジェクター本体 (イラストはSX7です)

前面



市販の盗難防止用ワイヤケーブルを接続できます。

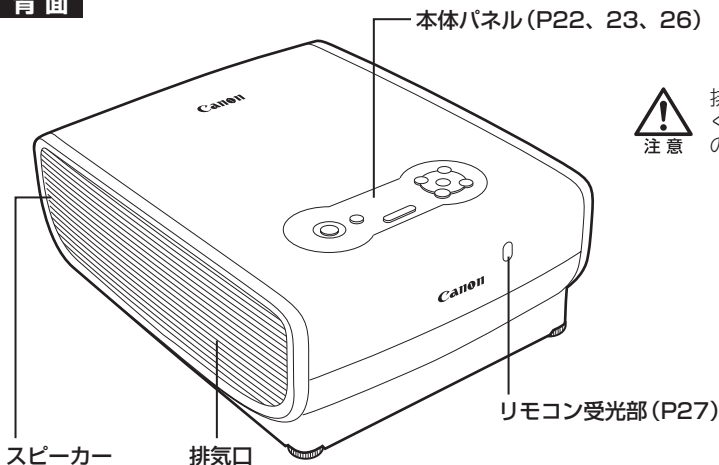


注意
スクリーンとの間に障害物を置かないでください。オートフォーカスが正しく動作しません。



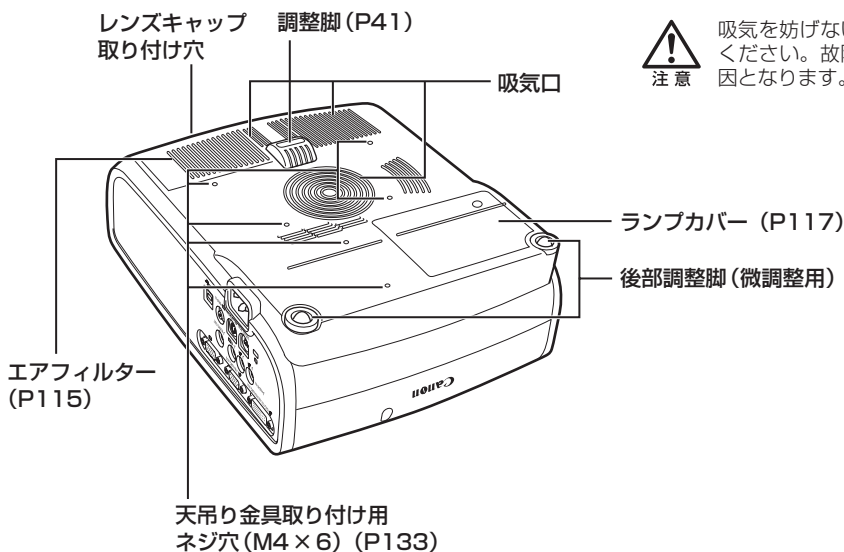
注意
投写の際には必ずレンズキャップを外してください。キャップを付けたまま投写すると、キャップの変形や火災の原因となります。

背面



注意
排気を妨げないようにしてください。故障や火災などの原因となります。

底面

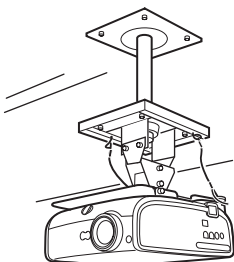


吊り下げ型の設置について

本機は天井から吊り下げてご利用いただくこともできます。

吊り下げには、オプション (別売) の天吊り金具 (品番:RS-CL06) が必要です。

詳しくは、販売店にお問い合わせください。



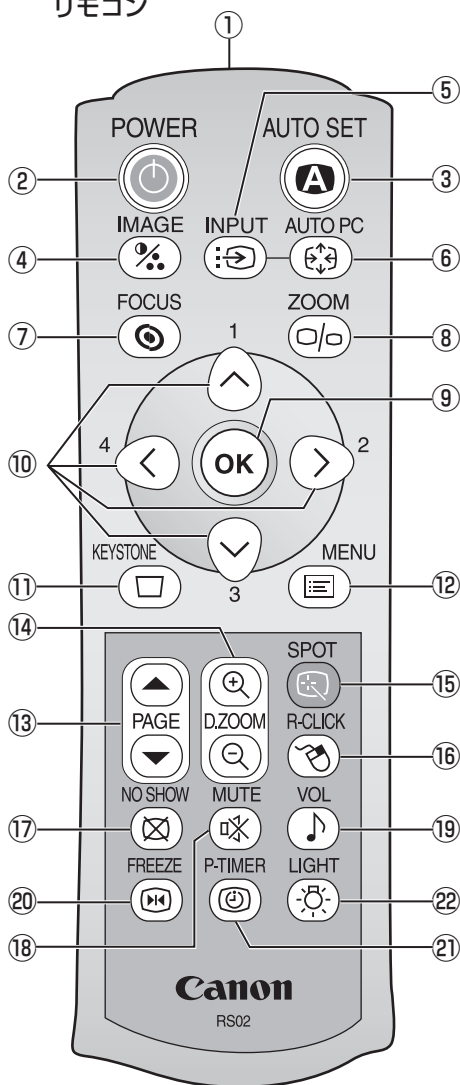
- 必ず専用の天吊り金具を使用してください。
- お客様による天吊り金具の設置は絶対におやめください。



- 本機を吊り下げてご使用になる際は、メニューの [反転表示] で投写画像を反転する必要があります。(P93)

リモコンと本体パネルのボタン

リモコン



本プロジェクターは、リモコンまたは本体パネルのボタンを使って操作します。

リモコンからは、本プロジェクターのすべての機能が利用できます。

①リモコン発光部

リモコンの信号を本体に送ります。

②POWERボタン (P38、58)

電源の入/切を行います。

③AUTO SETボタン (P44、67)

入力信号の選択、フォーカス、キーストーン、スクリーン色補正などの調整を自動で行います (オートセットアップ)。

④IMAGEボタン (P53)

イメージモード (画質) を選びます。

⑤INPUTボタン (P46、48、68)

投写する入力信号を選びます。

⑥AUTO PCボタン (P52)

アナログPC-1/PC-2入力時に、コンピューターの信号に合わせてトラッキングなどを自動で調整します (オートPC)。

⑦FOCUSボタン (P49)

画面のピントを合わせます。

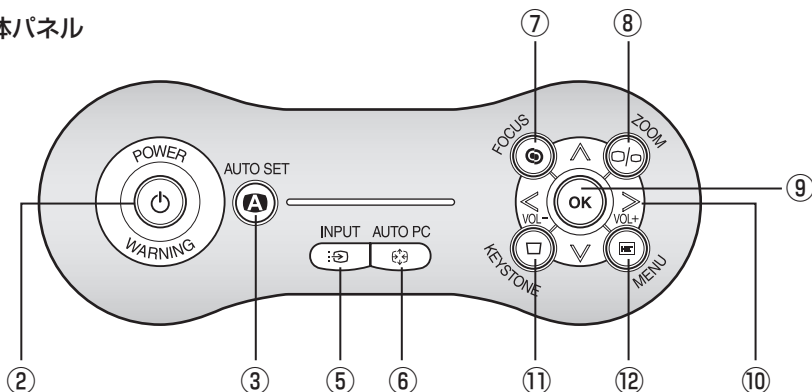
⑧ZOOMボタン (P40)

画面サイズを調整します。

⑨OKボタン (P85)

メニューなどで選んだ項目を確定します。
USB接続時は、マウスの左ボタンとしても使用できます。(P78)

本体パネル



⑩方向ボタン (P83)

メニューなどで上下左右の方向を指定します。USB接続時は、マウスカーソルの移動にも使用できます。

なお、本体パネルでは【<】ボタンで音量を下げ、【>】ボタンで音量を上げることもできます。(P75) キーストーン

⑪ KEYSTONE ボタン (P50、P57)

画面の台形ひずみを調整します (キーストーン調整)。なお [スクリーンアスペクト] で [16:9Dイメージシフト] が選択されている時はDイメージシフト調整画面を表示します。

⑫ MENU ボタン (P83)

投写画面にメニューを表示します。

⑬ PAGE ボタン (P76)

USB接続時に、アプリケーションソフトのページ送りができます。

▼ を押すと1ページずつ送り、▲ を押すと1ページずつ戻ります。

⑭ D.ZOOM ボタン (P77)

デジタルズームで表示を拡大/縮小します。

⊕ を押すと拡大され、⊖ を押すと縮小されます。

⑮ SPOT ボタン (P79)

スポットライト機能が働きます。

アールクリック

⑯ R-CLICK ボタン (P78)

USB接続時に、マウスの右ボタンとして使用できます。

⑰ NO SHOW ボタン (P74)

画像の表示/非表示を切り替えます。

⑱ MUTE ボタン (P74)

音声を一時的に消します。

⑲ VOL ボタン (P75)

音量調整を行います。

⑳ FREEZE ボタン (P75)

映像を静止画にします。

㉑ P-TIMER ボタン (P76)

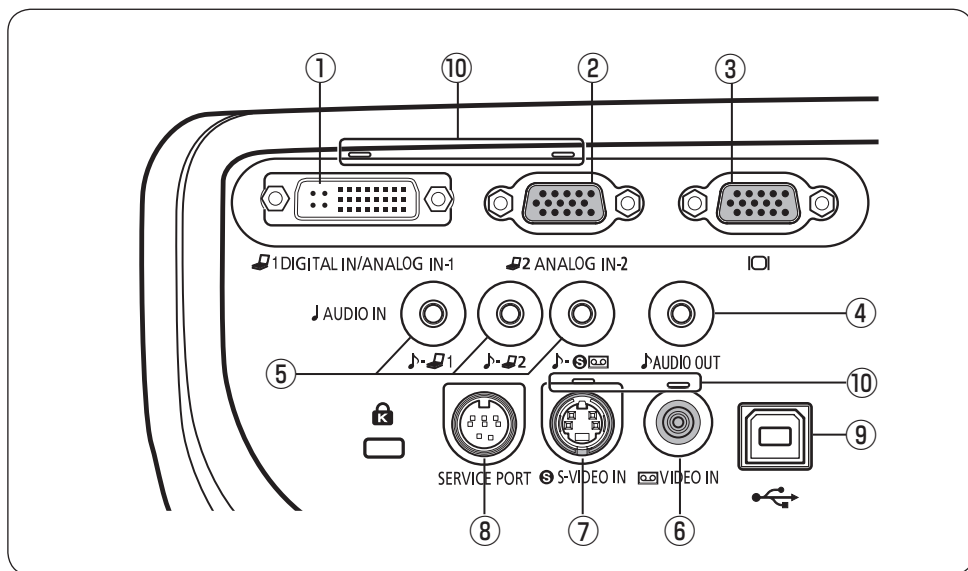
ボタンを押したときからの経過時間が表示されます。

㉒ LIGHT ボタン (P27)

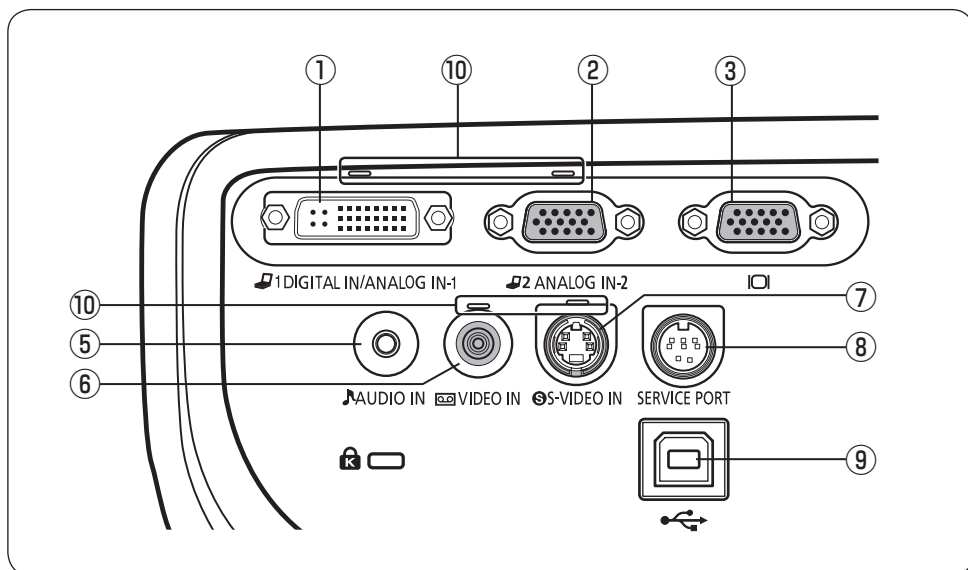
リモコンボタンのライトを点灯/消灯をします。

本体の接続端子

SX7/X700



SX6/SX60



①入力端子-1 (DIGITAL IN/ANALOG IN-1) (P34、35、63)

デジタル信号 (デジタルPC)、アナログPC 信号 (アナログPC-1) の入力端子です。
デジタルコンテンツの映像信号 (デジタルビデオ) の入力端子です。

②入力端子-2 (ANALOG IN-2) (P34、35、62)

アナログPC 信号 (アナログPC-2) の入力端子です。
コンポーネント映像 (コンポーネント) の入力端子です。

③モニター出力端子 (|O|) (P36)

外部モニターに映像を出力するためのアナログPC信号端子です。

④音声出力端子 (AUDIO OUT) SX7/X700のみ (P64)

外部オーディオ機器に音声を出力するための出力端子です。
投写中の映像信号に対応する音声信号が出力されます。

⑤音声入力端子 (AUDIO IN) (P36、37)

SX7/X700 3系統の映像入力に対応する音声信号の入力端子です。

左から「デジタルPC / アナログPC-1」、「アナログPC-2」、「S-ビデオまたはビデオ」に対応する音声信号を入力します。

選択した映像信号に対応する音声が内蔵スピーカーから出力されます。

SX6/SX60

音声信号の入力端子です。

映像の入力信号に関わらず、入力された音声が内蔵スピーカーから出力されます。

⑥ビデオ入力端子 (VIDEO IN) (P64)

コンポジット映像信号 (ビデオ) の入力端子です。

⑦S-ビデオ入力端子 (S-VIDEO IN) (P63)

S-映像信号 (S-ビデオ) の入力端子です。

⑧サービス用端子 (SERVICE PORT)

サービスマン用の端子です。通常は使用しません。

⑨USB 端子 (P78)

コンピューターのマウス操作をプロジェクターのリモコンで行うときに、USB ケーブルでコンピューターと接続します (映像の入力には使用できません)。

⑩入力端子表示ランプ (P46、68)

入力信号の状態をランプの点灯で知らせます。

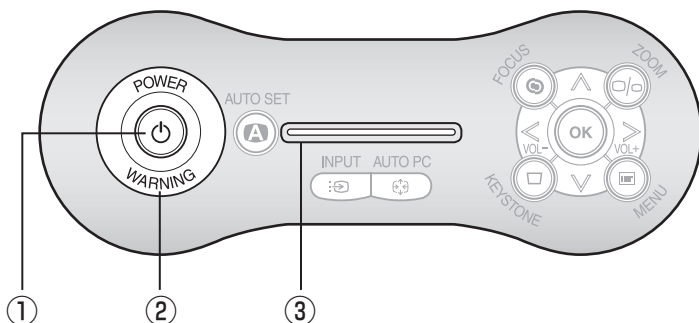
緑に点灯 入力信号が確認され、投写されています。

緑に点滅 入力信号が確認されていますが、投写されていません。

消 灯 入力信号が確認されていません (接続されていません)。

本体パネルの表示ランプ

本体パネル



① POWER ランプ (P38、58、105)

プロジェクターの状態をランプの点灯で知らせます。

赤く点灯

電源を入れることができます。

赤く点滅

電源を切るための処理中(ランプの冷却中)です。

緑に点灯

電源が入っている状態です。

緑に点滅

投写の準備をしています。

赤と緑の点滅(交互) パワー管理の動作中です。

② WARNING ランプ (P120)

プロジェクターの異常を赤いランプの点滅で知らせます。

③ LED イルミネーションランプ (P109)

プロジェクターの状態を3つの青色LEDで知らせます。

左から順に点滅

電源オンの準備中です。

右から順に点滅

電源オフの準備中です。

中央がゆっくり点滅

画面の非表示 (NO SHOW) 中です。

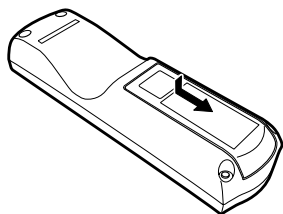
左右がゆっくり点滅

画面の静止 (FREEZE) 中です。

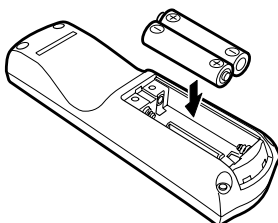
リモコンの準備

電池の入れかた

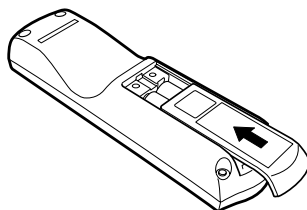
- 1** 電池カバーを開く。
押しながらスライドさせて外します。



- 2** 電池を入れる。
新しい単4乾電池2本を
＋プラスと－マイナスの
向きに注意して入れます。



- 3** 電池カバーを閉じる。

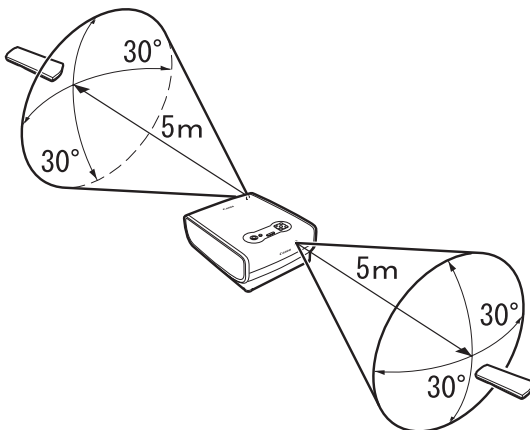


- リモコンの電池は、リモコンの【LIGHT】ボタンで確認できます。ボタンを押してもリモコンのボタンが点灯しない場合や、リモコンでの操作ができない場合は、新しい電池と交換してください。
- プレゼンテーションなどを行う前には、必ずリモコンの電池を確認することをお勧めします。

リモコンで操作できる範囲

リモコンは本体の前面または背面にあるリモコン受光部に向けて操作してください。

- ・ リモコンは本体から5m以内で使用してください。
- ・ リモコンは本体の受光部の正面から30°の範囲で使用してください。



次の場合は、リモコンが操作できないことがあります。

- 本体との間に障害物がある。
- 本体の受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとき。



- リモコンは、赤外光を使用しています。
- 2台のプロジェクターを使用する場合は、リモコンが干渉し合わないようチャンネル設定を切り換えることができます。(P109)

プロジェクターを 設置する

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

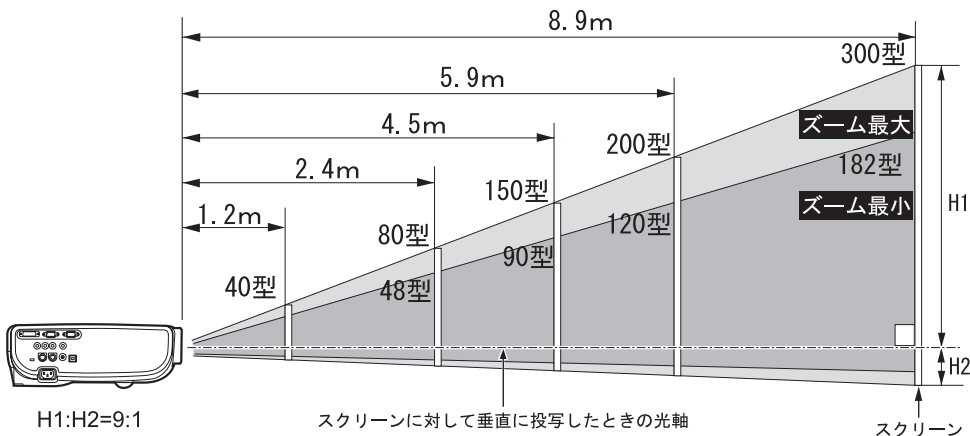
付録

索引

プロジェクターを設置する

スクリーンまでの距離を決める

投写画面のサイズは、プロジェクターのレンズからスクリーンまでの距離で決まります。以下を参考に、設置位置を決めてください。



画面サイズ(型) (幅×高さ cm)	40 81×61	60 122×91	80 163×122	100 203×152	150 305×229	182 370×277	200 406×305	250 508×381	300 610×457
投写距離(m) ズーム最大	1.2	1.8	2.4	3.0	4.5	5.4	5.9	7.4	8.9
投写距離(m) ズーム最小	2.0	2.9	3.9	4.9	7.4	9.0	—	—	—
H1 (cm)	55	82	110	137	206	250	274	343	411
H2 (cm)	6	9	12	15	23	28	30	38	46

H1、H2：スクリーンに対して垂直に投写したときの光軸を境にした上下の高さ

- 投写距離が、約 1.2m～9m になるように設置してください。近すぎるとピントが合わず、遠すぎると画面が暗くなります。
- 表は画面比（アスペクト）がフルスクリーン（4：3）のときのサイズですが、投写の状態によっては実際のサイズと異なる場合があります。
- ご使用のスクリーン（4：3または 16：9）に応じて『スクリーンアスペクト』を設定してください。なお『スクリーンアスペクト』についてはP57、71、97をご参照ください。



- 画面サイズと投写距離の関係については、P127の表をご参照ください。
- 画面サイズはズームでも調整できます。（P40）

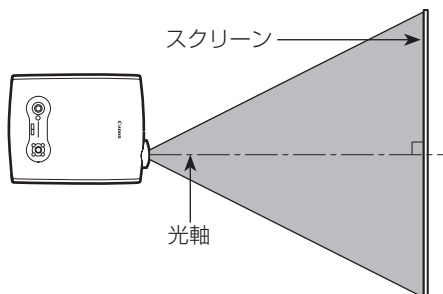
置き場所を決める

スクリーンの正面に置く

プロジェクターは、スクリーンに対してなるべく直角に置いてください。



- スクリーンに対して直角でないと、台形ひずみが出ますが、ある程度のひずみはキーストーン調整で補正できます。(P50)

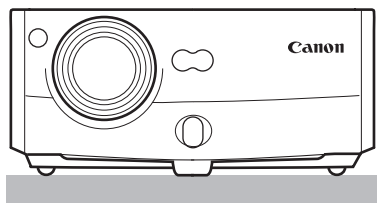


水平な場所に置く

プロジェクターは、なるべく水平に置いてください。



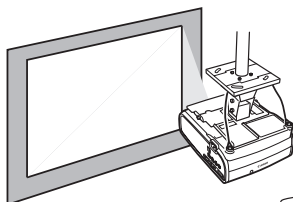
- ある程度の傾きは、後部調整脚で微調整できます。(P41)
- 本体右側の排気口(ファン)、底面の吸気口がふさがれていないことを確認してください。
- スクリーンには、太陽光線や照明が直接当たらないようにしてください。明るい部屋では、照明を落とすなどして部屋の明るさをやや落とすと見やすくなります。



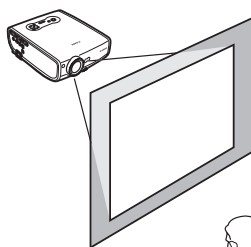
天吊り／リア投写について

本プロジェクターは、天井から逆に吊り下げて投写(天吊り)することや、透過型スクリーンを使用し、スクリーン裏側から投写(リア投写)することができます。

なお、天吊りやリア投写の場合は、画像を上下、左右に反転させて投写する必要があります。(P93)



天吊り投写



リア投写

コンピューターの 画像を投写する

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

索引

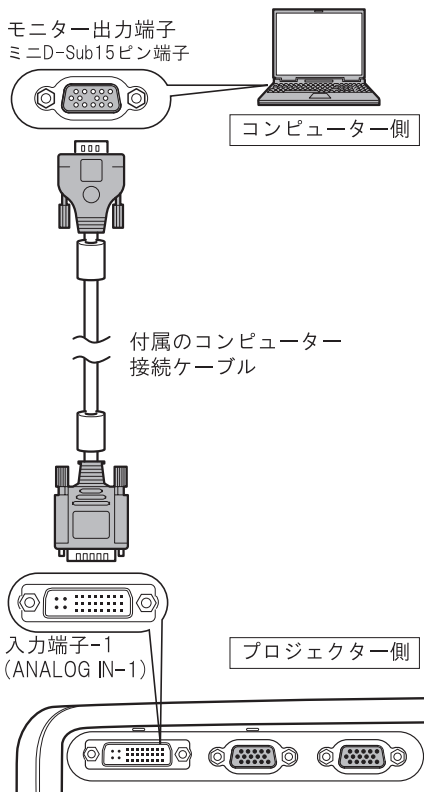
コンピューターの画像を投写する

コンピューターを接続する

プロジェクターとコンピューターを接続します。

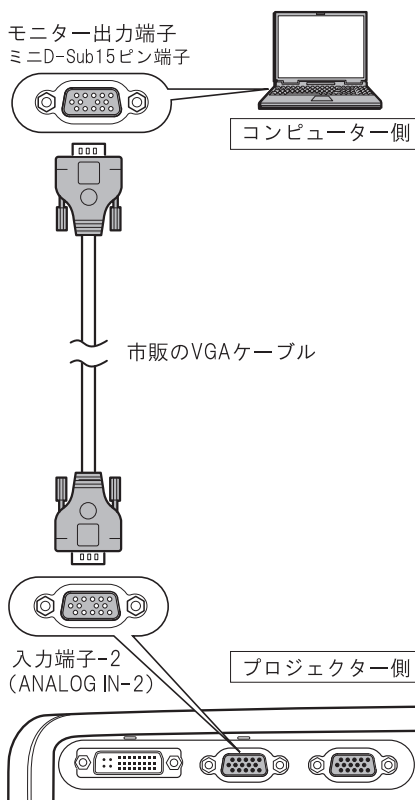
映像端子への接続

付属のコンピューター接続ケーブルで接続



入力信号：[アナログPC-1]を選択 (P46)

VGAケーブルで接続



入力信号：[アナログPC-2]を選択 (P48)

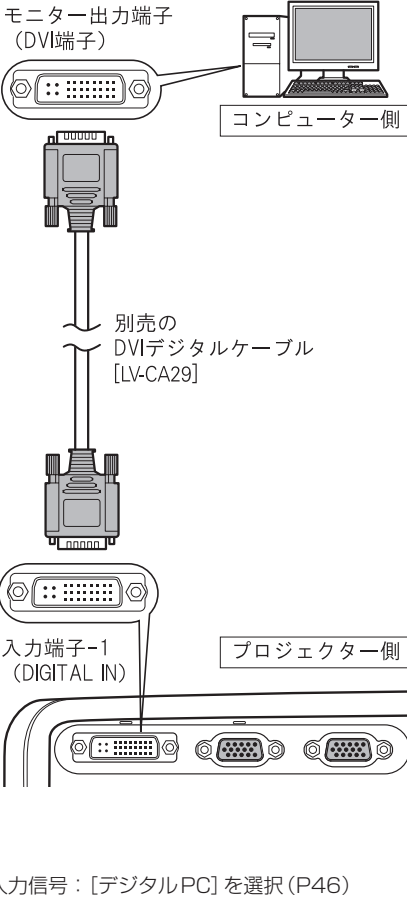


- 高精細な画像を高画質で投写するために、高性能ケーブルのご使用をお勧めします。
- コンピューターのコネクター形状によっては、変換アダプターが必要な場合があります。
詳しくは、コンピューターの使用説明書をご参照ください。

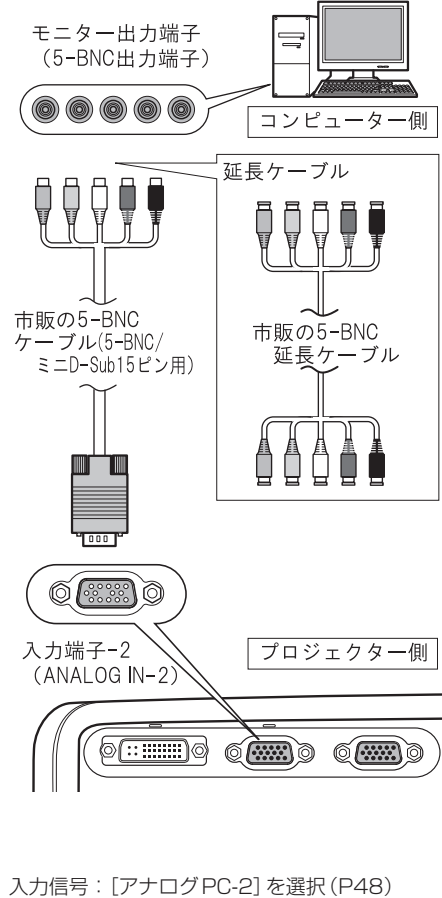


- プロジェクターとコンピューターの両方の電源を切ってから接続してください。
- デジタルPCで1280×1024ドットまたは1400×1050ドットの投写を行う場合、コンピューターやDVIケーブルの種類によっては画像が正しく投写されない場合があります (SX7/SX6/SX60のみ)。
- USB端子はリモコンのマウス操作用です。USBケーブルの接続では画面は投写できません。

DVIケーブルで接続

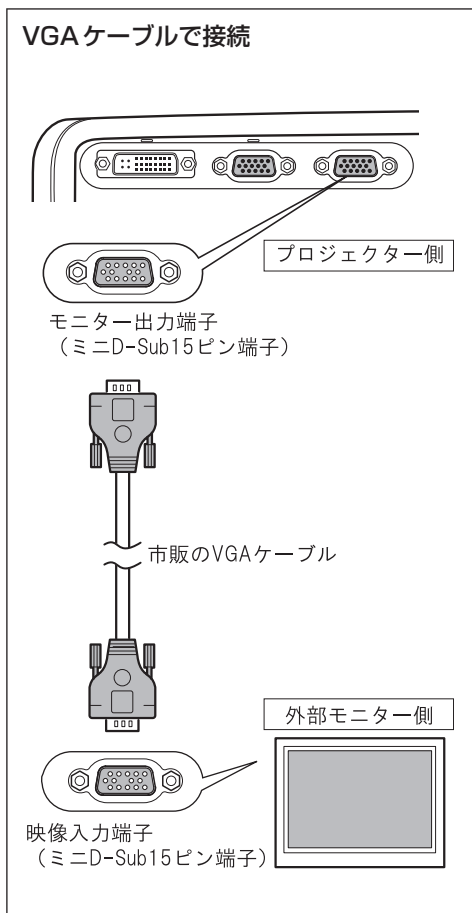


5-BNCケーブルで接続



外部モニターへの接続

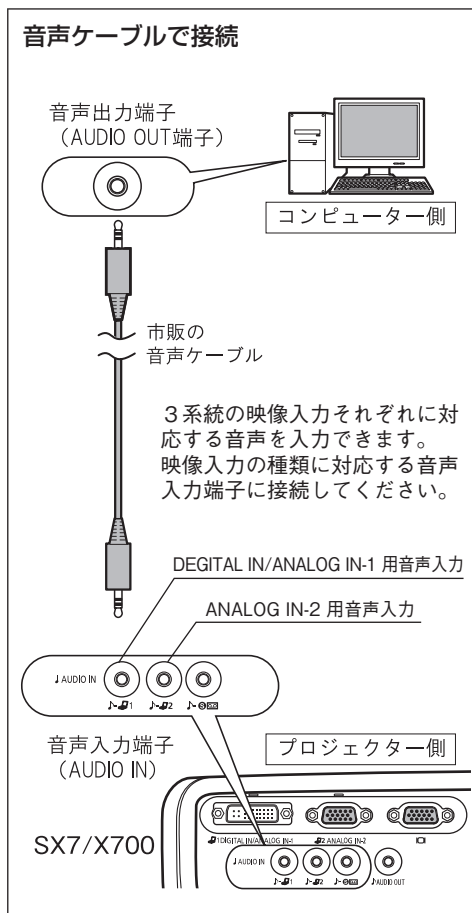
外部モニターに投写画面を表示できます。



- 外部モニター 1台を接続できます。複数のモニターに接続するような使い方はできません。
- 外部モニターには投写されている映像が出力されます。
- 入力信号がデジタルPCのときは、外部モニターへの出力はできません。

音声入力端子への接続(SX7/X700)

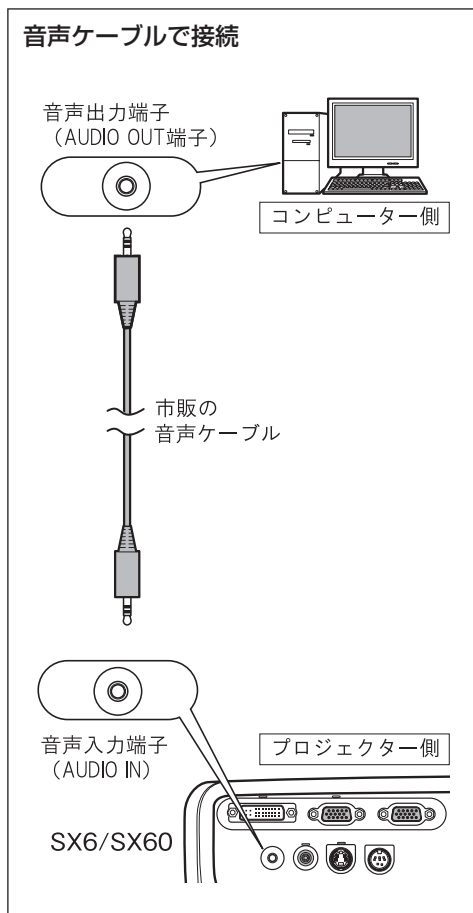
本機のスピーカーを使用するときは、各映像入力に対応する音声入力端子に音声ケーブルで接続します。



- スピーカーからは、現在選択されている映像信号に対応する音声が入力されます。
- 音声ケーブルは、抵抗が内蔵されていないものをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。
- 本機の音声を外部AV機器に出力するときは、音声ケーブルで音声出力端子にAV機器を接続します。(P.64)
- 内蔵スピーカーはモノラル出力です

音声入力端子への接続(SX6/SX60)

本機のスピーカーを使用するときは、音声入力端子に音声ケーブルを接続します。



- 音声ケーブルは、抵抗が内蔵されていないものをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。
- 内蔵スピーカーはモノラル出力です。
- スピーカーからは映像の入力信号に関係なく、音声ケーブルを接続した機器の音声が出力されます。

電源を入れる

電源コードをつなぎ、プロジェクターの電源を入れると、投写が始まります。



- 電源を切った後しばらくは、電源を入れ直すことができません。光源ランプの冷却が終わって [POWER] ランプが赤く点灯するまでお待ちください。



注意

アース端子を接続してください

電源プラグのアース端子を設置しないと、コンピューターの電波障害やテレビ・ラジオの受信障害の原因となることがあります。

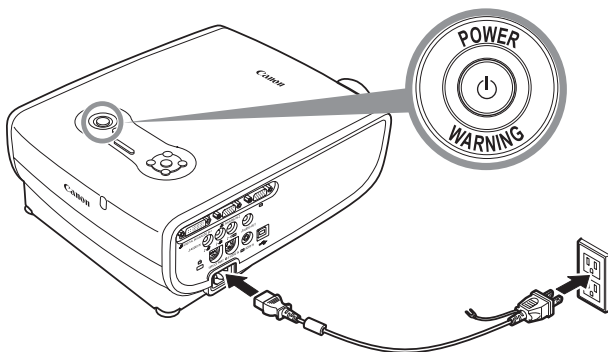
長期間で使用にならないときは電源プラグを抜いてください

本機は、電源が切れている状態でも約7Wの電力が消費されています。安全、故障防止と節電のため、ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。

1

電源コードを接続する。

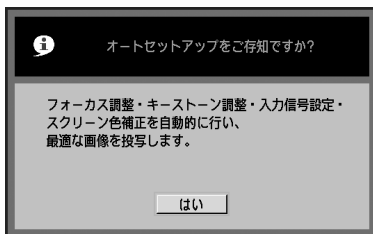
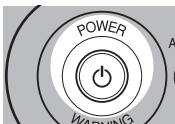
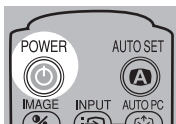
コネクタは奥までしっかりと差し込んでください。
[POWER] ランプが赤く点灯します。



2

[POWER] ボタンを押す。

[POWER] ランプが緑色に点滅し、点灯に変わります。



カウントダウン表示 (約20秒間) が行われた後、オートセットアップについてのガイドメッセージが表示されます。

画面のピントが合わずメッセージが読めないときは、オートセットアップまたはピント調整の

操作でピントを合わせてください。(P44、49)

投写が始まるまでの間、本体のLEDイルミネーションランプが青く点滅します。

すぐに投写を始めたいときは、【OK】ボタンを押します。



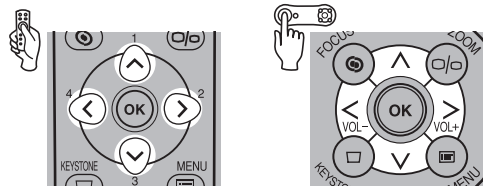
- パスワードの入力画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。(P110、111)
- 【POWER】ボタンを使わずに、電源コードを接続するだけで電源を入れることができます。(ダイレクトパワーオン)。(P106)
- カウントダウンの間、独自のロゴを表示できます。(P96)
- 本体パネルのLEDイルミネーションランプは消すことができます。(P109)
- カウントダウン表示は消すことができます。(P96)

言語を選ぶ画面が表示されたとき

ご購入後に初めて電源を入れたときは、メニューなどに表示される言語を選ぶ画面が表示されます。

次の手順で言語を選んでください。

方向ボタンで言語を選び、【OK】ボタンを押します。



オレンジの項目が選ばれます

- 画面のピントが合っていない場合は、ピント調整の操作でピントを合わせてください。(P49)
- 言語は後からメニューを使って、変更することもできます。(P107)

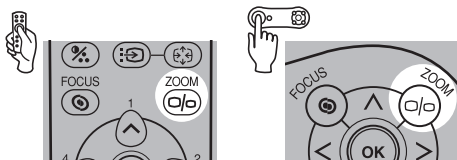
画面のサイズと高さを調整する

画面のサイズを調整する(ズーム)

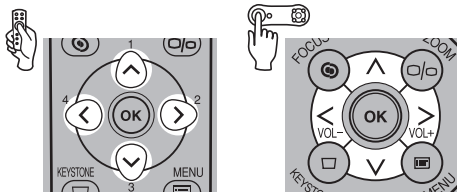
スクリーンの大きさに合わせて画面サイズを調整します。

1 [ZOOM] ボタンを押す。

「ズーム調整」画面が表示されます。



2 画面サイズを調整する。



大きくする

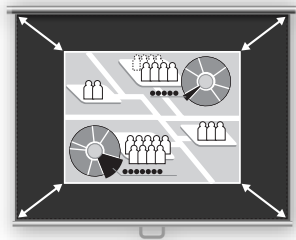
おおまかに調整する 【∧】

微調整する 【>】

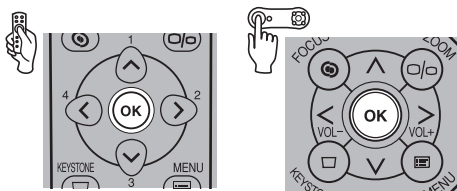
小さくする

おおまかに調整する 【∨】

微調整する 【<】



3 [OK] ボタンを押す。



● ズームで調整しきれない場合は、プロジェクターの設置位置を変えてください。(P30)

画面の高さを調節する

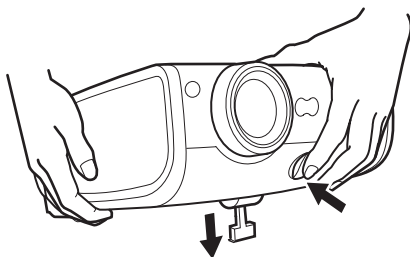
プロジェクターの調整脚を使って、投写の角度を調整します。

1 本体の前方を持ち上げて調整脚ロックボタンを押す。

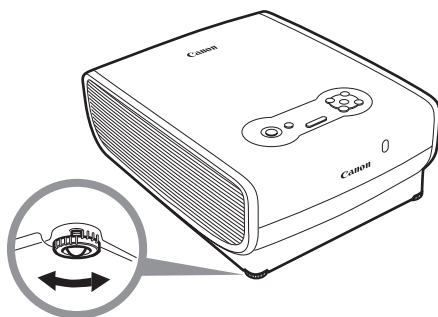
調整脚が出ます。

2 調整脚ロックボタンを押したまま、画面の高さを合わせてロックボタンを放す。

調整脚が固定されます。



- 調整脚は最大10°まで上がります。
- プロジェクターの左右の傾きが大きいときは、左右の後部調整脚を繰り出して高さを調整してください。片側で最大10mmまで高さを微調整できます。

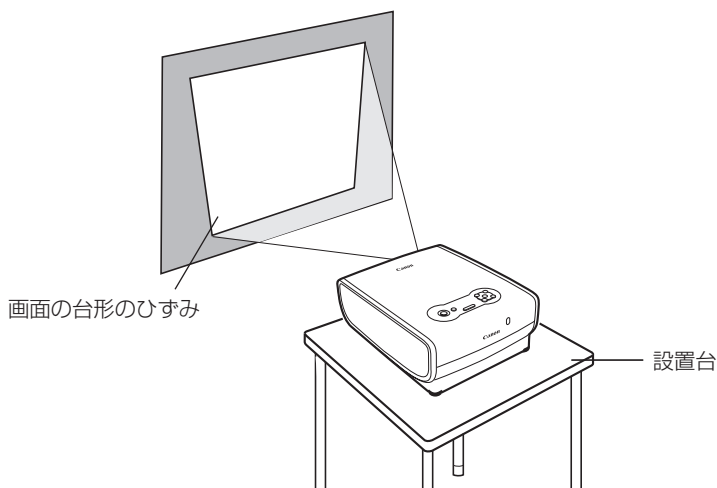


コンピューターの画像を投写する

画面の台形ひずみが大きいとき

調整脚を上げすぎると、画面が台形にひずみます。ひずみが大きい場合は、本体を設置台に乗せるなどして高さを調整してください。

なお、台形ひずみはオートキーストーンやキーストーン調整で補正することができます。(P44、50、67)



コンピューターの準備を行う

コンピューターの出力解像度を決める

本プロジェクターの表示性能を發揮するために、コンピューターの出力信号の解像度を最適な設定に調整してください。

Windows Vistaの場合

1. スタートメニューから [コントロールパネル] を選び、[コントロールパネルホーム] の [デスクトップのカスタマイズ] から [画面の解像度の調整] を選びます。
2. [解像度] のスライダを移動して「1400 × 1050ピクセル」(X700の場合は「1024 × 768ピクセル」)を選びます。
この設定がない場合は、1400 × 1050以下(X700の場合は1024 × 768以下)で一番大きな解像度を選びます。
3. [OK] ボタンをクリックします。



Windows XPの場合

1. デスクトップ上を右クリックして表示されたメニューから [プロパティ] を選び、[画面のプロパティ] を表示します。
2. [設定] タブを選び、[画面の解像度] のスライダを移動して「1400 × 1050ピクセル」(X700の場合は「1024 × 768ピクセル」)を選びます。
この設定がない場合は、1400 × 1050以下(X700の場合は1024 × 768以下)で一番大きな解像度を選びます。
3. [OK] ボタンをクリックします。



Macintosh OSXの場合

1. アップルメニューを開き、[システム環境設定] を選びます。
2. システム環境設定ウィンドウの [ディスプレイ] アイコンをクリックし、ディスプレイの画面を表示します。
3. [ディスプレイ] タブを選び、[解像度] の一覧から「1400 × 1050」(X700の場合は1024 × 768)を選びます。
この設定がない場合は、1400 × 1050以下(X700の場合は1024 × 768以下)で一番大きな解像度を選びます。
4. ウィンドウを閉じます。

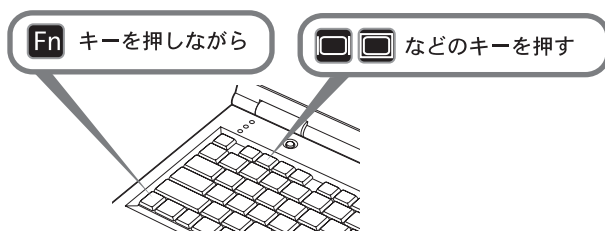


SX7/SX6/SX60をお使いの場合

- コンピューターの解像度をSXGA(1280 × 1024)またはWXGA(1280 × 768)にしたときは、アスペクトの設定を[リアル]にすることをお勧めします。(P86)

ノートパソコンの画像を投写する

ノートパソコンの多くは、プロジェクターに投写する際に、外部モニターへの出力切り替えが必要です。基本的には、キーボードの [Fn] キーを押しながら、ファンクションキー（[F1]～[F10]）に [LCD]、[VGA]、または外部モニターを表すアイコンのあるキーを押すと、外部モニターへ切り替わります。



パソコンメーカーとキー操作の例は下表のとおりです。

メーカー	キー操作	メーカー	キー操作
DELL	[Fn]+[F8]	MITSUBISHI	[Fn]+[F5]
EPSON	[Fn]+[F8]	NEC	[Fn]+[F3]
FUJITSU	[Fn]+[F10]	Panasonic	[Fn]+[F3]
GATEWAY	[Fn]+[F3]	SHARP	[Fn]+[F5]
HITACHI	[Fn]+[F7]	SONY	[Fn]+[F7]
HP	[Fn]+[F4]	SOTEC	[Fn]+[F3]
IBM	[Fn]+[F7]	TOSHIBA	[Fn]+[F5]



- 表に記載されていない機種については、コンピューターの使用説明書をご参照ください。
- 同じメーカーでも機種によりキー操作が異なる場合があります。

オートセットアップを行う

コンピューターの画像を投写する場合に、オートセットアップを使用すると、次のような一連の画面の調整を自動で行うことができます。通常は、入力信号が合っていれば、この操作だけで、投写を始められます。

オートフォーカス

ピントを自動で合わせます。

オートキーストーン

画面の台形ひずみ(縦方向)を自動で補正します。

オートインプット

映像の入力信号を自動で設定します。

自動スクリーン色補正*

スクリーンの色補正(ホワイトバランス)を自動で行います。

*工場出荷設定では実行されません。



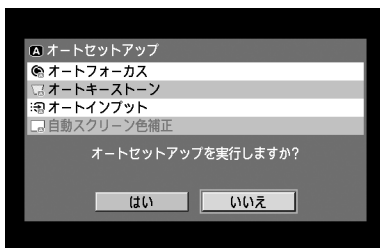
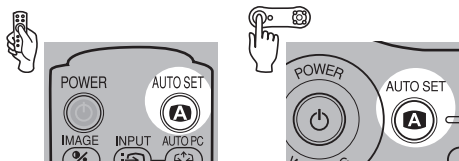
- 上の4つのうち、あらかじめメニューで設定したものがオートセットアップで実行されます。工場出荷時は、「オートインプット」「オートフォーカス」と「オートキーストーン」を行う設定になっています。
- それぞれの機能は、手動で設定/調整もできます。なお、手動で設定/調整しているときに、【AUTO SET】ボタンを押すと、その機能を単独で自動設定/調整できます。
- 黒板(濃緑色)をスクリーンとして使用するときは、[スクリーン色補正]で「黒板」を選んでください。(P94)
- 部屋の明るさやスクリーンの状態によっては、オートフォーカスやスクリーン色補正が適切に行われないことがあります。その場合は手動で調整してください。
- [スクリーンアスペクト]を[16:9]にしたときは[自動スクリーン色補正]でのスクリーン色補正が適切に行われないことがあります。その場合は手動で調整してください。
- [スクリーンアスペクト]を[16:9 Dイメージシフト]にしたときはオートセットアップは働きません。
- 真上および真下方向で投写したときは「オートフォーカス」および「オートキーストーン」はできません。

1

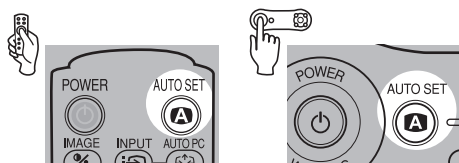
入力信号を選ぶ。

コンピューターとの接続を変えるなど、入力信号が変わったときは、オートセットアップの前にP46『入力信号を選ぶ』の操作で入力信号を選んでください。前回の投写より入力信号に変更がなければ、この操作は不要です。

2 【AUTO SET】ボタンを押す。 オートセットアップ確認画面が表示されます。



3 もう一度【AUTO SET】ボタンを押す。 黒字で表示された機能が自動実行されます。



- 【<】ボタンで「はい」を選び、【OK】ボタンを押しても実行できます。

入力信号を選ぶ

投写する入力信号を選びます。

入力信号には次の3種類があります。

アナログPC-1：アナログ信号 DVI-ミニD-Sub15ピン変換ケーブル(付属のケーブル)で接続

デジタルPC：デジタル信号 DVIデジタルケーブルで接続

アナログPC-2：アナログ信号 VGAケーブル、5-BNCケーブルで接続

コンピューターとの接続を変えるなど、入力信号が変わったときは、オートセットアップの前に次の操作で入力信号を選んでください。



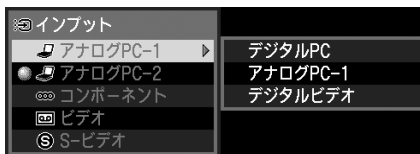
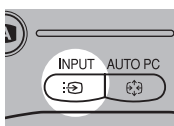
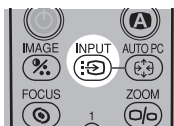
- ケーブルが接続され、入力信号が確認できると端子のLED（緑色）が点滅します。また、画像が投写されている端子のLEDは点灯状態になります。(P24、25)
- 入力端子-1にDVIケーブルで接続する場合、コンピューターの設定(デジタル信号/アナログ信号)に合わせてプロジェクターの入力信号をINPUTで設定してください。

■ アナログPC-1またはデジタルPCを選ぶ

1

【INPUT】ボタンを押す。

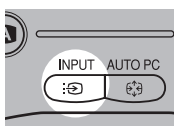
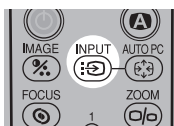
「インプット」画面が表示されます。



2

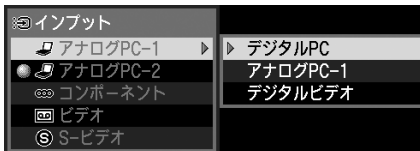
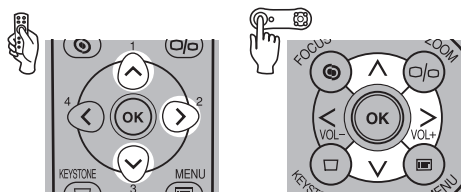
【INPUT】ボタンでメニューの**アナログPC-1**または**デジタルPC**を選ぶ。

ボタンを押すたびに選択可能な入力信号が上から順に選ばれます。

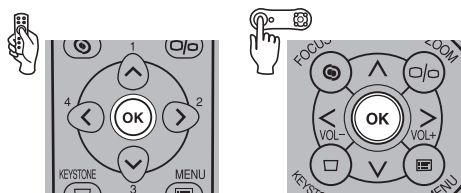


- 【A】 / 【M】ボタンを使うと常にすべての入力信号が選べます。

- 3** 左のリストに入力信号がない場合は、【>】ボタンを押し、【V】 / 【A】ボタンで右のリストから選ぶ。



- 4** 【OK】ボタンを押す。



■ アナログPC-2を選ぶ

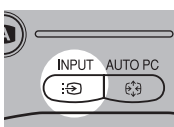
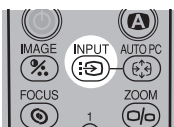


● 入力端子-2を使用するときは、[アナログPC-2]を選んでください。

1

[INPUT] ボタンを押す。

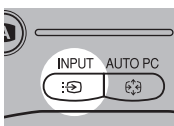
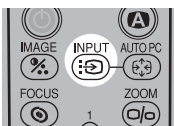
「インプット」画面が表示されます。



2

[INPUT] ボタンでメニューの上から2番目の項目を選ぶ。

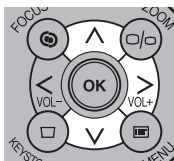
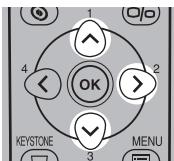
ボタンを押すたびに選択可能な入力信号が上から順に選ばれます。



● [A] / [V] ボタンを使うと常にすべての入力信号が選べます。

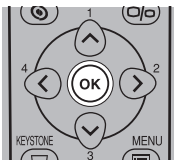
3

アナログPC-2が左のリストに表示されていない場合は、[>] ボタンを押し、[V] / [A] ボタンで右のリストから選ぶ。



4

[OK] ボタンを押す。



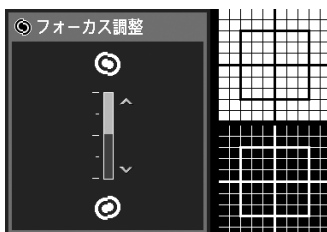
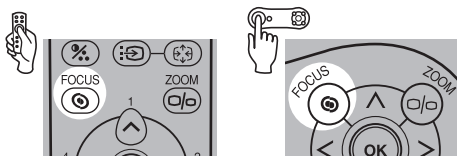
ピントを合わせる

画面のピントを合わせます。

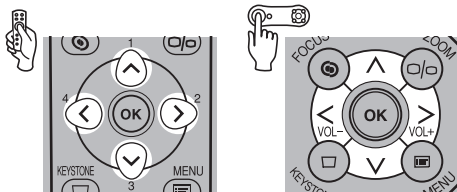
オートセットアップ(オートフォーカス)で正しく調整されない場合は、この手順で手動調整してください。

1 【FOCUS】ボタンを押す。

「フォーカス調整」画面が表示されます。



2 方向ボタンでピントを合わせる。



おおまかに調整する 【↑】【↓】

微調整する 【<】【>】



- ここで【AUTO SET】ボタンを押すとオートフォーカスが働きます。
ただし【スクリーンアスペクト】を【16:9 D イメージシフト】にしたときは、オートフォーカスは働きません。

3 【OK】ボタンを押す。

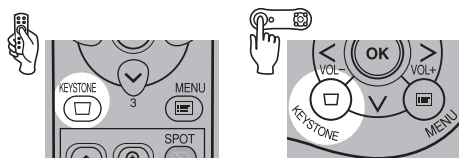


- 投写距離が、約 1.2m ~ 9mの範囲を超えるとピントが合わない場合があります。
調整しきれない場合は、プロジェクターの設置位置を変えてください。(P30)

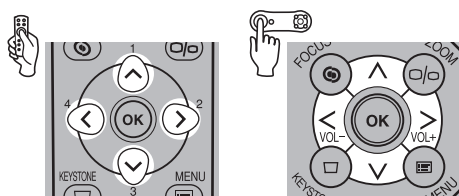
画面の台形ひずみを調整する

スクリーンに投写した画面が台形状にひずんでいる場合は、キーストーン調整を行います。オートセットアップ(オートキーストーン)は縦方向が自動調整されます。縦方向が正しく補正されない場合や横方向を調整する場合は、この手順で調整してください。

- 1 **【KEystone】ボタンを押す。**
「キーストーン調整」画面が表示されます。

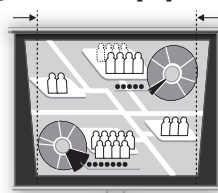


- 2 **方向ボタンで調整する。**

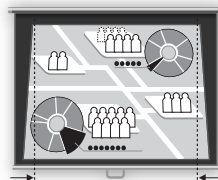


- ここで【AUTO SET】ボタンを押すとオートキーストーンが働き、自動調整されます。

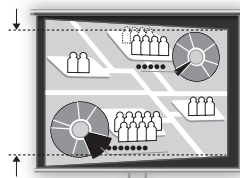
上側をせばめる 【^】



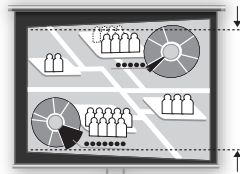
下側をせばめる 【v】



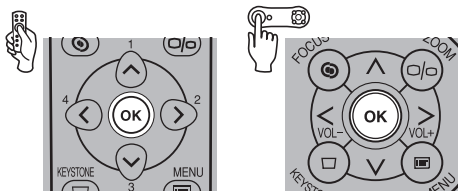
左側をせばめる 【<】



右側をせばめる 【>】



3 【OK】ボタンを押す。



- キーストーン調整の状態は記憶されます。設置場所が同じであれば調整し直す必要はありません。
- キーストーン調整では、信号がデジタル処理されるため、元の画像と見え方が異なることがあります。
- キーストーン調整を行うと、画面の縦横比が変わることがあります。
- キーストーン調整量は上下、左右とも最大で $\pm 20^\circ$ です。なお調整量は光学ズーム、入力信号、上下左右調整の組み合わせなどの条件により $\pm 20^\circ$ より小さくなります。
- 調整しきれない場合は、プロジェクターの設置位置を変えてください。(P30)
- キーストーンの調整を0に戻す場合は、【KEYSTONE】ボタンを再度押して[キーストーンリセット]画面を表示させ、【<】ボタンで[はい]を選び【OK】ボタンを押します。
- [スクリーンアスペクト]を[16:9 Dイメージシフト]にしたときはキーストーン調整はできません。スクリーンに対して垂直に投写してください。

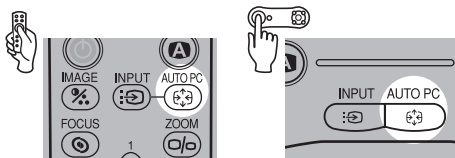
コンピューター画像の自動調整を行う (AUTO PC)

オートPC機能を使用すると、信号形式 (SXGA+、XGAなど) に合わせて、ドット数やトラッキングなどの状態を最適に調整できます。

[オートセットアップ]で正常に投写されている場合は、オートPC機能による調整は必要ありません。オートPC機能は、入力信号が[アナログPC-1]または[アナログPC-2]のときに使用できます。

1 【AUTO PC】ボタンを押す。

オートPC機能が働き、画像が正しく表示されます。



- コンピューターによっては、オートPC機能で最適化されないことがあります。この場合は、メニューを使って入力信号の設定 (入力信号選択、総ドット数、トラッキング、水平/垂直位置、水平/垂直表示ドット数など) を行う必要があります。(P87、89～91)

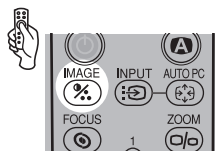


- 最後に使用した信号形式は入力信号 (アナログPC-1またはアナログPC-2) ごとに記憶されます。同じコンピューターに接続して使用する場合は、入力信号を選ばだけで前回調整された状態で投写できます。

画質のモードを選ぶ (IMAGE)








イメージモード(画質)は、投写する画像の内容に合わせて選べます。また、画質(明るさ、コントラスト、シャープネス、ガンマ調整、色調整など)は、ユーザーの好みに合わせて細かく調整できます。

1 [IMAGE] ボタンを押す。



(SX7/SX6)

イメージモードの選択画面が表示され、ボタンを押すたびに、次のモードが順に切り換わります。

-  **[スタンダード]** 白の色味を重視した、オリジナルに近い画質で投写します。明るい部屋でのテレビ番組、DVDなどによる動画鑑賞にも適しています。
-  **[プレゼンテーション]** プレゼンテーションに適した画質で投写します。明るさを重視した画質による動画の投写にも適しています。
-  **[ムービー]** あらゆる動画に適した画質で投写します。薄暗い部屋でも手軽にシアターの雰囲気を楽しめる明るさです。
-  **[ムービー&フォト]** デジタルカメラなどで撮影した動画や画像に適した画質で投写します。
-  **[sRGB]** Windows 標準の色空間 (カラースペース) を使用した表示モードで投写します。
sRGB 対応のデジタルカメラなどの画像の投写に使用できます。
-  **[AdobeRGB]** アドビシステムズ社の色空間 (カラースペース) を使用した表示モードで投写します。sRGB よりも広い色域であるため、色再現がより忠実です。
-  **[ホームシアター]** 部屋を暗くして本格的な映画鑑賞を行うのに適した画質で投写します。

SX7/SX6	SX60	X700
スタンダード	スタンダード	スタンダード
プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーション
ムービー&フォト	ムービー	ムービー
AdobeRGB	ホームシアター	sRGB
sRGB	sRGB	



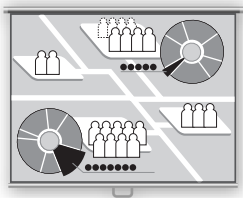
- それぞれのモードでは次のような細かい調整ができます。調整方法については「イメージ調整メニュー」をご参照ください。(P98～104)
 - ・ 明るさ 明るすぎる、暗すぎるときに調整します。
 - ・ コントラスト 全体の明るさ、暗さにメリハリがないときに調整します。
 - ・ シャープネス ぼやけた画像をくっきりさせたいときに調整します。
 - ・ ガンマ 明るいところや暗いところがはっきりしない画像を調整します。
 - ・ 色調整 色の濃さや色合いを調整します。
 - ・ 高度な調整 色が違って見えるときに調整します。
- ユーザーが調整した画質の状態は、入力信号ごと、画質モードごとに記憶されます。一度お好みの画質に調整しておけば、いつでもその状態で投写できます。
- イメージモードは、メニューからも設定できます。メニューの [イメージモード設定] の項をご参照ください。(P98)

画面の表示モードを選ぶ(アスペクト)

コンピューター画面の縦横の比率(アスペクト比)や解像度に応じて、投写方法を次の4つから選ぶことができます。

- アスペクトの設定は、メニューを使って設定します。メニューの[アスペクト]の項をご参照ください。(P86)
- [スクリーンアスペクト]の設定により、選択できるモードは異なります。詳しくは[スクリーンアスペクト]の項をご参照ください。(P57)

■フルスクリーン



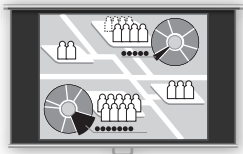
解像度が横4：縦3 (SXGA+[1400×1050ドット]やXGA[1024×768ドット]など)のコンピューター画面を投写するときを選びます。

解像度が横5：縦4 (SXGA[1280×1024ドット]など)のコンピューター画面の場合は、縦または横方向が圧縮された画像になります。

通常はこのモードをご使用ください。

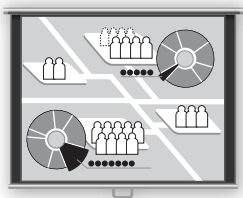
なお[スクリーンアスペクト]が[16:9]または[16:9 Dイメージシフト]のときはメニュー画面に[フルスクリーン]は表示されません。

■4:3



[スクリーンアスペクト]で[16:9 Dイメージシフト]を選んだとき、16:9のスクリーンで解像度が横4：縦3のコンピューター画面を投写することができます。

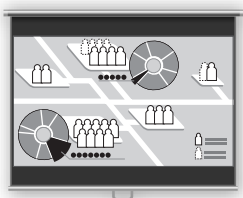
■オート



解像度が横5：縦4 (SXGA) や、ワイド画面を投写するときを選びます。

コンピューターの画面の横または縦幅に合わせた画像になるため、画面の上下または左右に、画像の写らない部分ができます。

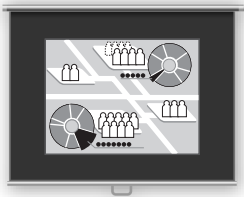
■ワイド



解像度が横16：縦9のコンピューター画面を投写するときを選びます。

コンピューターの画面の横幅に合わせた画像になるため、画面の上下に画像の写らない部分ができます。

■リアル



コンピューターの画面をオリジナルサイズで写したいときに選びます。

画像処理が行われないため、鮮明な画像が得られます。



- コンピューターの画面の解像度が、1400×1050ドット(X700の場合は1024×768ドット)を超える場合は、[リアル]を選べません。投写の前にコンピューターを低い解像度に再設定してください。
- アスペクトの設定によっては、投写画面の上下、左右に画像のない部分ができます。

投写画面の比率を選ぶ(スクリーンアスペクト)

投写するスクリーンの縦横の比率(アスペクト比)に応じて、投写画面の比率を次の3つから選ぶことができます。

[スクリーンアスペクト]を設定することで、スクリーンを最大に活かした効率の良い投写ができます。

- スクリーンアスペクトの設定は、メニューを使って設定します。メニューの[スクリーンアスペクト]の項をご参照ください。(P97)

■ 4 : 3

スクリーンのアスペクト比が4 : 3のときに選びます。

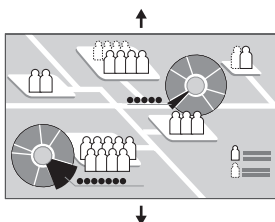
■ 16 : 9

スクリーンのアスペクト比が16 : 9のときに選びます。



- [アスペクト]は自動的に[ワイド]が設定されます。
- [自動スクリーン色補正]ではスクリーン色補正が適切に行われなかったりすることがあります。その場合は手で調整してください。(P94)

■ 16 : 9 Dイメージシフト



スクリーンのアスペクト比が16 : 9のときに選びます。キーストーン調整なしのゆがみのない画面で、上下方向に移動・微調整ができます。

画面の移動は次の手順で行います。

- 1 リモコンまたは本体パネルの【KEYSTONE】ボタンを押してDイメージシフト調整画面を表示します。
- 2 リモコンまたは本体パネルの【V】 / 【H】ボタンで画面の上下位置を調整します。
- 3 設定が終わったら【OK】ボタンを押します。

なおこのモードで4 : 3の画面を投写するときは、[アスペクト]で[4 : 3]を選んでください。(P55)



- キーストーン調整はできません。スクリーンに対して垂直に投写してください。
- [オートセットアップ]機能の[オートフォーカス]、[オートキーストーン]、[自動スクリーン色補正]はできません。
- [起動時画面]、[無信号時画面]、[NO SHOW時画面]で表示する画像の登録はできません。
- [SPOT]機能は使用できません。

電源を切る



- 電源を入れた後、ランプが安定しない状態で電源を切ると、ランプの寿命を縮める原因になります。電源を入れたら5分以上経ってから切るようにしてください。
- 電源切後に再度電源を入れる場合は、5分以上経ってから電源を入れるようにしてください。電源切後すぐに電源を入れると、ランプの寿命を縮める原因になります。
- 連続使用は、ランプおよび内部光学部品の寿命を縮める原因になります。

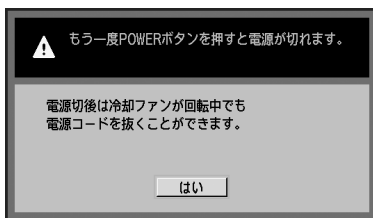
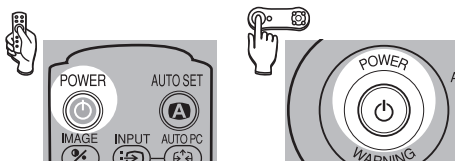


- 電源を切ると、高温になったランプの冷却が行われます。このため、冷却中は、再度電源を入れることができません。

1

【POWER】ボタンを押す。

画面にガイドメッセージが出ます。



投写を続ける場合は、メッセージが消えるまで（約4秒間）待つか、【POWER】ボタン以外のボタンを押します。

2

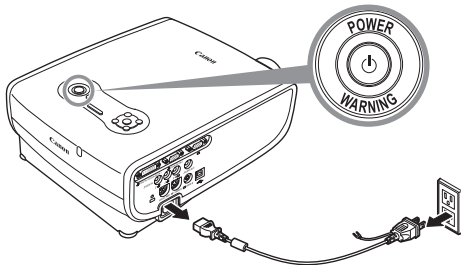
メッセージ表示中に、もう一度【POWER】ボタンを押す。

ランプが消え、【POWER】ランプが赤く点滅してランプの冷却が始まります。

3

電源プラグをコンセントから抜く。

電源プラグを抜いてもランプの冷却は行われます。



- 使用後すぐにプロジェクターを持ち運ぶことができます。（『オフ&ゴー』機能）
- 【POWER】ボタンを使わずに、電源コードを抜くだけで電源を切ることができます。
- 電源プラグが接続されている場合は、本体パネルのLEDイルミネーションランプが点灯して、ランプの冷却中であることをお知らせします。

省電力のモードを使う (パワーマネージメント)

入力信号がない状態が続いたときにランプを自動的に消す、省電力のモード (パワーマネージメントモード) があります。

パワーマネージメントモードを使用する設定にすると、入力信号がないままプロジェクターの操作が30秒間行われない場合に、カウントダウンを表示して、約5分後にランプが消えてパワーマネージメントモードに入ります。

パワーマネージメントモードには次の2種類があり、メニューで選べます。(P105)

待機モード

すぐに投写を再開したい場合を選びます。

パワーマネージメントモードに入ると、ランプが消えて冷却が始まります。冷却が終わると [POWER] ランプが赤と緑の点滅に変わり、待機状態になります。この後、信号が入力されたり、プロジェクターが操作されると、画像の投写が再開されます。

終了モード

自動的に電源を切りたいときを選びます。

パワーマネージメントモードに入ると、ランプが消えて冷却が始まります。冷却が終わると [POWER] ランプが赤の点滅から点灯に変わり、電源が切れます。



- パワーマネージメントモードに入り、ランプの冷却中はプロジェクターを操作できません。

AV機器の映像を 投写する

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

索引

AV機器の映像を投写する

AV機器と接続する

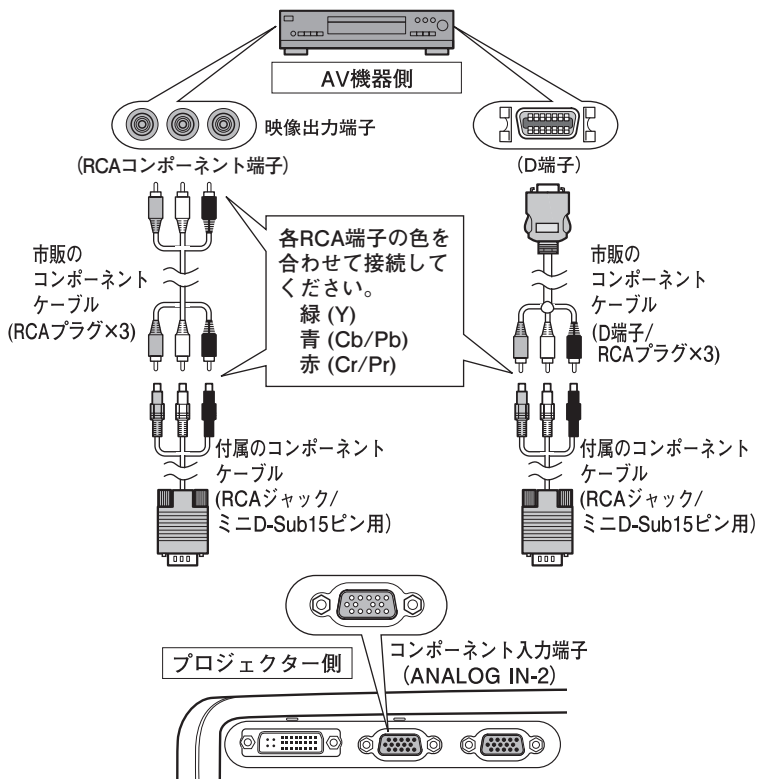
プロジェクターとAV機器を接続します。

映像端子への接続

付属のコンポーネントケーブルで接続

RCAコンポーネント端子に接続する場合

D端子に接続する場合



入力信号：[コンポーネント]の自動選択



- プロジェクターとAV機器の両方の電源を切ってから接続してください。
- 上の図はあくまでも一例です。詳しくは、接続するAV機器の使用説明書をご参照ください。



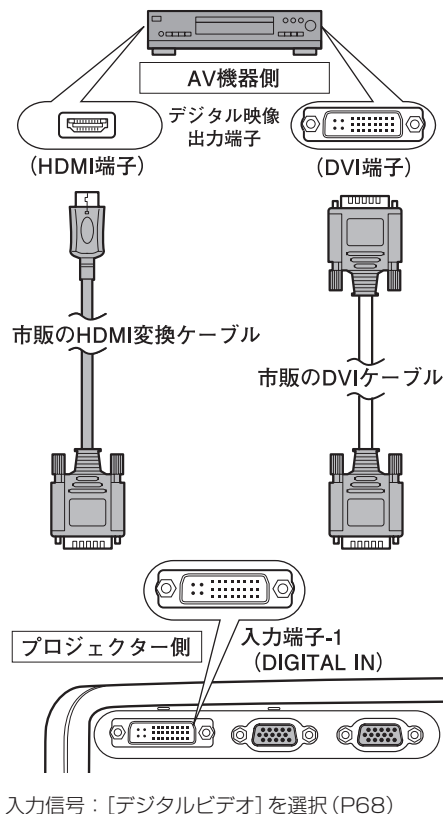
コンポーネントケーブルについて

付属のコンポーネントケーブル (RCA/ミニD-sub15ピン) だけでは、AV機器に接続できません。AV機器側の端子に合わせて、市販の次のようなケーブルを使用してください。

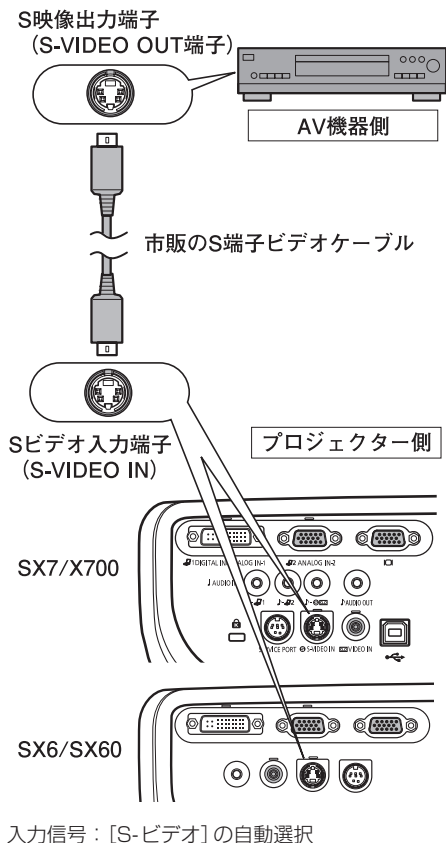
- RCA端子の場合：RCAプラグ×3 / RCAプラグ×3
- D端子の場合：D端子/RCAプラグ×3

デジタルケーブルで接続

HDMI端子やDVI端子につないでデジタルコンテンツの映像が投写できます。

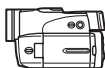


S端子ビデオケーブルで接続



- 本機のスピーカーを使用するときは、音声ケーブルを接続します。
(SX7/X700 : P65、SX6/SX60 : P37)
- ホールなどで映像制御機器を介してAV機器とプロジェクターを延長BNCケーブルで接続する場合は、『コンピューターの画像を投写する』の『5-BNCケーブルで接続』を参照し、入力信号を「コンポーネント」にしてご利用ください。(P35)

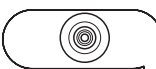
ビデオケーブルで接続

映像出力端子
(VIDEO OUT端子)

AV機器側

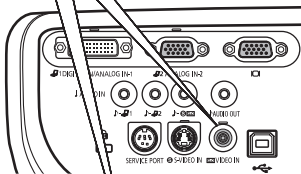


市販のビデオケーブル

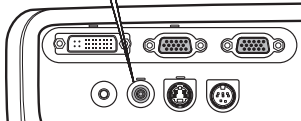
ビデオ入力端子
(VIDEO IN)

プロジェクター側

SX7/X700



SX6/SX60

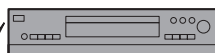


入力信号：[ビデオ]の自動選択

音声出力端子への接続(SX7/X700)

本機の音声を外部AV機器に出力するときは、音声出力端子からAV機器に音声ケーブルで接続します。

音声ケーブルで接続



AV機器側

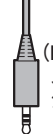


(RCA端子)

音声入力端子

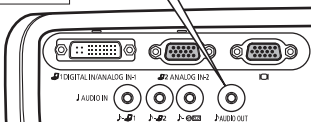


(ステレオミニジャック)

市販の
音声ケーブル(RCAプラグ/
ステレオミニ
ジャック)(ステレオミニ
ジャック)音声出力端子
(AUDIO OUT)現在選択されている映像
信号に対応する音声が出
力されます。

プロジェクター側

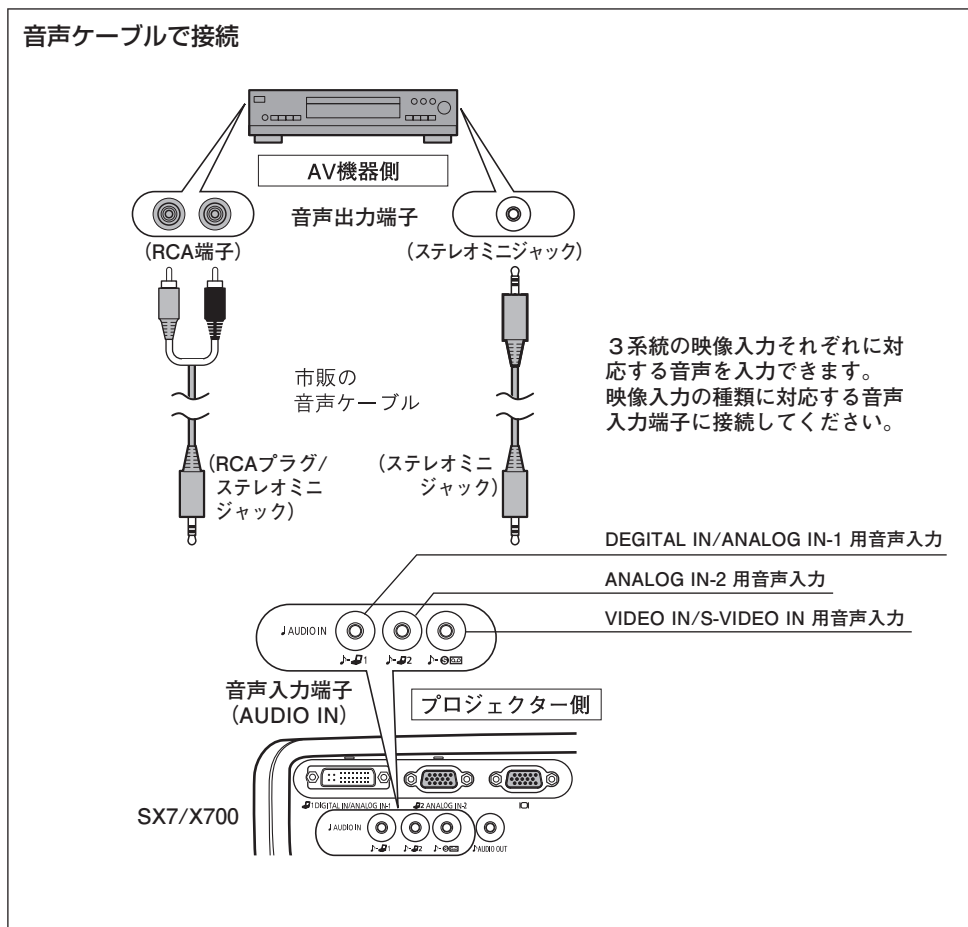
SX7/X700



- 音声ケーブルは、抵抗が内蔵されていないものをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。
- リモコンまたは本体の操作でAV機器へ出力する音量を調節することができます。
- 音声出力端子に音声ケーブルを差し込むと、内蔵スピーカからは音は出ません。
- スピーカーに直接接続するときは、アンプを内蔵したスピーカをご使用ください。

音声入力端子への接続 (SX7/X700)

本機のスピーカーを使用するときは、各映像入力に対応する音声信号を音声ケーブルで接続します。



AV機器の映像を投写する



- スピーカーからは、現在選択されている映像信号に対応する音声が出力されます。
- 音声ケーブルは、抵抗が内蔵されていないものをご使用ください。抵抗内蔵タイプでは、音声が小さくなります。
- 本機の音声を外部AV機器に出力するときは、音声ケーブルで音声出力端子にAV機器を接続します。(P.64)
- 内蔵スピーカーはモノラル出力です。

AV機器の投写までの手順

AV機器の投写までの手順は、基本的にコンピューターと接続する場合と同じです。
ここでは、AV機器の投写特有の内容を中心に説明します。

手順を示す以下の図をご覧になり、必要な項目をご参照ください。

1 電源を入れる P38*

- 電源コードを接続し、プロジェクターの電源を入れます。⇨ P38
- 投写画面の高さを調整します。⇨ P41
- 初めて電源を入れたときは、表示言語を選んでください。⇨ P39
- 画面のピントが合わずメッセージが読めないときは、オートセットアップまたはピント調整の操作でピントを合わせてください。(⇨ P44、49)

2 AV機器の準備をする

- AV機器の電源を入れて映像を再生します。

3 デジタル映像のとき

INPUT



ボタンで入力信号を切り換える ⇨ P68

- 入力信号をデジタルビデオに切り換えます。

AUTO SET

4 ボタンを2回押す ⇨ P67

- オートセットアップ機能を使って入力信号、ピント、台形ひずみなどを自動調整します。

IMAGE

5 ボタンで表示を調整する

- 投写の目的に合った画質を選びます。⇨ P53*
- 必要に応じて、メニュー [アスペクト] で画面比や表示領域を変更します。⇨ P70、86、87

投写を終えるとき・・・

電源を切る P58*

- 電源を切ってから、電源コードを抜きます。

*:この項目の説明はコンピューターの画像を投写する場合と同じです。

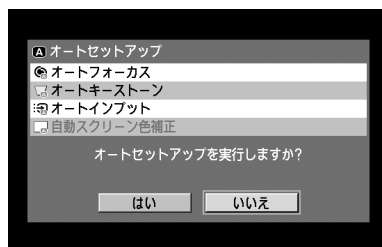
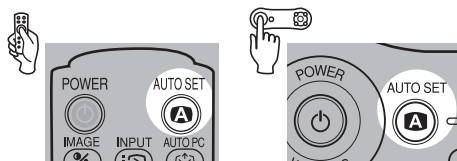
オートセットアップを行う

AV機器の映像を投写する場合に、オートセットアップを使用すると、画面のピント合わせや台形ひずみの補正など、一連の画面の調整や設定を自動で行うことができます。通常は、入力信号が合っていればこの操作だけで投写を始められます。

オートセットアップで自動調整される内容については44ページをご参照ください。

- 1 **[デジタルビデオ]を選ぶ。**
デジタル映像を投写するときは、オートセットアップの前に68ページ『デジタルビデオを選ぶ』の操作を行ってください。
前回の投写で[デジタルビデオ]が選ばれていれば、この操作は不要です。

- 2 **[AUTO SET] ボタンを押す。**
オートセットアップ確認画面が表示されます。



- 3 **もう一度 [AUTO SET] ボタンを押す。**
黒字で表示された機能が自動実行されます。



- 【<】ボタンで【はい】を選び、【OK】ボタンを押しても実行できます。

入力信号を選ぶ

以下の4種類の入力信号のうち、デジタル信号を投写するときは、オートセットアップの前に、次の『デジタルビデオを選ぶ』の操作で[デジタルビデオ]を選んでください。

デジタルビデオ : デジタル信号 HDMI/DVIケーブルまたはDVIデジタルケーブルで接続
コンポーネント : コンポーネント信号 コンポーネントケーブル(付属のケーブル)で接続
ビデオ : ビデオ信号 ビデオケーブルで接続
S-ビデオ : S-映像信号 S-ビデオケーブルで接続

コンポーネント信号・ビデオ信号・S-ビデオ信号は、ケーブルが接続され、入力信号が確認できると、自動的に設定されます。



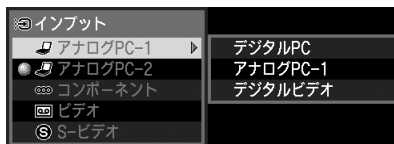
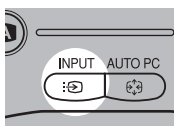
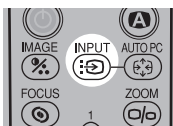
- 入力信号が確認されると、端子のLED(緑色)が点滅します。さらに信号を選択し、画像を投写すると、端子のLEDは点灯になります。(P24、25)
- HDMI/DVIケーブルで接続した場合、AV機器の仕様により最低解像度(480pまたは575p)での投写となる場合があります。

■ デジタルビデオを選ぶ

1

【INPUT】ボタンを押す。

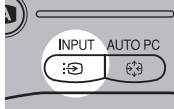
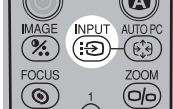
「インプット」画面が表示されます。



2

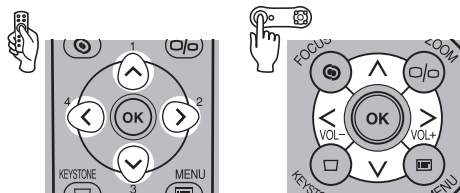
【INPUT】ボタンでメニューの1番上の項目を選ぶ。

ボタンを押すたびに選択可能な入力信号が上から順に選ばれます。

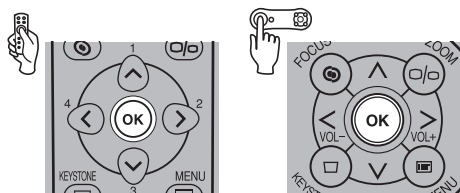


- 【A】 / 【V】ボタンを使うと常にすべての入力信号が選べます。

- 3 デジタルビデオが左のリストに表示されていない場合は、【>】ボタンを押し、【V】 / 【A】ボタンで【デジタルビデオ】を右のリストから選ぶ。



- 4 【OK】ボタンを押す。



画面の表示モードを選ぶ(アスペクト)

AV機器や再生する映像ソフトの画面比(アスペクト比)に応じて、投写方法を次の3つから選べます。

- アスペクトの設定は、メニューで設定します。メニューの[アスペクト]の項をご参照ください。(P86、87)
- [スクリーンアスペクト]の設定により、選択できるモードは異なります。詳しくは[スクリーンアスペクト]の項をご参照ください。(P71)

■フルスクリーン

横4：縦3の通常の画面で投写するときは、「フルスクリーン」を選びます。

なお[スクリーンアスペクト]が[16：9]または[16：9 Dイメージシフト]のときはメニュー画面に[フルスクリーン]は表示されません。



■4：3

[スクリーンアスペクト]で[16：9]または[16：9 Dイメージシフト]を選んだとき、16：9のスクリーンで横4：縦3の画面を投写することができます。



■ワイド

横16：縦9のワイド画面で投写するときは、「ワイド」を選びます。



- ワイド画面のときの画面サイズについては、P127の表に記載されています。

■オート(デジタルビデオ/コンポーネント入力時)

AV機器の映像に応じて「フルスクリーン」と「ワイド」を自動的に切り換えるときは、「オート」を選びます。



- アスペクトの設定によっては、投写画面の上下、左右に映像のない部分が生じます。

投写画面の比率を選ぶ(スクリーンアスペクト)

投写するスクリーンの縦横の比率(アスペクト比)に応じて、投写画面の比率を次の3つから選ぶことができます。

[スクリーンアスペクト]を設定することで、スクリーンサイズを最大に活かした効率の良い投写ができます。

- スクリーンアスペクトの設定は、メニューを使って設定します。メニューの[スクリーンアスペクト]の項をご参照ください。(P97)

■ 4 : 3

スクリーンのアスペクト比が4 : 3のときに選びます。

入力信号と選択可能な[アスペクト]のモードの関係は下の表の通りです。

入力信号	選択可能な[アスペクト]のモード
ビデオ S-ビデオ	フルスクリーン ワイド
コンポーネント デジタルビデオ	フルスクリーン オート ワイド

■ 16 : 9

スクリーンのアスペクト比が16 : 9のときに選びます。

なおこのモードで4 : 3の画面を投写するときは、[アスペクト]で[4 : 3]を選んでください。(P70)

入力信号と選択可能な[アスペクト]のモードの関係は下の表の通りです。

入力信号	選択可能な[アスペクト]のモード
ビデオ S-ビデオ	4 : 3 ワイド
コンポーネント(480i/575i/480p/575p) デジタルビデオ(480p/575p)	4 : 3 ワイド
コンポーネント デジタルビデオ(720p/1035i/1080i)	ワイド



- [自動スクリーン色補正]ではスクリーン色補正が適切に行われなかったりすることがあります。その場合は手動で調整してください。(P94)

■ 16 : 9 Dイメージシフト

スクリーンのアスペクト比が16 : 9のときに選ばれます。キーストーン調整なしのゆがみのない画面を、上下方向に移動・微調整ができます。

画面の移動はP57をご参照ください。

入力信号と選択可能な[アスペクト]のモードの関係は下の表の通りです。

入力信号	選択可能な[アスペクト]のモード
ビデオ S-ビデオ	4 : 3 ワイド
コンポーネント(480i/575i/480p/575p) デジタルビデオ(480p/575p)	4 : 3 ワイド
コンポーネント デジタルビデオ(720p/1035i/1080i)	ワイド

なおこのモードで4 : 3の画面を投写するときは、[アスペクト]で[4 : 3]を選んでください。(P70)



- キーストーン調整はできません。スクリーンに対して垂直に投写してください。
- [オートセットアップ]機能の[オートフォーカス]、[オートキーストーン]、[自動スクリーン色補正]はできません。
- [起動時画面]、[無信号時画面]で表示する画像の登録はできません。
- [SPOT]機能は使用できません。

プレゼンテーションで 使える便利な機能

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

索引

プレゼンテーションで使える便利な機能

画像を一時的に消す

NO SHOW



▶ こんなときに便利

- ▶ プレゼンテーションを終えたとき
- ▶ 出席者の注意をスクリーンからそらすとき

投写中の画像を一時的に消します。

画像を消す



画面が黒または青のみの表示になります。

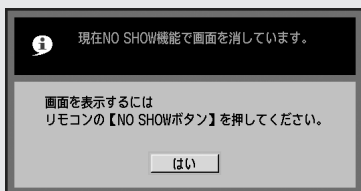
再び画像を表示する

NO SHOW

もう一回  を押しと画像が表示されます。



- 独自のロゴを登録することができます。(P94)
- 画像を消している間、会社のロゴマークなどを表示できます。(P96)
- 画像が消えている間、本体パネルのLEDイルミネーションランプ(中央)がゆっくり点滅します。
- NO SHOW中に無効なボタンが押されると、ガイドメッセージが表示されます。



- NO SHOW中もランプは点灯しています。

音声を一時的に消す

MUTE

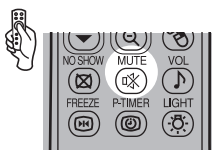


▶ こんなときに便利

- ▶ プロジェクターのスピーカーから流れる不要な音声を消したいとき

音声を一時的に消します。

音声を消す




画面に「MUTE」表示が出ます。

音声を元に戻す

MUTE

さらに1回  を押しと、音声が元に戻ります。

 ボタンでも音声を元に戻せます。



- SX7/X700 で音声を外部AV機器に出している場合でも、同様の操作で音声を一時的に消すことができます。

静止画にする

FREEZE



▶ こんなときに便利

- ▶ プレゼンテーションの流れと関係ないパソコン操作を隠れて行いたいとき
- ▶ 変化する画像を途中で止めて見せたいとき


投写中の画像を一時的に静止画にします。

静止画にする

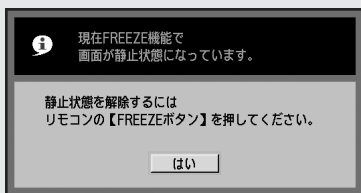


画面に「FREEZE」表示が出ます。

静止画を解除する

さらに  を1回押すと、静止画が解除されます。

- 静止画の状態でも画像の拡大／縮小ができます。(P77)
- 画像が静止している間、本体パネルのLEDイルミネーションランプ(左右)がゆっくり点滅します。
- FREEZE中に無効なボタンが押されると、ガイドメッセージが表示されます。



音量を調節する

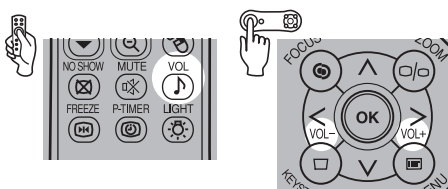
VOL



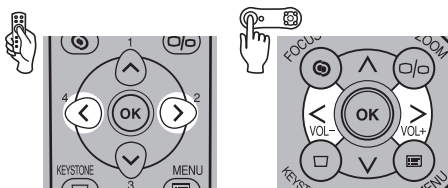
▶ こんなときに便利

- ▶ プロジェクターのスピーカーの音量を調整したいとき

音量を調整する



画面に音量バーが表示されます。



- 音量が上がらない場合は、パソコン側の音量調整、ミュートなどの設定を確認してください。
- SX7/X700 で音声を外部AV機器に出力している場合でも、同様の操作で音声を調整することができます。

プレゼンテーションで使える便利な機能

経過時間を表示する

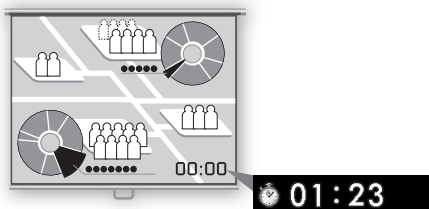
P-TIMER



▶ こんなときに便利

▶ プレゼンテーションの進行を管理したいとき

00:00～59:59までの経過時間を画面の右下に表示します。




カウントを始める




1回押しと、タイマーが表示されます。

カウントを止める

もう1回  を押しと、タイマーが停止します。

カウント表示を消す

さらに1回  を押しと、タイマーの表示が消えます。

アプリケーションソフトのページを送る/戻す



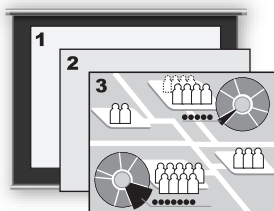
PAGE



▶ こんなときに便利

▶ 投写中のアプリケーションソフトの表示ページのページ送りをリモコンから行いたいとき

投写しているアプリケーションソフトのページ送りを付属のリモコンから行うことができます。



ページを送る



ページを戻す



- この機能は、コンピューターとプロジェクターをUSBケーブル(付属)で接続している場合に利用できます。(P78)
- コンピューターのキーボードのPageUpキーとPageDownキーに対応した機能です。このため、アプリケーションによっては、ページ送りができない場合もあります。

画像を拡大する



D.ZOOM



▶ こんなときに便利

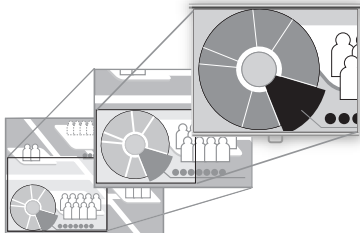
- ▶ 細かいグラフなどを大きく見せたいとき
- ▶ 不要な情報を画面の外に出し、説明箇所を強調したいとき

投写中の画像を拡大します。

拡大する



目的の大きさになるまで何回か押します。



- 【D.ZOOM】ボタンを押すと、画面に拡大率が表示されます。
- 1～12倍まで拡大できます。
- 画像を拡大した状態で静止画にすることもできます。
- 【OK】ボタンを押すと解除されます。
- D.ZOOMの操作中に無効なボタンが押されると、ガイドメッセージが表示されます。



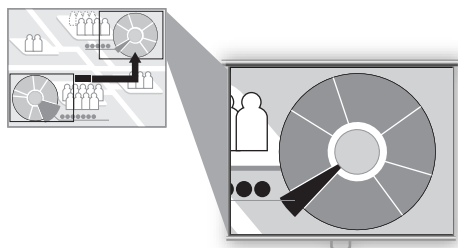
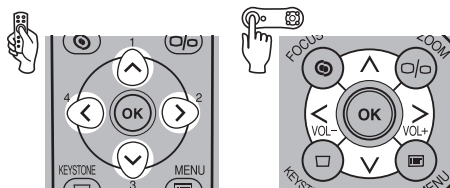
デジタルズーム中はその操作はできません。

デジタルズームを解除するには、
【OKボタン】を押してください。

はい

目的の箇所を画面中央に合わせる

拡大したい場所が画面から外れていたり、中央にない場合は上下左右に表示位置を動かします。



元の大きさに戻す



元の大きさになるまで何回か押します。

【OK】ボタンを押すと一度で元の大きさに戻ります。

リモコンでマウス操作する

R-CLICK



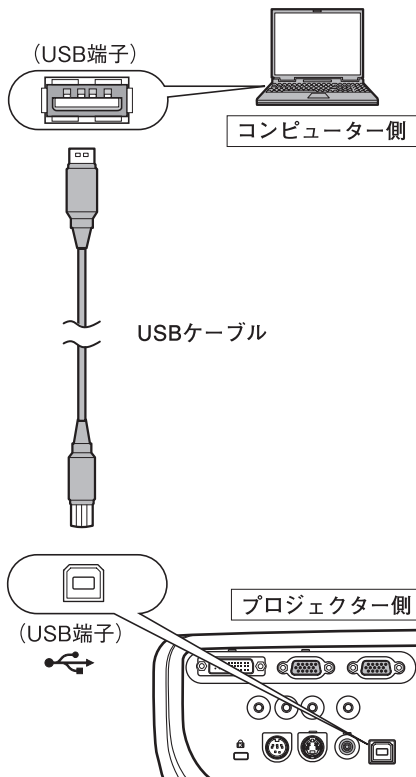
▶ こんなときに便利

▶ リモコンを使ってパソコンのマウス操作をしたいとき

付属のリモコンをコンピューターのワイヤレスマウスとして使用できます。

USBケーブルの接続

コンピューターとプロジェクターの電源が切になっていることを確認し、付属のUSBケーブルで、コンピューターのUSB端子と本機のUSB端子を接続します。

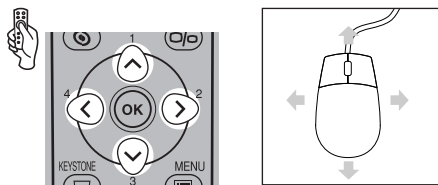


プレゼンテーションで使える便利な機能



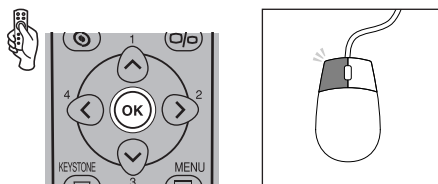
● この機能は、Windows Vista、Windows XP、およびMac OS 9.2以上で使用できます。

カーソルを移動する



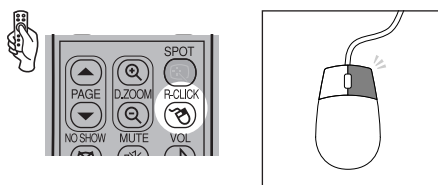
マウスカーソルを上下左右に移動できます。

マウスの左ボタンを使う



マウスボタンのクリック、ダブルクリック、押したままの操作などができます。

マウスの右ボタンを使う



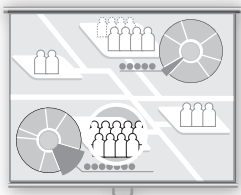
スポットライトで位置を示す SPOT



▶ こんなときに便利

▶ 注目すべきポイントを指し示したいとき

投写中の画像の特定部分にスポットライトマークを表示します。

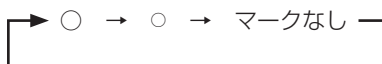


スポットライトマークを置く

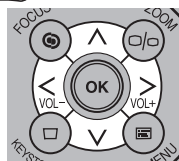
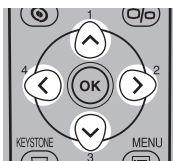


画面中央にスポットライトマークが現れ、マーク以外の部分が暗くなります。

SPOT
SPOT ボタンを押すたびに、マークの形が変わります。



スポットライトマークを移動する



マークを目的の位置に合わせます。



- [スクリーンアスペクト]を[16:9 D-イメージシフト]にしたときは[SPOT]機能は使用できません。
- 【OK】ボタンを押すと解除されます。

メニューによる 機能設定

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

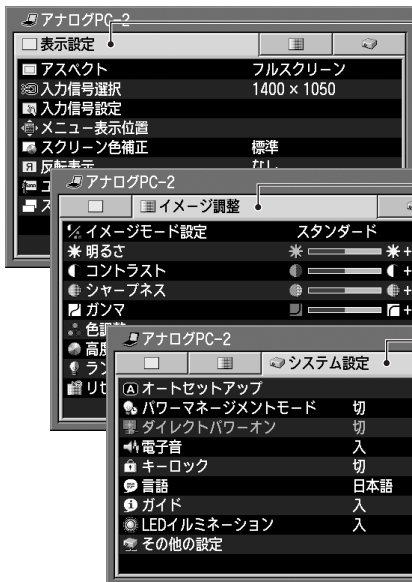
索引

メニューによる機能設定

メニューの使いかた

プロジェクターの機能には、メニュー画面を表示して利用するものがあります。

メニューは次の3つから構成されています。



表示設定メニュー (P86)

入力信号や画面表示に関するメニューです。入力信号を変えたとき、設置しなおしたときに設定します。

イメージ調整メニュー (P98)

投写された画像の画質や色の調整項目のメニューです。画像を見ながらお好みに合わせて設定します。

システム設定メニュー (P105)

プロジェクターの運用に関するメニューです。入力信号に関係なく設定されます。

- ※ メニューの項目は、入力信号によって違いがあります。
また、設定した内容は、入力信号 (8種) ごと、イメージモード (最大5種) ごとに記憶されます。

メニュー説明の内容を表す記号

メニュー項目の中には、入力信号によって表示されるもの、表示されないものがあります。それぞれの入力信号で利用できる項目は、次のシンボルで表しています。



コンピューター画像の投写で使用できる項目

デジタルPC

デジタルPC

アナログPC

アナログPC-1 / アナログPC-2



AV機器の映像の投写で使用できる項目

デジタルビデオ

デジタルビデオ

コンポーネント

コンポーネント

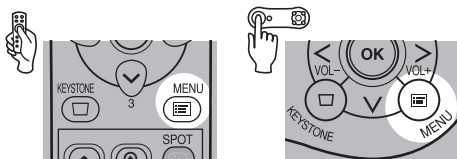
ビデオ/Sビデオ

ビデオ / S-ビデオ

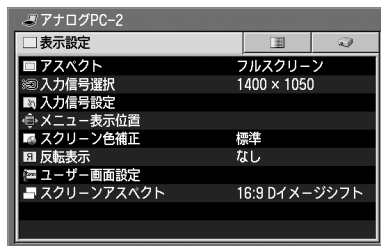
ここでは、メニューの基本操作を説明します。

1 【MENU】ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

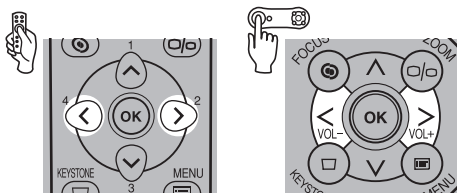


- もう一度【MENU】を押すとメニューが消えます。

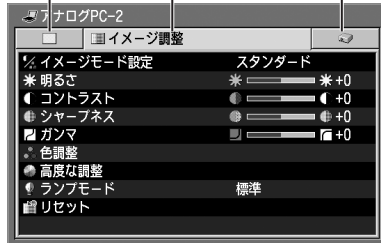


2 [<] / [>] ボタンでメニューのタブを選ぶ。

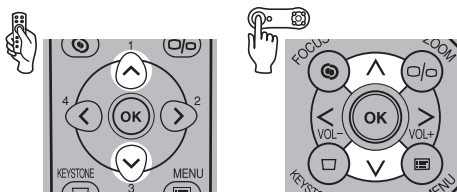
タブ位置（一番上）にカーソルがないときは、【▲】ボタンで上がります。



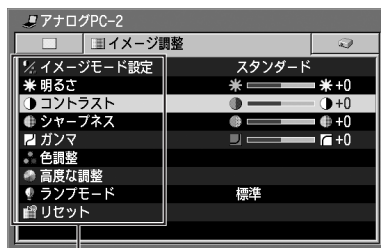
イメージ調整のタブ
表示設定のタブ システム設定のタブ



3 【▲】 / 【▼】ボタンでメニュー項目を選ぶ。



- 1つの項目がさらに細かいメニュー項目に分かれている場合もあります。



メニュー項目

メニューによる機能設定

(次ページに続く)

4

設定や調整を行う。

操作のタイプは次の4種類です。

- ・ 設定を直接変更する項目
- ・ 設定をリストから選ぶ項目
- ・ スライダーで調整する項目
- ・ 別画面が表示されて設定する項目

・ 設定を直接変更する項目

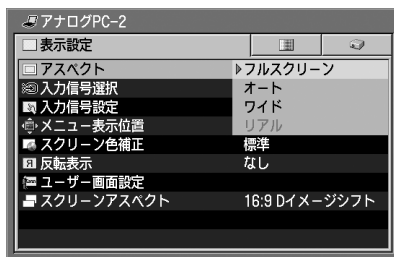
例：トラッキング



【<】 【>】 ボタンで増減します。

・ 設定をリストから選ぶ項目

例：アスペクト

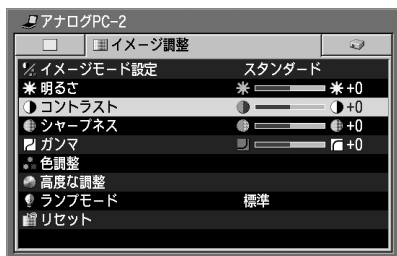


【OK】 ボタンを押すとリストが表示されます。

【^】 / 【v】 ボタンで設定を選びます。

・ スライダーで調整する項目

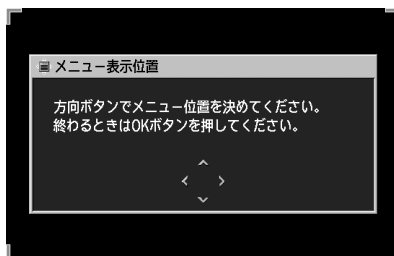
例：コントラスト



【<】 【>】 でスライダーを増減します。

・ 別画面が表示されて設定する項目

例：メニュー位置表示

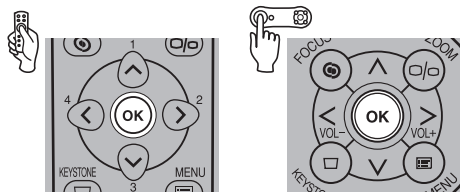


【OK】 ボタンを押すと別画面が表示されます。あとは画面のメッセージに従います。

5

【OK】ボタンを押す。

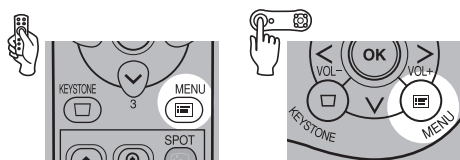
項目によっては設定を選んだだけで有効になるものもあります。



6

設定が終わったら、【MENU】ボタンを押す。

メニューが消えます。



表示状態を設定する

画面の表示モードを選ぶ (1)

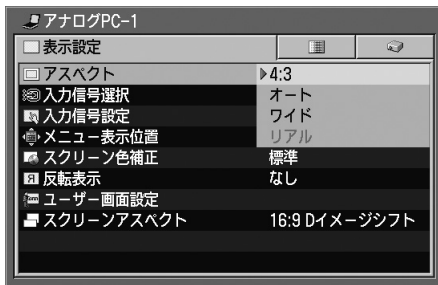
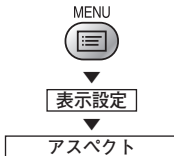
[アスペクト]



デジタルPC

アナログPC

スクリーンに対して投写した画像の縦横の比率 (アスペクト比) が合っていないときに設定します。



- フルスクリーン** 4:3のスクリーンで解像度が横4:縦3のコンピューター画面をスクリーンいっぱい に投写します。
- 4:3** 16:9のスクリーンの内側に横4:縦3の比率のコンピューター画面を投写します
- オート** 入力信号の縦横比のまま、最大の大きさで投写します。
- ワイド** コンピューターの画面の横幅を投写画面の横幅に合わせ、16:9のサイズで投写します。
- リアル** コンピューターの画面をオリジナルサイズ (拡大/縮小なし) で投写します。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- 各項目は入力信号や他のメニュー項目の設定により選べない場合があります。

画面の表示モードを選ぶ (2)

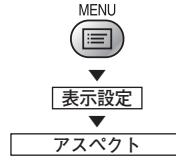
[アスペクト]



デジタルビデオ

コンポーネント

スクリーンに対して投写した画像の縦横の比率 (アスペクト比) が合っていないときに設定します。



- オート** AV機器の映像に応じて「フルスクリーン」/「4:3」と「ワイド」を自動的に切り換えます。
- フルスクリーン** 4:3のスクリーンで横4:縦3の通常の画面を投写します
- 4:3** 16:9のスクリーンの内側に横4:縦3の比率の画面を投写します。
- ワイド** 横16:縦9のワイド画面のサイズで投写します。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



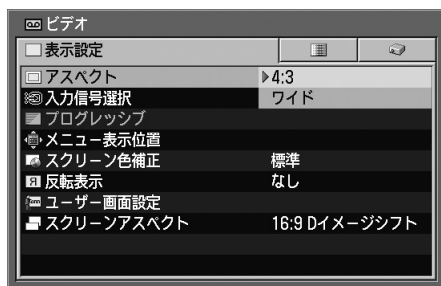
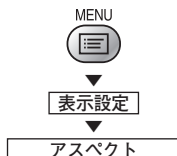
- 各項目はスクリーンアスペクトの設定により選べない場合があります。

画面の表示モードを選ぶ (3)

[アスペクト]



スクリーンに対して投写した画像の縦横の比率 (アスペクト比) が合っていないときに設定します。



フルスクリーン 4 : 3のスクリーンで横4 : 縦3の通常の画面を投写します。

4 : 3 16 : 9のスクリーンの内側に横4 : 縦3の比率の画面を投写します。

ワイド 横16 : 縦9のワイド画面のサイズで投写します。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

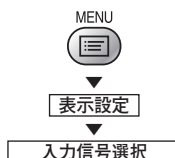
- 各項目はスクリーンアスペクトの設定により選べない場合があります。

入力信号を選ぶ (1)

[入力信号選択]



オートPC機能で入力信号の形式が複数現れた場合、正しい信号形式を選びます。



表示された信号形式からコンピューターに合ったものを選びます。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

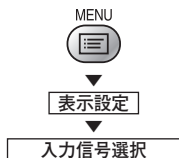
- 本プロジェクターが対応している信号形式については、P126の表をご参照ください。

入力信号を選ぶ (2)

[入力信号選択]



AV機器の映像が正しく投写されない(色や映像が出ない)ときに入力信号を手動で設定できます。



オート 入力信号が自動的に設定されます。

NTSC オートで映像が正しく投写されない場合に、左の項目から入力信号を選びます。

PAL

SECAM

NTSC4.43

PAL-M

PAL-N

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



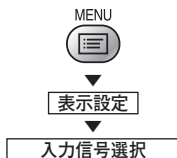
- 接続するAV機器の使用説明書で、入力信号を確認してください。
- 日本の映像方式はNTSCです。

入力信号を選ぶ (3)

[入力信号選択]



AV機器の映像が正しく投写されないときに入力信号を手動で設定できます。



オート 入力信号に合わせてコンポーネントフォーマットが自動的に設定されます。

1080i オートで映像が正しく投写されない場合に、左の項目から入力信号を選びます。

1035i

720p

575p

480p

575i

480i

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- 接続するAV機器の使用説明書で、コンポーネント信号形式を確認してください。

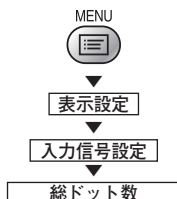
総ドット数を調整する

【総ドット数】



アナログ PC

画面を構成する水平方向のドット数です。
画面が崩れたり、画面の左右に不要なノイズなどが表示されるときに調整します。



入力信号設定	
総ドット数	1688
トラッキング	5
水平位置	209
垂直位置	16
水平表示ドット数	1400
垂直表示ドット数	1050

> 総ドット数を上げます。

< 総ドット数を下げます。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログPC-1]、[アナログPC-2] で別々に記憶されます。

トラッキングを調整する

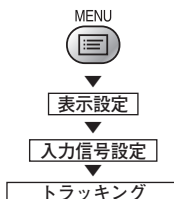
【トラッキング】



アナログ PC

映像信号から画面を構成するときのタイミングを微調整することができます。

画面が崩れたり、ちらつくときに調整します。



入力信号設定	
総ドット数	1688
トラッキング	5
水平位置	209
垂直位置	16
水平表示ドット数	1400
垂直表示ドット数	1050

> 設定値を増やします。

< 設定値を減らします。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログPC-1]、[アナログPC-2] で別々に記憶されます。

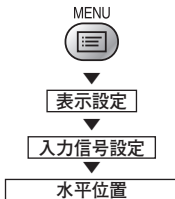
水平位置を調整する

[水平位置]



アナログ PC

画面が左右にずれて表示されるときに画面の水平方向の位置を調整します。



入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ トラッキング	5
□ 水平位置	209
□ 垂直位置	16
■ 水平表示ドット数	1400
■ 垂直表示ドット数	1050

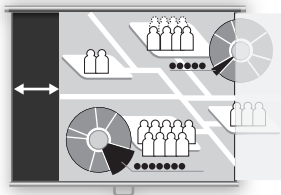
> 画面を右にずらします。

< 画面を左にずらします。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログPC-1]、[アナログPC-2] で別々に記憶されます。



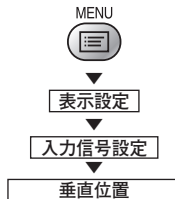
垂直位置を調整する

[垂直位置]



アナログ PC

画面が上下にずれて表示されるときに画面の垂直方向の位置を調整します。



入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ トラッキング	5
□ 水平位置	209
□ 垂直位置	16
■ 水平表示ドット数	1400
■ 垂直表示ドット数	1050

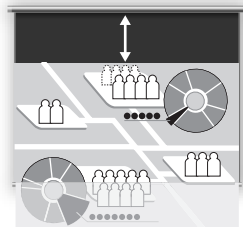
> 画面を上をずらします。

< 画面を下にずらします。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログPC-1]、[アナログPC-2] で別々に記憶されます。



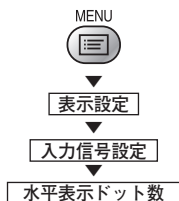
水平表示ドット数を調整する

[水平表示ドット数]



アナログ PC

画面が左右に広いまたは狭い場合、投写画面サイズに合わせて画面の水平方向のドット数を調整します。



入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ トラッキング	5
■ 水平位置	209
■ 垂直位置	16
■ 水平表示ドット数	1400
■ 垂直表示ドット数	1050

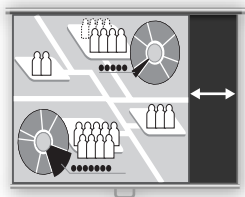
> 水平ドット数を増やします。

< 水平ドット数を減らします。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログPC-1]、[アナログPC-2] で別々に記憶されます。



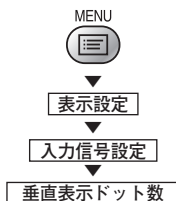
垂直表示ドット数を調整する

[垂直表示ドット数]



アナログ PC

画面が上下に広いまたは狭い場合、投写画面サイズに合わせて画面の垂直方向のドット数を調整します。



入力信号設定	
■ 総ドット数	1688
■ トラッキング	5
■ 水平位置	209
■ 垂直位置	16
■ 水平表示ドット数	1400
■ 垂直表示ドット数	1050

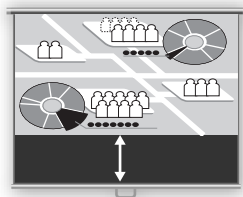
> 垂直ドット数を増やします。

< 垂直ドット数を減らします。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



- オートPC機能を行っても画像が正しく表示されない場合に調整します。
- 設定は [アナログPC-1]、[アナログPC-2] で別々に記憶されます。

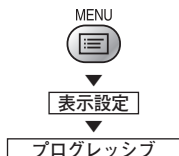


プログレッシブ処理を行う

[プログレッシブ]



解像度の低い映像信号の情報を蓄積・合成し、高解像度の画面に変換します。



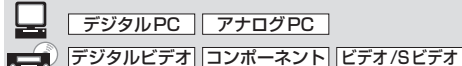
- 切** プログレッシブ処理を行いません。
- 入** プログレッシブ処理を行います。
- オート** 入力信号に応じて自動的にプログレッシブ処理を切り替えます。

【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

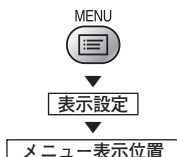
- 入力信号がビデオ/S-ビデオ信号、またはコンポーネント信号575i、480iのときに使用できます。コンポーネント信号が1080i、1035i、720p、575p、480pの場合、この機能は使用できません。
- 現在選ばれている入力信号の設定として保存されます。
- 動きの多い映像で、ちらつきや横線が目立つときは切にしてください。
- プログレッシブ処理については、P131をご参照ください。

メニューの位置を選ぶ

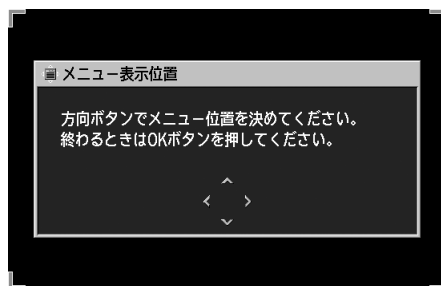
[メニュー表示位置]



画面に表示されるメニューの位置を変えることができます。



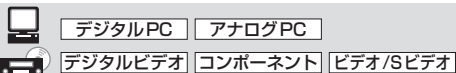
【△】【<】【▽】【>】ボタンでメニューの位置を移動します。位置が決まったら【OK】ボタンを押してください。



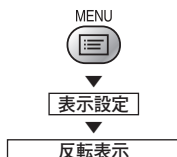
設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

天吊り／リア投写で使う

【反転表示】



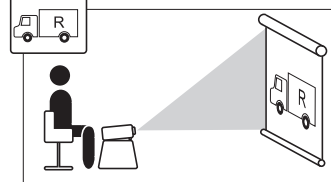
本機を天井から吊り下げたり、透過型スクリーンに投写する場合に設定します。



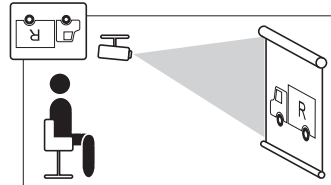
- なし** 通常の投写を行います。
- 天吊り** 天井から逆さに吊り下げて投写するときに選びます。上下左右を反転して投写します。
- リア** スクリーンの裏から投写するときに選びます。左右を反転して投写します。
- リア・天吊り** 天井から逆さに吊り下げてリア投写するときに選びます。上下を反転して投写します。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

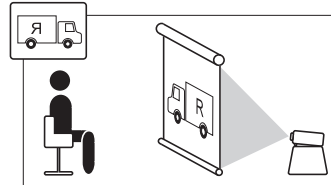
通常の投写（なし）



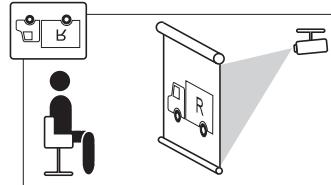
天吊り投写



リア投写



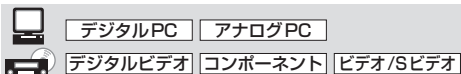
リア天吊り投写



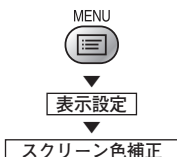
- 吊り下げ型の設置には、オプションの天吊り金具を使用します。詳しくは、販売店にお問い合わせください。
- キーストーン調整はリセットされます。

スクリーンの色補正を行う

[スクリーン色補正]



画像の白の部分が正しく表示できるようにホワイトバランスを調整します。



標準 標準的なスクリーンを使用したとき、自然光に近い色調で投写します。

黒板 黒板（濃緑色）をスクリーンに使用したとき、標準に近い色調で投写します。

調整 色をレベルメーターで調整します。下のレベルメーターが表示された状態で【AUTO SET】ボタンを押すと、色調が自動調整されます。【黒板】での調整が不十分なときにご使用ください。



また手動での調整時は、【A】【V】ボタンで赤、緑、青を選択します。

> 各色の濃さが上がります。

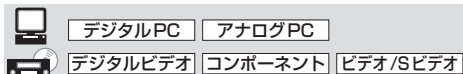
< 各色の濃さが下がります。

【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します

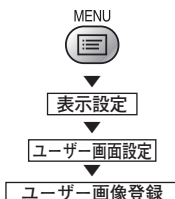
● [スクリーンアスペクト] を [16:9 D イメージシフト] にしたときは自動でのスクリーン色補正はできません。

表示するロゴを登録する

[ユーザー画像登録]



電源を入れたとき、入力信号のないとき、画像を一時的に消したときに、ユーザー独自の画像（ロゴ）を表示できます。



はい 登録する画像を画面に表示します。赤い枠に読み込む範囲を合わせ、【OK】ボタンを押します。枠の中の画像が登録されます。

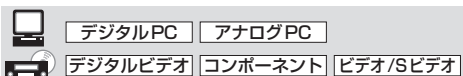
いいえ 画像の登録を取りやめます。

登録が完了したら【OK】ボタンを押して、【MENU】ボタンを押します。

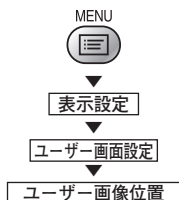
- 登録できる画像は1画面分だけです。
- 登録した画像を表示する場合は、「起動時画面」、「無信号時画面」、「NOSHOW時画面」で【ユーザー画像】を選びます。
- 解像度や走査方式によっては、画像の登録ができない場合があります。
- [スクリーンアスペクト] が [16:9]、[16:9 D イメージシフト] のときは画像の登録はできません。

ロゴの表示位置を選ぶ

【ユーザー画像位置】



ロゴの表示位置を選びます。ロゴは画面の中央や四隅に表示できます。



ユーザー画面設定	
ユーザー画像登録	
ユーザー画像位置	左上
無信号時画面	右上
NO SHOW時画面	中央
起動時画面	左下
戻る	右下

左上 ロゴの表示位置を選び、【OK】ボタンを押しします。

右上

中央

左下

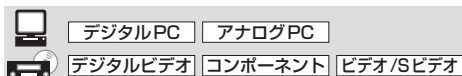
右下

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

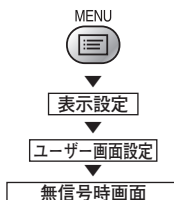
- 【ユーザー画像登録】が行われていない場合は、【ユーザー画像位置】は選べません。

ロゴを表示する(入力信号なし時)

【無信号時画面】



入力信号がない場合に、画面にロゴを表示できます。



ユーザー画面設定	
ユーザー画像登録	
ユーザー画像位置	中央
無信号時画面	黒
NO SHOW時画面	青
起動時画面	ユーザー画像
戻る	

黒 ロゴを表示しません(黒画面)。

青 ロゴを表示しません(ブルーバック)。

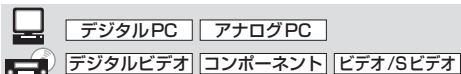
ユーザー画像 【ユーザー画像登録】で登録したロゴを表示します。

【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

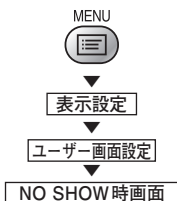
- 【ユーザー画像登録】が行われていない場合は、【ユーザー画像】は選べません。

ロゴを表示する (NO SHOW 時)

【NO SHOW 時画面】



【NO SHOW】 ボタンを押して画像を一時的に消したときに、画面にロゴを表示できます。



ユーザー画面設定	
ユーザー画像登録	
ユーザー画像位置	中央
無信号時画面	青
NO SHOW 時画面	▶ 黒
起動時画面	青
戻る	ユーザー画像

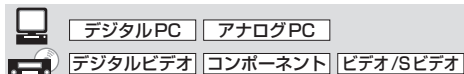
- 黒** ロゴを表示しません (黒画面)。
- 青** ロゴを表示しません (ブルーバック)。
- ユーザー画像** 【ユーザー画像登録】で登録したロゴを表示します。

【OK】 ボタンを押して確定し、【MENU】 ボタンを押します。

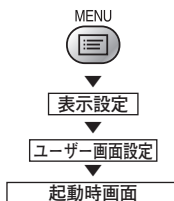
- ユーザー画像登録が行われていない場合は、【ユーザー画像】は選べません。

電源入力時の画面を選ぶ

【起動時画面】



電源を入れてから投写準備ができるまでの間の画面が選ばれます。



ユーザー画面設定	
ユーザー画像登録	
ユーザー画像位置	中央
無信号時画面	青
NO SHOW 時画面	▶ Canonロゴ
起動時画面	表示しない
戻る	ユーザー画像

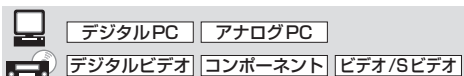
- Canonロゴ** あらかじめ登録されているキヤノンのロゴを表示します。
- 表示しない** 電源を入れたとすぐに画像を投写します。
- ユーザー画像** 【ユーザー画像登録】で登録した画像を表示します。

【OK】 ボタンを押して確定し、【MENU】 ボタンを押します。

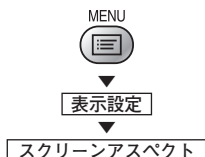
- ユーザー画像登録が行われていない場合は、【ユーザー画像】は選べません。

スクリーンの比率を選ぶ

[スクリーンアスペクト]



投写するスクリーンの縦横比（アスペクト比）を設定します。



4:3 スクリーンのアスペクト比が4:3のときに選びます。

16:9 スクリーンのアスペクト比が16:9のときに選びます。

16:9 Dイメージシフト スクリーンのアスペクト比が16:9で、投写位置を上下に移動したいときに選びます。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

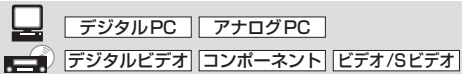


- [16:9]、[16:9 D イメージシフト] を選択すると[アスペクト]は[ワイド]になります。[16:9 D イメージシフト]を選択しているときに4:3の画面を投写する場合は[アスペクト]を[4:3]にしてください。
- [16:9 D イメージシフト]にすると、キーストーン調整はリセットされます。
- 本設定では、入力信号とアスペクトの設定によっては選択できない項目があります。(P71)

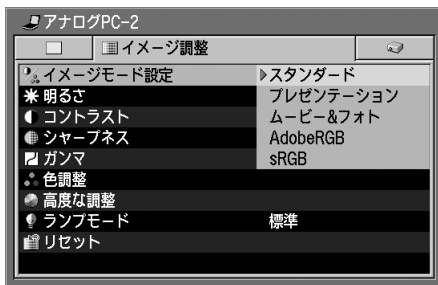
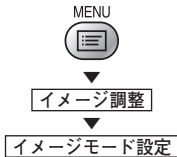
画質を調整する

画質を選ぶ

【イメージモード設定】



投写する画像に適した画質を選びます。



(SX6)

スタンダード 白の色味を重視した、オリジナルに近い画質で投写します。明るい部屋でのテレビ番組、DVDなどによる動画鑑賞にも適しています。

プレゼンテーション プレゼンテーションに適した画質で投写します。明るさを重視した画質による動画の投写にも適しています。

ムービー あらゆる動画に適した画質で投写します。薄暗い部屋でも手軽にシアターの雰囲気を楽しめる明るさです。

ムービー&フォト デジタルカメラなどで撮影した動画や画像に適した画質で投写します。

ホームシアター 部屋を暗くして本格的な映画鑑賞を行うのに適した画質で投写します。

AdobeRGB アドビシステムズ社の色空間(カラースペース)を使用した表示モードで投写します。sRGBよりも広い色域であるため、色再現がより忠実です。

sRGB Windows標準の色空間(カラースペース)を使用した表示モードで投写します。sRGB対応のデジタルカメラなどの画像の投写に使用できます。

SX7/SX6	SX60	X700
スタンダード	スタンダード	スタンダード
プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーション
ムービー&フォト	ムービー	ムービー
AdobeRGB	ホームシアター	sRGB
sRGB	sRGB	

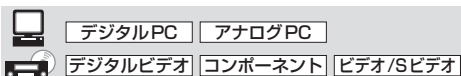
【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。



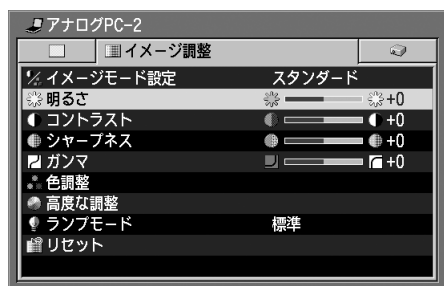
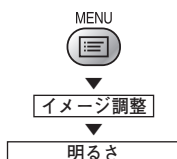
- それぞれのイメージモードの画質は、ユーザーの好みに合わせて調整(明るさ、コントラストなど)ができます。
- ユーザーが調整した画質の状態は、入力信号(8種)ごと、イメージモード(最大5種)ごとに別々に記憶されます。

明るさを調整する

[明るさ]



画像が明るすぎるときや、暗すぎるときに画像の明るさを調整します。



> 画像が明るくなります。

< 画像が暗くなります。

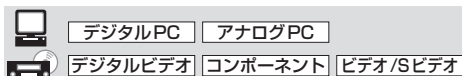
設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



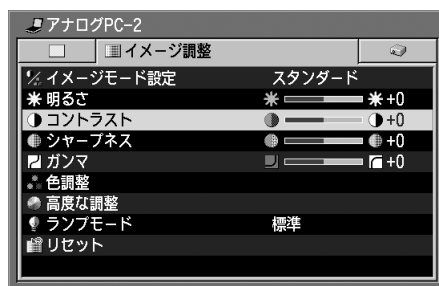
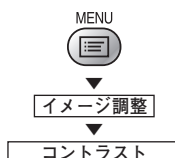
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

コントラストを調整する

[コントラスト]



画像にメリハリをつけたいときや、やさしい画像にしたいときに明るい部分と暗い部分の差を調整します。



> コントラストを上げます。画像が濃くつきります。

< コントラストを下げます。画像が淡くなります。

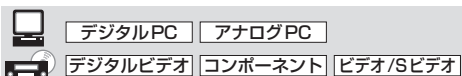
設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



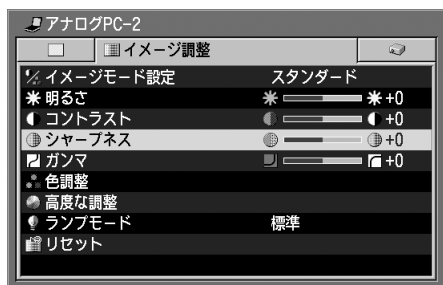
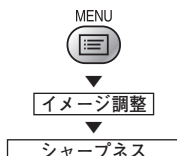
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

シャープネスを調整する

[シャープネス]



画像を鮮明にしたいときや、ぼかしたいときに画像のシャープネスを調整します。



> 画像が鮮明になります。

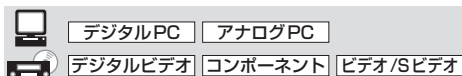
< 画像がぼやけます。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

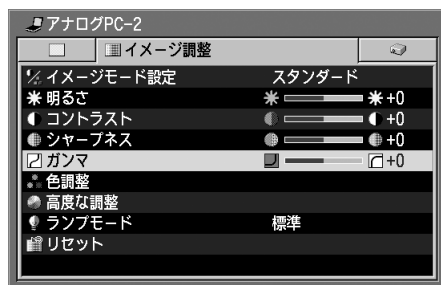
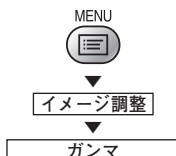
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

ガンマ補正を行う

[ガンマ]



明るいところや暗いところがはっきりしない画像を調整します。



> 暗くつぶれている部分が見えるように補正されます。

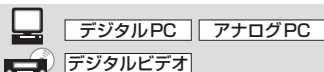
< 明るくて消えている部分が見えるように補正されます。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

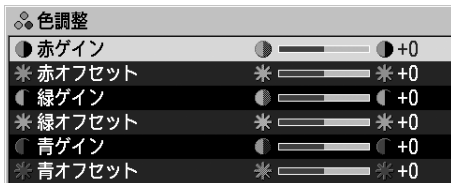
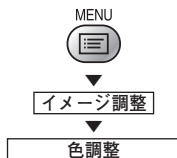
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

色の調整を行う (1)

[色調整]



各色 (赤、緑、青) ごとの色調整を行います。



赤/緑/青ゲイン 赤、緑、青の色味の強さを調整します。

> 色味が強くなります。

< 色味が弱くなります。

赤/緑/青オフセット 赤、緑、青の色の暗い部分の色再現を調整します。

> 再現性が高くなります。

< 再現性が弱くなります。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



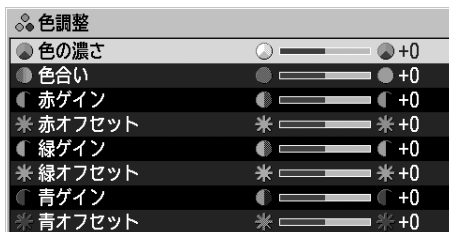
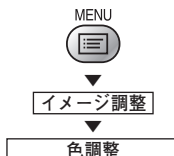
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

色の調整を行う (2)

[色調整]



色の濃さや明るさの調整や、各色 (赤、緑、青) ごとの色調整を行います。



色の濃さ 色の濃さを調整します。

> 色が濃くなります。

< 色が淡くなります。

色合い 紫がかった映像、緑がかった映像の色合いを調整します。

> 紫がかった映像が補正されます。

< 緑がかった映像が補正されます。

赤/緑/青ゲイン (色の調整を行う (1) を参照)

赤/緑/青オフセット (色の調整を行う (1) を参照)

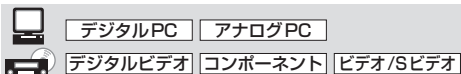
設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



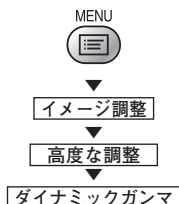
- ビデオフォーマットがPAL、PAL-M、PAL-N、SECAMの場合、「色合い」は調整できません。
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

高度な色調整を行う (1)

【ダイナミックガンマ】



明るいと暗いところの階調表現が自動的に改善されます。



入 ダイナミックガンマを使用します。

切 ダイナミックガンマを使用しません。

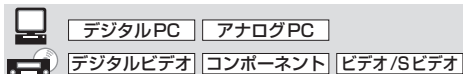
【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。



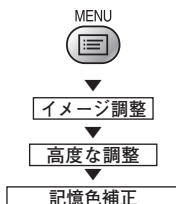
- 自動的に最適な画質になるように調整します。
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

高度な色調整を行う (2)

【記憶色補正】



青空など、人の記憶にある色をよりあざやかに表現するための補正を行います。



切 記憶色補正を行いません。

弱 記憶色補正を3段階で指定します。

中

強

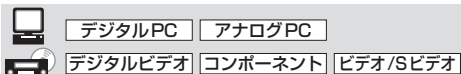
設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。



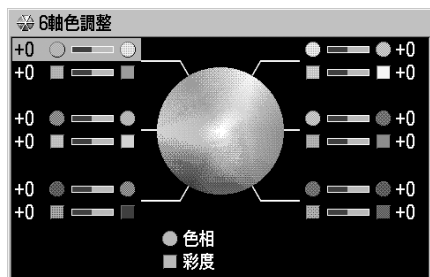
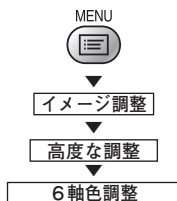
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

高度な色調整を行う (3)

[6軸色調整]



RGB (赤、緑、青) および CMY (シアン、マゼンタ、イエロー) の 6 軸色調整ボックスで、きめ細かな色調整を行います。6 軸色調整については、用語集もご覧ください。



- 調整 6 軸色調整を行います。
- 切 6 軸色調整を行いません。

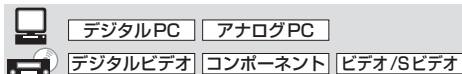
[調整] を選ぶと、6 軸色調整画面が表示されます。
【A】【V】ボタンで「○ 色相 (色合い)」または「□ 彩度 (色の濃さ)」のスライダーを選び、【<】【>】ボタンでそれぞれ調整します。色調整が終わったら、【OK】ボタンを押します。

設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

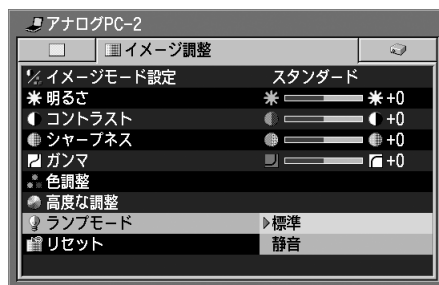
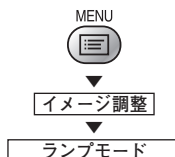
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

ランプの明るさを絞る

[ランプモード]



明るさを制限したい場合、ファンの音が気になる場合は、ランプの光量を落とします。



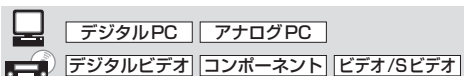
- 標準 標準の明るさで投写します。
- 静音 ランプの光量を落とし、ファンの音を静かにします。

【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

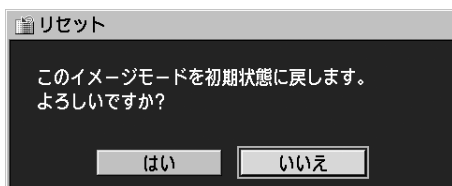
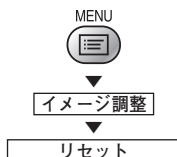
- 静音にすると、ランプの消費電力を抑えることができます。
- 現在選ばれている入力信号とイメージモードの設定として保存されます。

イメージ調整をリセットする

[リセット]



イメージ調整をやり直したいときに、現在の設定をリセットし、購入時の状態に戻します。



イメージ調整の設定をリセットします。

リセットを中止します。

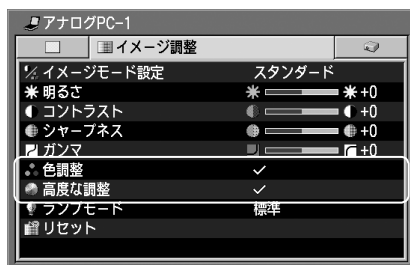
[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押します。



- イメージ調整の設定は、入力信号（8種）ごと、イメージモード（最大5種）ごとに別々に記憶されます。リセットを行うと、現在の入力信号とイメージモードの組み合わせの設定内容だけがリセットされません。

[色調整] または [高度な調整] を行った場合

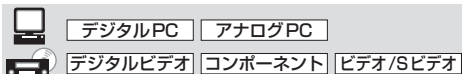
[色調整] または [高度な調整（ダイナミックガンマ、記憶色補正、6軸色調整）] を行うと、イメージ調整メニューにチェックマーク が表示されます。



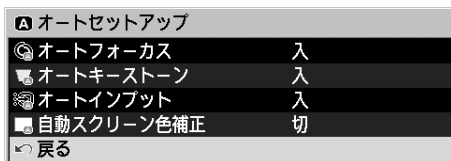
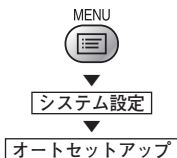
動作を設定する

オートセットアップの項目を選ぶ

[オートセットアップ]



オートセットアップで実行する項目を選びます。



次の項目について、オートセットアップで実行する場合は[入]、実行しない場合は[切]を選びます。

オートフォーカス	ピントの調整
オートキーストーン	キーストーン調整
オートインプット	入力信号の選択
自動スクリーン色補正	スクリーン色補正



- オートセットアップの実行時に確認画面が表示され、どの機能を実行するか確認できます。(P44、67)

- それぞれの項目は、手動で設定することが可能です。

[ピントの調整] 【FOCUS】ボタン(P49)

[キーストーン調整] 【KEystone】ボタン(P50)

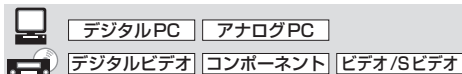
[入力信号の選択] 【INPUT】ボタン(P46、68)

[スクリーン色補正] メニュー機能(P94)

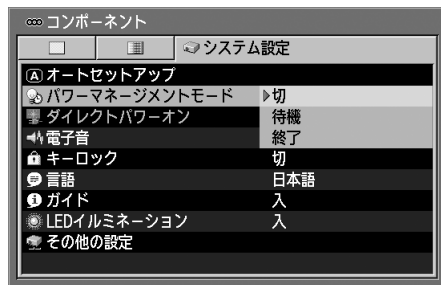
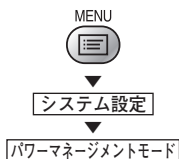
- [スクリーンアスペクト] を[16 : 9 D イメージシフト] にしたときは、各項目の設定変更はできません。またオートセットアップは動きません。

パワー管理モードを選ぶ

[パワー管理モード]



プロジェクターを使用しないときに、自動的にランプを消したり、電源を切って節電します。



切 パワー管理モードを使用しません。

待機 待機モードに入り、信号が入力されたり、プロジェクターが操作されると、画像の投写を再開します。

終了 終了モードに入り、自動的に電源を切ります。

[OK] ボタンを押して確定し、**[MENU]** ボタンを押します。

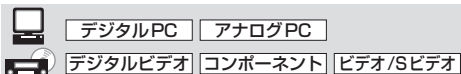


- [切] に設定した場合、[ダイレクトパワーオン] は使用できません。

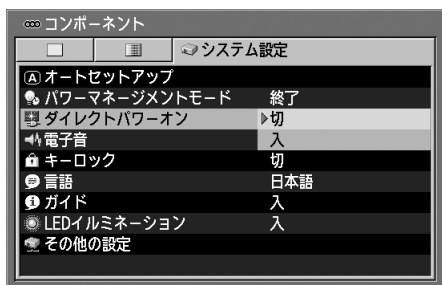
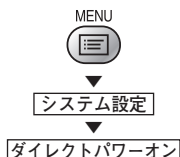
- パワー管理モードの[待機] 動作中は、POWERランプが赤と緑に点滅します。

POWER ボタン操作を省略する

[ダイレクトパワーオン]



電源コードの接続と同時に電源が入るようにできます。



- 切 ダイレクトパワーオンを使用しません。
- 入 ダイレクトパワーオンを使用します。

[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押します。



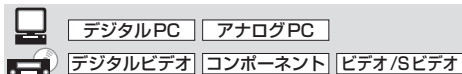
- ダイレクトパワーオン機能を使用して電源を切った後、再度電源を入れる場合は、5分以上経ってから電源を入れるようにしてください。

電源切後すぐに電源を入れると、ランプの寿命を縮める原因になります。

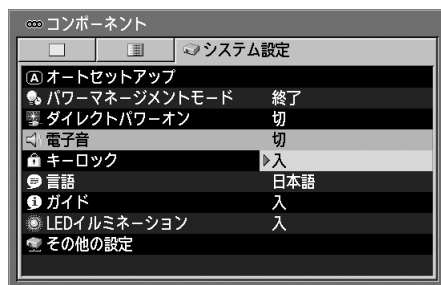
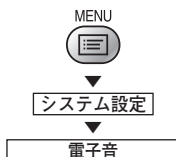
- ダイレクトパワーオン機能を使用する場合は、本設定と共に、前項の「パワーマネージメント」の設定を [待機] または [終了] にしてください。

電子音の入/切

[電子音]



本体パネルやリモコンボタン操作時の電子音を入/切します。



- 入 電子音を鳴らします。
- 切 電子音を鳴らしません。

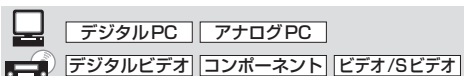
[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押します。



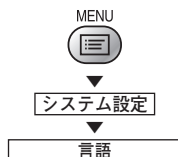
- 【MUTE】ボタンで一時的に音を消している場合は、電子音は鳴りません。

表示言語を選ぶ

[言語]



メニューに表示される言語を選びます。
20種類の言語が選べます。



言語		
English	Русский	Čeština
Deutsch	Nederlands	Dansk
Français	Suomi	中文简体
Italiano	Norsk	中文繁體
Español	Türkçe	한국어
Português	Polski	▶ 日本語
Svenska	Magyar	

表示する言語を選びます。

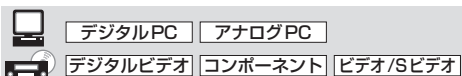
English	英語
Deutsch	ドイツ語
Français	フランス語
Italiano	イタリア語
Español	スペイン語
Português	ポルトガル語
Svenska	スウェーデン語
Русский	ロシア語
Nederlands	オランダ語
Suomi	フィンランド語
Norsk	ノルウェー語
Türkçe	トルコ語
Polski	ポーランド語
Magyar	ハンガリー語
Čeština	チェコ語
Dansk	デンマーク語

中文简体	中国語(簡体)
中文繁體	中国語(繁体)
한국어	ハングル語
日本語	日本語

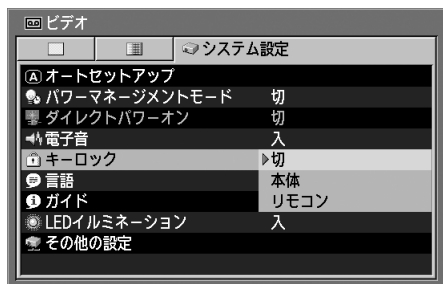
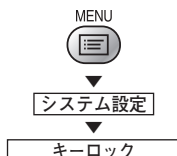
【OK】ボタンを押すと、すべての表示が指定の言語に変わります。
設定が終わったら【MENU】ボタンを押します。

プロジェクターの操作を禁止する

[キーロック]



本体パネルやリモコンのボタンの使用を禁止し、プロジェクターが誤って操作されるのを防ぎます。



- 切 キーロック機能を使用しません。
- 本体 本体パネルの使用を禁止します。
- リモコン リモコンの使用を禁止します。

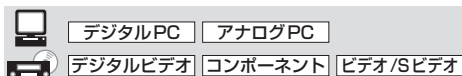
[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押します。



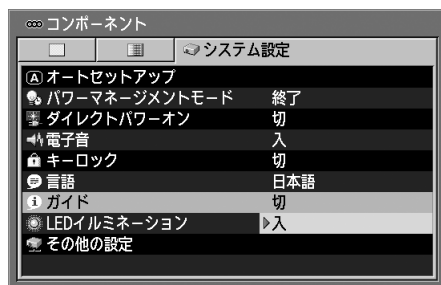
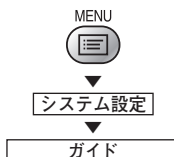
- キーロックは、[本体] または [リモコン] を選び、[OK] ボタンを押した瞬間から有効になります。[OK] ボタンは、禁止していない操作パネルまたはリモコン側で押してください。
- キーロックを強制解除する場合は、投写を終えてから電源コードを抜き、電子音が鳴るまで [OK] ボタンを押しながら、電源コードを差し込んでください。

ガイドメッセージの表示/非表示

[ガイド]



プロジェクターの操作を説明するガイドメッセージの表示/非表示が選べます。



- 切 ガイドメッセージを表示しません。
- 入 ガイドメッセージを表示します。

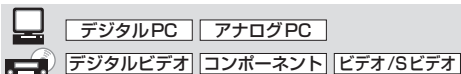
[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押します。



- ガイドメッセージは次のときに表示されます。
 - 電源を入れたとき (P38)
 - 電源を切る ([POWER] ボタンを押したとき) (P58)
 - 入力信号が確認できないとき (P34, 62)
 - [NO SHOW]、[FREEZE]、[D.ZOOM] 時に無効なボタンが押されたとき (P74, 75, 77)

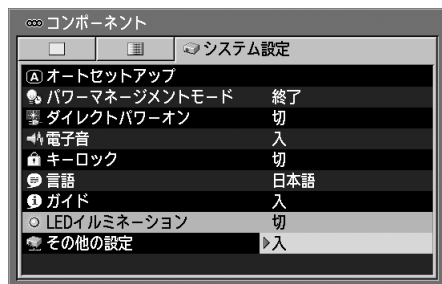
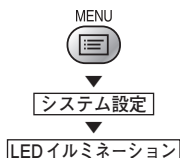
LEDの点灯の入/切

[LEDイルミネーション]



接続端子のLEDランプと本体パネルのLEDイルミネーションランプの入/切を選べます。

(P24、25、26)



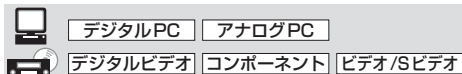
- 切 LEDランプはいっさい点灯しません。
- 入 必要なときにLEDランプが点灯します。

【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

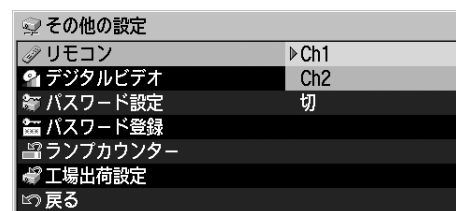
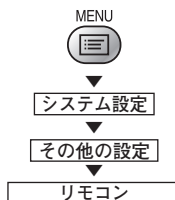
- POWERランプやWARNINGランプの点灯には影響しません。

リモコンを設定する

[リモコン]



2台のプロジェクターを使用する場合、リモコンが干渉しないようチャンネル設定を変更します。



- Ch1 使用するプロジェクター側のチャンネルを選び、【OK】ボタンを押します。
- Ch2

【OK】ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

リモコン側のチャンネルを選ぶ

リモコンの【OK】ボタンを押しながら、【LIGHT】ボタンを3秒間押します。

2つのボタンを押すたびにCh1 (リモコンボタンが1回点滅) とCh2 (2回点滅) が切り換わります。

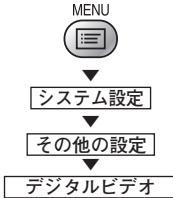
- チャンネル設定は、リモコンとプロジェクター本体の両方を合わせて設定してください。
- リモコンでメニュー操作をしている場合は、【OK】ボタンを押してチャンネルを切り換えるとリモコンからの操作ができなくなります。リモコンのチャンネルも同時に切り換えてください。

デジタルビデオの入力信号を設定する

[デジタルビデオ]



デジタル映像の入力信号の規格を選択します。



その他の設定	
リモコン	Ch1
デジタルビデオ	▷F
パスワード設定	L
パスワード登録	
ランプカウンター	
工場出荷設定	
戻る	

F フルレンジでデジタル信号を投写します。

L リミテッドレンジでデジタル信号を投写します。

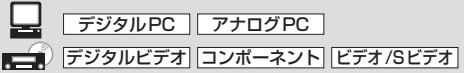
[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押します。



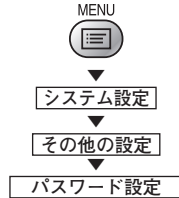
- 設定については、お使いのデジタルAV機器の説明書を併せてご参照ください。

パスワードを設定する

[パスワード設定]



プロジェクターにパスワードを設定します。
以降、電源を入れる際にパスワードの入力が必要になります。



その他の設定	
リモコン	Ch1
デジタルビデオ	F
パスワード設定	▷切
パスワード登録	入
ランプカウンター	
工場出荷設定	
戻る	

切 パスワード機能を使用しません。

入 パスワード機能を使用します。

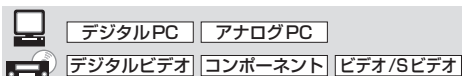
[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押します。



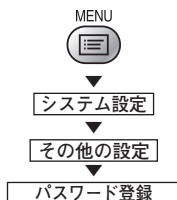
- パスワードを設定すると、電源を入れたときにパスワードの入力画面が表示されます。ここで、【∧】【∨】【<】【>】ボタンで4桁のパスワードを入力して、正しければ投写が始まります。パスワードの入力を3回間違えると、電源が切れます。
- パスワードを解除する場合は、投写を終えてから電源コードを抜き、電子音が鳴るまで【MENU】ボタンを押しながら、電源コードを差し込んでください。

パスワードを登録する

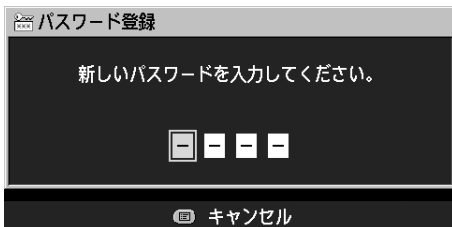
[パスワード登録]



プロジェクターの電源を入れるためのパスワードを登録します。



[OK] ボタンを押すと、パスワード入力画面が表示されます。

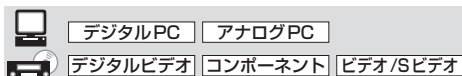


[△]、[>]、[V]、[<] ボタンを使い、1～4の数字の組み合わせで4桁のパスワードを入力します。
[△] ボタンで1が、[>] ボタンで2が、[V] ボタンで3が、[<] ボタンで4が入力されます。
左の桁から順番に入力し、入力が終わると自動的に登録されます。

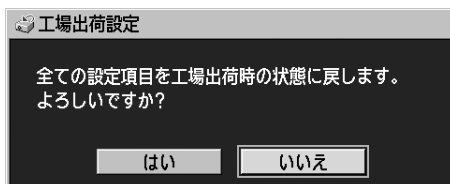
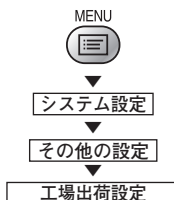
- パスワード入力画面で登録をキャンセルする場合は、パスワードを入力せずに【MENU】ボタンを押します。

購入時の状態に戻す

[工場出荷設定]



メニュー項目をリセットし、プロジェクターを工場出荷設定に戻します。



はい プロジェクターのメニュー項目の設定がすべてリセットされます。

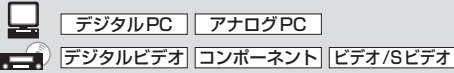
いいえ リセットを中止します。

[OK] ボタンを押して確定し、【MENU】ボタンを押します。

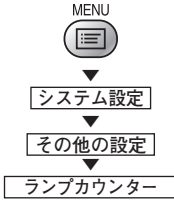
- 工場出荷設定を実行すると、今までに調整した内容はリセットされます。
- 工場出荷設定を実行すると、次に電源を入れたときに言語選択画面が表示されます。(P39)
- 工場出荷設定を行っても、入力信号の選択、[ランプカウンター]、[言語]、[リモコン]はリセットされません。
- 工場出荷時の設定についてはP138,139を参照してください。

ランプカウンターをリセットする

[ランプカウンター]



ランプを交換した際に、ランプの交換時期を知らせるカウンターをリセットします。



! ランプを交換したとき以外はリセットしないでください。ランプの交換時期を正しく知らせることができなくなり危険です。

ランプカウンターの表示例

- 使用時間が
SX6 1400時間
SX7/X700 1800時間
SX60 2300時間までの場合



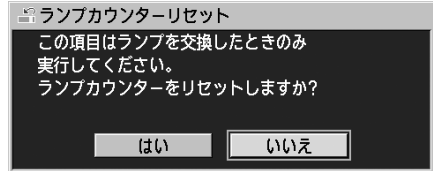
- 使用時間が
SX6 1400 ~ 1500時間
SX7/X700 1800 ~ 2000時間
SX60 2400 ~ 2500時間までの場合



- 使用時間が
SX6 1500時間以上
SX7/X700 2000時間以上
SX60 2500時間以上の場合



- ランプ交換時期になりランプを交換した場合



- ランプカウンターをリセットします。
- ランプカウンターのリセットを取りやめます。

[OK] ボタンを押して確定し、[MENU] ボタンを押してください。

- ランプの交換方法についてはP116を参照してください。

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

索引

日常のお手入れ

日常のお手入れ

プロジェクター本体を清掃する

プロジェクターは、ホコリなどがたまらないようにこまめに清掃してください。
レンズ表面が汚れると、投写する映像に影響が出る場合があります。



注意

- 電源を切った直後は、本体が大変高温になっているため、十分冷えるのを待ってから（1時間以上）清掃や片づけを行ってください。やけどやけがの原因になる場合があります。
- 清掃は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電や火災の原因になる場合があります。

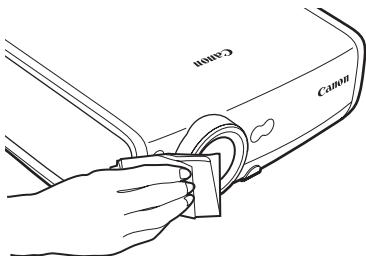
本体や本体パネルの汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布を浸してよく絞り、ふき取ってから乾いた布で仕上げてください。



注意

- ベンジンや揮発性の清掃液を使用すると、変質したり塗装がはげることがあります。化学ぞうきんをご使用の場合は、その注意書きをよくお読みください。
- レンズの清掃は、カメラ用に市販されているブローブラシやレンズクリーナーを使用してください。レンズの表面は傷が付きやすいので、固い布やティッシュペーパーなどは使用しないでください。



長期間で使用にならないとき

レンズには必ずレンズキャップを取り付け、付属のキャリーバッグに入れて保管するようにしてください。

エアフィルターを清掃・交換する

本体の底面にある吸気口のエアフィルターは、内部のレンズやミラーをホコリや汚れから守っています。エアフィルターにホコリがたまると、空気の流れが悪くなり、内部の温度が上昇して故障の原因となります。



注意

- 電源を切った直後は、本体が大変高温になっているため、十分に冷えるのを待ってから（1時間以上）エアフィルターの清掃や交換を行ってください。やけどやけがの原因になる場合があります。
- エアフィルターの清掃や交換は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。感電や火災の原因になる場合があります。
- エアフィルターの穴から内部にものを差し込まないでください。内部には高電圧の部分や回転する部分があり、感電やけがの原因になります。

エアフィルターの清掃

エアフィルターは、本体を逆さまにして、ツメを押してカバーを外し、取り出してから掃除機でホコリを吸い取ってください。

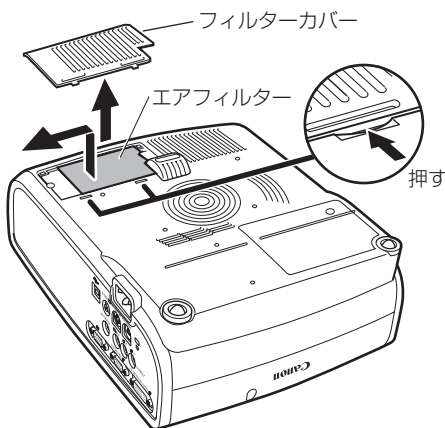
本体側面の排気口や、底面の吸気口のホコリは、掃除機のノズルを直接近づけて吸い取ってください。



- エアフィルターの清掃はこまめに行ってください。
- エアフィルターを清掃した後は、以下の手順1～5の逆の手順で本体に取り付けてください。

エアフィルターの交換手順

- 1 プロジェクターの電源を切り、電源プラグを抜いて1時間以上放置します。
- 2 矢印の部分を押し、フィルターカバーを外します。
- 3 エアフィルターを取り外します。
- 4 新しいエアフィルターを取り付けます。
- 5 フィルターカバーが浮かないように、確実に取り付けます。



日常のお手入れ



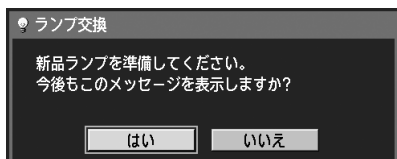
- エアフィルターの交換を行う際は、レンズにレンズキャップを取り付けてください。
- エアフィルターは、はたきで扱ってください。破損するとフィルターの効果が損なわれます。
- エアフィルターは、ランプの交換時にいっしょに交換してください。
- エアフィルターのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。

ランプを交換する

ランプの使用時間が一定の時間を超えると、プロジェクターの電源を入れるたびに、次の画面(2種類)が10秒間表示されます。

●使用時間が

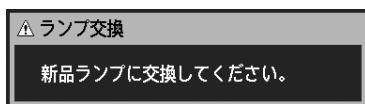
SX6	1400 ~ 1500時間
SX7/X700	1800 ~ 2000時間
SX60	2400 ~ 2500時間までの場合



※この画面の表示中は、【<】、【>】、【OK】ボタンまたは【POWER】ボタンのみ操作できます。

●使用時間が

SX6	1500時間以上
SX7/X700	2000時間以上
SX60	2500時間以上の場合



※この画面の表示中は、【POWER】ボタンのみ操作できます。



- 「今後もこのメッセージを表示しますか?」で [いいえ] を選ぶと、この画面は表示されなくなります。
- ランプの使用時間はシステム設定メニューの [ランプカウンター] で確認してください。(P112)



注意

- ランプを交換するときは、本体の電源を切り、冷却ファンが停止してから電源プラグをコンセントから抜き、1時間以上放置してから行ってください。電源を切った直後は、本体が大変高温になっているため、やけどやけがをする恐れがあります。
- ランプ交換の際は、内部のガラス面などに触れないでください。投写の性能が下がるなどの原因になります。
- ランプに衝撃を加えたり傷つけたりすると、使用中に破裂する場合がありますので、取り扱いにご注意ください。
- ランプを交換の際は、指定のねじ以外ははずさないでください。

交換用のランプについて

本プロジェクターでは、次のランプを使用しています。

ランプの品番： SX7/X700：RS-LP04
SX6：RS-LP02
SX60：RS-LP03



- ランプは、必ず指定のものをご使用ください。

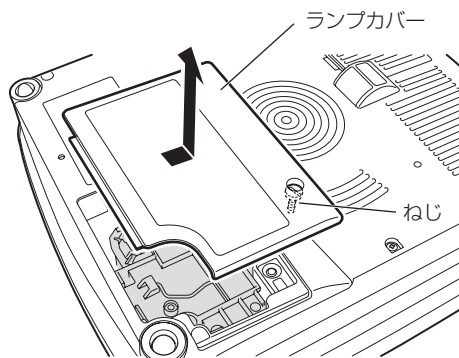


- ランプのご注文は、お買い上げの販売店にご相談ください。キヤノンのホームページからも購入できます。

ランプ交換手順

1 プロジェクターの電源を切り、電源プラグを抜いて1時間以上放置します。

2 マイナスドライバーでねじをゆるめ、ランプカバーを外します。



3 ねじ2本をゆるめ、ハンドルを起こしてランプを取り外します。

4 新しいランプを奥までしっかり押し込み、ねじ2本で固定します。

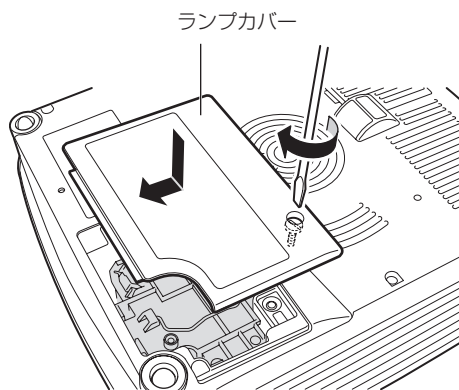
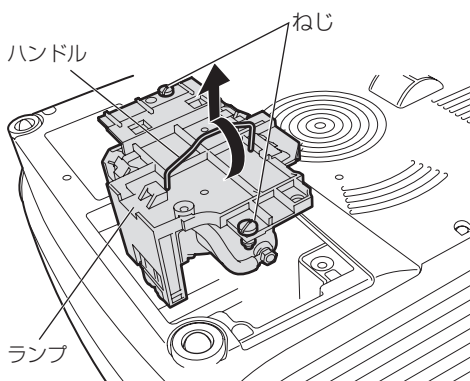
※取り付け後、ハンドルは必ず倒してください。

5 ランプカバーを取り付け、ねじをしめます。

6 電源を入れます。

7 メニューを表示し、[システム設定] - [その他の設定] の [ランプカウンター] を選びます。(P112)

8 [リセット] を選び、[はい] を選んで、ランプカウンターをリセットします。



困ったときには

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

索引

困ったときには

WARNINGランプの見かた

プロジェクターに異常が発生すると、本体パネル上のWARNINGランプが点滅し続けます。



- 電源を切り、プロジェクターの冷却が終了した後に、電源コードを抜いてから対処してください。

点滅の回数	内容	原因と対処
1回	温度の異常	プロジェクター内部の温度が何らかの異常で高温になっているか、外気温度が規定以上になっています。プロジェクター側の異常の場合は、設置や操作が正しく行われているか確認し、プロジェクターの電源を切ってしばらく内部を冷やしてから投写してください。再度、同じワーニングが出る場合は、本体の故障が考えられます。キャノンお客様相談センターにご連絡ください。
2回	ランプの異常	ランプが切れました。新しいランプに交換してください。ランプを交換しても同じワーニングが出る場合は、ランプの駆動回路などの故障が考えられます。キャノンお客様相談センターにご連絡ください。
3回	ランプ蓋の異常	ランプ蓋が開いています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、ランプ蓋を正しく取り付けた後、再度電源を入れ直してください。 ランプ蓋に問題がない場合は、ランプ蓋検出スイッチなどの故障が考えられます。キャノンお客様相談センターにご連絡ください。
4回	冷却ファンの異常	冷却ファンまたはその他の故障が考えられます。キャノンお客様相談センターにご連絡ください。
5回	電源の異常	電源の一部が異常な電圧になっているか、その他の故障が考えられます。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに接続して電源を入れ直してください。再度、同じワーニングが出る場合は、キャノンお客様相談センターにご連絡ください。
6回	システムの異常	機能の一部に異常が発生しています。プロジェクターの電源を切り、再度投写してください。再度電源を入れても同じワーニングが出る場合は、キャノンお客様相談センターにご連絡ください。

困ったときのアドバイス

電源が入らない

原因	対処のしかた
電源コードが正しく接続されていない	電源コードがきちんと接続されていることを確認してください。(P38)
電源コードを接続した直後である	電源プラグを接続して【POWER】ボタンが赤く点灯するまでは、電源を入れることができません。(P38)
電源を切ったあと、すぐに入れようとしている	電源を切った後は、すぐには電源を入れることができません。しばらく経ってから、再度【POWER】ボタンを押してください。(P58)
電源を切った後、ファンの回転中にキャリーバッグに収納したため、安全装置が作動した	安全装置は安全のため、お客様が解除できないようになっています。キャノンお客様相談センターにご連絡ください。
吸気口または排気口がふさがれてプロジェクター内部の温度が上昇し、安全装置が作動した。	安全装置は安全のため、お客様が解除できないようになっています。キャノンお客様相談センターにご連絡ください。

画像が投写されない

原因	対処のしかた
接続ケーブルが正しく接続されていない	コンピューターやAV機器とプロジェクターとが正しく接続されていることを確認してください。(P34、62)
電源を入れて20秒経過していない	電源を入れると、約20秒間オープニング画面が表示されます。すぐに画像を投写する場合は、リモコンまたは本体パネルの【OK】ボタンを押してください。(P38)
AV機器から映像が送られていない	接続したデジタルカメラ、ビデオカメラ、DVD等で、映像の再生が行われていることを確認してください。
映像端子への接続や信号形式の選択が正しくない	映像端子への接続が正しく行われていることを確認してください。また、映像信号の形式が正しく選ばれていることも確認してください。(P46、68)
【NO SHOW】になっている	リモコンの【NO SHOW】ボタンを押してください。(P74)
コンピューター側の問題で映像が送られない	プロジェクター、コンピューターの順で電源を入れなおしてください。

音声がでない

原因	対処のしかた
音声ケーブルが正しく接続されていない	音声ケーブルの接続を確認してください。(P36)
【MUTE】になっている	リモコンの【MUTE】ボタンを押してください。(P74)
音量が最小に調整されている	リモコンの【VOL】ボタンまたは本体パネルの【VOL+】ボタンを押して音量を調整してください。(P75)
抵抗内蔵の音声ケーブルが使用されている	音声ケーブルは、抵抗なしのものをご使用ください。

映像が鮮明でない

原因	対処のしかた
フォーカスが合っていない	フォーカスを調整してください。(P49)
レンズキャップが外されていない	レンズキャップを外してください。
スクリーンまでの距離が近すぎる	スクリーンとの距離が適正であるか確認してください。約1.2m以上離れないと、ピントが合いません。(P30、127)
プロジェクターがスクリーンの正面に置かれていない	スクリーンに対して過度に斜め方向から投写していないか確認してください。ある程度の角度であれば、キーストーン調整で補正できます。(P41、50)
温度差の激しい場所に移動した	温度の低い場所から温度の高い場所に移動した場合、レンズにくもりが発生する場合があります。しばらくすると、くもりは消え、正常な画面の投写が可能になります。
レンズが汚れている	レンズを清掃してください。(P114)

映像が正しく表示されない

原因	対処のしかた
映像が上下、または左右逆に投写される	天吊り/リア投写の設定に誤りがあります。表示設定メニューで[反転表示]の設定内容を確認してください。(P93)

ノートパソコンの画面が投写できない

原因	対処のしかた
接続ケーブルが正しく接続されていない	コンピューターの映像端子に正しく接続されていることを確認してください。(P34、35)
映像信号の形式が合っていない	映像信号の形式が正しく選ばれていることを確認してください。(P87、88、126)

<p>ノートパソコン側の外部モニターへの出力が正しく設定されていない</p>	<p>ノートパソコンの外部モニターへの出力をオンに設定してください。外部モニターへの出力をオンにするには、パソコンのキーボードの[Fn]を押しながら、[LCD]や[VGA]または画面のアイコンが表記されたファンクションキーを押します。(P43)</p> <p>なお、キー操作はノートパソコンの種類によって異なります。詳しくは、ご使用のノートパソコンの使用説明書などでご確認ください。</p>
<p>ノートパソコンの画面と同じ画像が表示されない</p>	<p>ノートパソコンの画面設定が2画面(マルチディスプレイ)モードになっていないかを確認してください。2画面モードになっている場合は、ノートパソコン側の操作で出力設定を同時表示モードにしてください。</p> <p>なお、出力設定の方法はノートパソコンによって異なります。詳しくは、ご使用のノートパソコンの使用説明書などでご確認ください。</p>

電源が切れてしまう

原因	対処のしかた
<p>吸気口または排気口がふさがれている</p>	<p>吸気口または排気口がふさがれていないか確認してください。吸気口または排気口がふさがれていると、プロジェクター内部の温度が上昇し、本体保護のために自動的に電源が切れるようになっていきます。プロジェクターの温度が下がってから、吸気口または排気口をふさがないようにして、再度電源を入れてください。(P20、21、38)</p>
<p>エアフィルターが汚れている</p>	<p>底面のエアフィルターがホコリなどで目詰まりしていませんか確認してください。</p> <p>目詰まりしている場合は、エアフィルターの清掃または交換を行ってください。(P115)</p>
<p>ランプが破裂している(またはランプの異常)</p>	<p>ランプが破裂していないか確認してください。</p> <p>ランプが破裂している場合は、ランプを交換してください。ランプが破裂していない場合でも、ランプの異常が考えられるので、予備のランプをお持ちの場合は交換してお試しください。(P13、116、117)</p>
<p>使用環境が適正でない</p>	<p>使用環境が5℃～35℃であることを確認してください。(P14)</p>
<p>上記に該当する原因が見つからないとき</p>	<p>故障している可能性がありますので、すみやかにキヤノンお客様相談センターまでご相談ください。(P136)</p>

リモコンの操作ができない

原因	対処のしかた
電池が正しく入っていない/電池が切れている	電池が正しく入っているか確認してください。電池が入っている場合は、電池を交換してお試しください。(P27)
リモコンの届かない位置から操作している	プロジェクターのリモコン受光範囲内で操作しているか確認してください。 また、プロジェクターのリモコン受光部とリモコンの間に障害物がないことを確認してください。(P27)
リモコンの使用環境が適正でない	プロジェクターのリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていないか確認してください。(P27)
リモコンのチャンネル設定が合っていない	リモコンのチャンネル設定を切り換えていないか確認してください。システム設定メニューで「リモコン」の設定を確認できます。(P109)
キーロックでリモコンの操作を禁止している	「キーロック」でリモコンからの操作がロックされていないか確認してください。 システム設定メニューで「キーロック」を「切」に設定してください。(P108)

ワイヤレスマウスの操作ができない

原因	対処のしかた
USBケーブルが正しく接続されていない	USBケーブルがプロジェクターとコンピューターで正しく接続されていることを確認してください。(P78)
マウスドライバがインストールされていない	コンピューター側でマウスが使用できるか確認してください。使用できない場合は、コンピューターにマウスドライバをインストールしてください。
コンピューター側の問題でマウスが認識されない	プロジェクター、コンピューターの順で電源を入れなおしてください。

付録

付録 目次

対応信号形式	P126
画面サイズと投写距離の関係	P127
用語集	P128
製品の仕様	P132
索引	P134
保証とアフターサービス	P136
メニューの構成	P138

目次

安全にお使いいただくために

お使いになる前に

プロジェクターを設置する

コンピューターの画像を投写する

AV機器の映像を投写する

プレゼンテーションで使える便利な機能

メニューによる機能設定

日常のお手入れ

困ったときには

付録

索引

対応信号形式

本プロジェクトには、次の信号形式が用意されています。
 コンピューターまたはAV機器が下の表のいずれかに対応していれば、オートPC機能などにより入力信号が自動的に判断され、正しい画像を投写することができます。

アナログPC

信号形式	解像度(ドット)	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)		
VGA	640×480	31.469	59.94		
		31.469	70.09		
		37.50	75.00		
		37.861	72.81		
		37.861	74.38		
		43.269	85.01		
SVGA	800×600	31.469	70.09		
		34.50	55.38		
		35.156	56.25		
		37.879	60.32		
		37.898	61.03		
		38.00	60.51		
		38.60	60.31		
		46.875	75.00		
		48.077	72.19		
		53.674	85.06		
		44.028	54.63		
		XGA	1024×768	46.897	58.19
47.00	58.31				
48.363	60.00				
48.496	60.02				
56.476	70.07				
58.032	72.00				
60.023	75.03				
60.314	74.92				
60.994	75.77				
62.04	77.07				
63.478	79.35				
68.677	85.00				
WXGA	1280×768			47.986	59.83
	1360×768			47.712	60.02
SXGA	1152×864	64.196	70.39		
		61.17	65.28		
	1152×900	61.846	66.00		
		71.399	75.64		
	1280×960	60.00	60.00		
		62.50	58.63		
	1280×1024	63.337	59.98		
		63.364	59.95		
		63.735	60.01		
		63.791	60.18		
		63.899	60.00		
		63.981	60.02		
		71.694	67.19		
		76.97	72.00		
79.976		75.03			
81.135		76.11			
SXGA+	1400×1050	63.981	60.02		
UXGA	1600×1200	75.00	60.00		
MACLC13	640×480	34.967	66.60		
MAC13	640×480	35.00	66.67		
MAC16	832×624	49.725	74.55		
MAC19	1024×768	60.248	75.08		
MAC21	1152×870	68.681	75.06		
MAC	1280×960	75.00	75.08		
MAC	1280×1024	80.00	75.08		

デジタルPC

信号形式	解像度(ドット)	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
D-VGA	640x480	31.469	59.94
D-SVGA	800 x 600	37.879	60.32
D-XGA	1024 x 768	48.363	60.00
D-SXGA*	1280 x 1024	63.981	60.02
D-SXGA+*	1400 x 1050	63.981	60.02

*SX7/SX6/SX60のみ

デジタルビデオ

信号形式	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
D-480p	31.469	59.94
D-575p	31.250	50.00
D-720p	44.955	59.94
D-1080i**	28.125	50.00
D-1080i**	33.716	59.94

**インタレース信号です

コンポーネント

信号形式	水平周波数(KHz)	垂直周波数(Hz)
480p	31.469	59.94
480i**	15.734	59.94
575p	31.250	50.00
575i**	15.625	50.00
720p	44.955	59.94
1035i**	33.750	60.00
1080i**	28.125	50.00
1080i**	33.716	59.94

**インタレース信号です

※表中の仕様は予告なしに変更する場合があります。

※ドットクロックが170MHz以上のコンピューター入力には対応しておりません。

画面サイズと投写距離の関係

4 : 3のときの画面サイズ 型-幅×高さ (cm)	投写距離 (m) ズーム最大	投写距離 (m) ズーム最小	H1 (cm)	H2 (cm)	16 : 9のときの画面サイズ 幅×高さ (cm)
40型81×61	1.2	2.0	55	6	81×46
50型102×76	1.5	2.5	69	8	102×57
60型122×91	1.8	2.9	82	9	122×69
70型142×107	2.1	3.4	96	11	142×80
80型163×122	2.4	3.9	110	12	163×91
90型183×137	2.7	4.4	123	14	183×103
100型203×152	3.0	4.9	137	15	203×114
110型224×168	3.3	5.4	151	17	224×126
120型244×183	3.6	5.9	165	18	244×137
130型264×198	3.9	6.4	178	20	264×149
140型284×213	4.2	6.9	192	21	284×160
150型305×229	4.5	7.4	206	23	305×171
160型325×244	4.8	7.9	219	24	325×183
170型345×259	5.1	8.4	233	26	345×194
180型366×274	5.4	8.9	247	27	366×206
182型370×277	5.4	9.0	250	28	370×208
190型386×290	5.6	—	261	29	386×217
200型406×305	5.9	—	274	30	406×229
210型427×320	6.2	—	288	32	427×240
220型447×335	6.5	—	302	34	447×251
230型467×351	6.8	—	315	35	467×263
240型488×366	7.1	—	329	37	488×274
250型508×381	7.4	—	343	38	508×286
260型528×396	7.7	—	357	40	528×297
270型549×411	8.0	—	370	41	549×309
280型569×427	8.3	—	384	43	569×320
290型589×442	8.6	—	398	44	589×331
300型610×457	8.9	—	411	46	610×343

用語集

6軸色調整 (P103)

本格派ユーザー向けの高度な色調整機能です。投写映像をR(赤) / G(緑) / B(青)およびC(シアン) / M(マゼンタ) / Y(黄)の6軸における色合いと色の濃さで、きめ細かく調整できます。6軸色調整はイメージ調整メニューで行います。

AdobeRGB (P53、98)

アドビシステムズ社提唱の色空間の規格で、高性能なデジタルカメラやディスプレイ等で採用されています。sRGBよりも広い色空間が設定されているため、より忠実な色再現が可能になります。SX6/SX7では、イメージモードで「Adobe RGB」を選ぶことにより、AdobeRGB規格に対応した映像を最適な画質で投写することができます。なお、AdobeRGB規格に対応した映像を[sRGB]モードで投写する場合、またはsRGB規格に対応した映像を[AdobeRGB]モードで投写する場合は、元の映像の色と投写映像の色が異なってしまうため注意が必要です。

DVI (P35、46、63、68)

コンピューターやAV機器のデジタル信号用インターフェースです。デジタルデータをアナログに変換することなくそのまま送受信できるため、信号劣化のない高画質が得られます。なお、DVI-I (Integrated) コネクタでは、デジタルの映像信号とアナログの映像信号の両方を取り扱うことが可能です。

HDCP (P63、68)

High-bandwidth Digital Content Protectionの略称で、デジタル画像信号のコピー防止を目的とした暗号化技術です。本機では、HDCP技術によりコピープロテクトされたデジタルコンテンツを投写することができます。AV機器のHDMI端子またはDVI端子と本プロジェクター

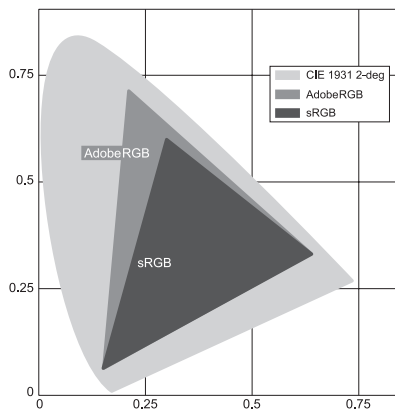
の入力端子-1を専用ケーブルで接続し、[インプット]メニューから[デジタルビデオ]を選んで投写します。

HDMI (P63、68)

AV機器のデジタルビデオ信号用インターフェースです。DVI端子よりもコンパクトで、映像信号と音声信号を同時に伝送することが可能です。

sRGB (P53、98)

色を表現する範囲(色空間)に関する国際規格で、一般的なデジタルカメラやディスプレイ等で採用されています。本機では、イメージモードで[sRGB]を選ぶことにより、sRGB規格に対応した映像を最適な画質で投写することができます。



S-ビデオ (P25、63、88)

輝度信号(Y)と色信号(C)を別々に送信する信号方式(YC分離信号)です。AV機器のS映像端子と本プロジェクターのS-ビデオ入力端子をS-端子ビデオケーブルで接続し、[S-ビデオ]を選んで投写します。

アスペクト (P55、70、86)

画面の横方向(長辺)の長さとの縦方向(短辺)の長さの比率がアスペクト(比)です。[長辺:短辺]で表されます。

一般的には次のアスペクトがよく使用されます。

[4:3] 従来型のテレビをはじめ、パソコンでもVGA(640×480)やXGA(1024×768)など標準的な画像解像度で幅広く使用されているアスペクトです。本機のアスペクト比も[4:3]です。

[5:4] パソコンでSXGA(1280×1024)などの画像解像度を選択すると、縦方向が多少長くなりアスペクトが[5:4]になります。本機では、設定メニューの[アスペクト]で[オート]を選ぶと正しいアスペクトで投写されますが、スクリーンの左右に余白が出来ます。

[16:9] ハイビジョンおよびワイドテレビのアスペクトです。パソコンではワイド画面向けのWXGA(1280×768、1360×768)などが[16:9]に近いアスペクトとして使用されています。本機では、設定メニューの[アスペクト]で[オート]または[ワイド]を選ぶと正しいアスペクトで投写しますが、スクリーンの上下に余白が出来ます。

そのほか、劇場用映画のアスペクトを表す用語として「ビスタサイズ」「シネスコサイズ」などがあります。

「ビスタサイズ」 [16:9]に近いアスペクトです。本機では設定メニュー

の[アスペクト]で[オート]または[ワイド]を選びます。画像の上下に黒帯が付加されます。

「シネスコサイズ」 [8:3]と横長のアスペクトです。本機では設定メニューの[アスペクト]で[オート]または[ワイド]を選びます。画像の上下に黒帯が付加されます。

アナログPC (P25、34、89)

Red(赤) / Green(緑) / Blue(青)各色の情報をアナログ値で送信する画像出力の信号方式で、コンピューターとカラーモニターなどをつなぐ標準的な方式です。コンピューターのアナログRGB出力端子と本プロジェクターの入力端子-1または入力端子-2をモニター接続ケーブルで接続し、入力端子-1のときは[アナログPC-1]、入力端子-2のときは[アナログPC-2]を選んで投写します。

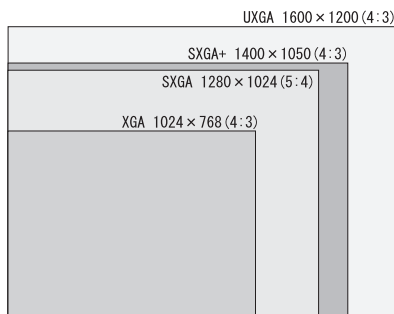
オフセット (P101)

映像信号に含まれる黒から白までの輝度信号の画面上での再現幅全体を、高輝度側か低輝度側へ調整するパラメータです。主に暗い部分の諧調の再現性が変化します。本機ではRGB各色ごとにオフセットを調整することが出来ますので、色味を調整することもできます。通常はゲインとともに調整します。

解像度 (P42、87)

コンピューターのディスプレイ上に表示できるドット数(横方向×縦方向)をディスプレイの解像度といいます。この解像度は、表示領域の広さ(情報量の多さ)を表しています。

解像度	ドット数	
	横方向	縦方向
VGA	640	480
SVGA	800	600
XGA	1024	768
SXGA	1280	1024
SXGA+	1400	1050
UXGA	1600	1200



解像度によるピクセル数の違い

接続するコンピューターで、画面の解像度の設定をSXGA+ (1400×1050) にすると、本プロジェクターで高精細な投写が行えます。コンピューターの設定にSXGA+がない場合は、設定可能な最大の解像度を選んでください。

ガンマ補正 (P100、102)

画像データを投写するときに行う階調の調整方式です。ガンマ補正を行うことにより、明るくて消えている部分や暗くつぶれている部分の見え方を改善することができます。

本プロジェクターには、手動でのガンマ補正機能のほか、自動的に適正なガンマ補正を行う、ダイナミックガンマ機能があります。

記憶色補正 (P102)

人がイメージとして記憶している色を記憶色といいます。記憶色では空の青色などは実物よりも高彩度のため、投写映像によってはくすんだ

色という印象を受けることがあります。このような場合に記憶色補正を設定すると、投写映像を記憶色に近づけることができます。記憶色補正はイメージ調整メニューで設定します。

ゲイン (P101)

映像信号に含まれる黒から白までの輝度信号が、画面上の黒から白の範囲に自然に収まるように輝度の再現幅を調整するパラメータです。主に明るい部分の諧調の再現性が変化します。本機ではRGB各色ごとにゲインを調整することが出来ますので、色味を調整することもできます。通常はオフセットとともに調整します。

コンポーネント (P25、62、88)

色信号(C)をB-Y色差信号とR-Y色差信号に分けて送信する信号方式で、コンポジットより高画質の投写ができます。AV機器のコンポーネント映像端子と本プロジェクターの入力端子-2をコンポーネントケーブルで接続し、[コンポーネント]を選んで投写します。

コンポジット (P25、64)

輝度信号(Y)と色信号(C)を映像信号にまとめて送信するビデオ信号の方式です。AV機器のコンポジット出力端子(RCA)と本プロジェクターのビデオ入力端子をビデオケーブルで接続し、[ビデオ]を選んで投写します。

デジタルPC (P25、35)

ディスプレイの表示ドットごとの情報をデジタル値で送信する画像出力の信号方式です。アナログ変換を行わないため、画質の劣化がありません。コンピューターのDVI出力端子と本プロジェクターの入力端子-1をDVI接続ケーブルで接続し、[デジタルPC]を選んで投写します。

トラッキング (P89)

アナログ映像信号から画像を再現するには、映像信号に含まれる同期信号を基準にして、正しいタイミングで画像情報を蓄積する処理が必要です。この処理がトラッキングです。本プロジェクトではアナログ映像機器の同期信号に微妙なズレがある場合でも、オートPC機能によりトラッキングを自動調整して正しい画像を投写することができます。

ビデオ (P25、63、88)

AV機器用の一般的な出力端子で、コンポジット出力端子(またはピン端子、RCA端子)とも呼ばれます。詳しくは、「コンポジット」の項をご覧ください。

プログレッシブ (P92)

画像の表示形式で、1回の画面表示を1回の走査で行う方法です。1回の画像表示を奇数段と偶数段の2回の走査で行うインターレース信号であるビデオ信号を入力した場合には、プログレッシブ処理を行う必要があります。プログレッシブ機能をオフにした状態では、インターレース信号1回分の画像信号により1枚の画像表示を行うため、垂直解像度の低い画像となります。一方プログレッシブ機能をオンにした状態では、インターレース信号2回分の画像信号により1枚の画像表示を行うため、垂直解像度の高い高画質画像となりますが、動きの多い映像などでちらつきや横線が目立つ場合は、プログレッシブ機能をオフにしてください。

製品の仕様

プロジェクター本体

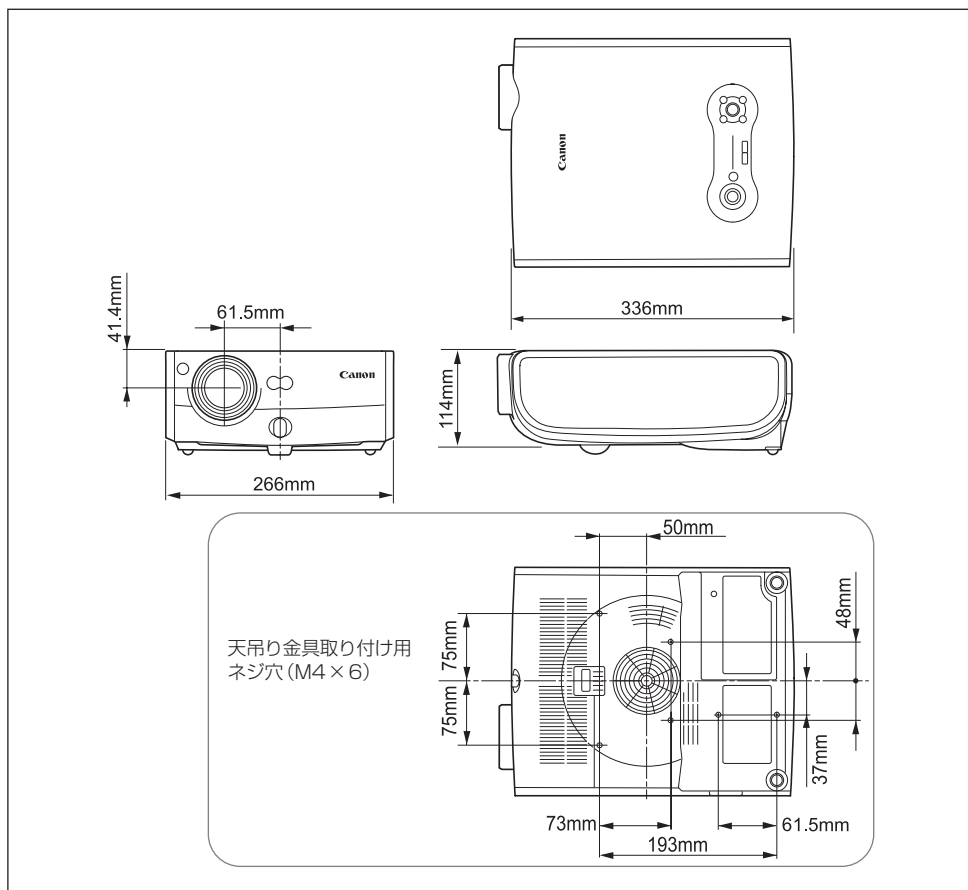
型名	SX7/SX6/SX60/X700	
表示方式	3原色液晶方式	
光学方式	ダイクロイックミラー、偏光ビームスプリッターによる色分離・プリズムによる色合成方式	
形式	反射型液晶パネル	
表示素子	サイズ/アスペクト比 0.7型×3 / 4 : 3	
駆動方式	アクティブマトリックス方式	
画素数/総画素数	SX7/SX6/SX60 : 1,470,000 (1400×1050) × 3枚 / 4,410,000 X700 : 786,432 (1024×768) × 3枚 / 2,359,296	
投写レンズ	ズーム比/焦点距離/F値 1.7倍 / f = 21.7 ~ 35.8 mm / F1.85 ~ F2.5	
ズーム/フォーカス方式	電動/電動(オートフォーカス機能あり)	
レンズシフト量	9 : 1 (固定)	
光源	SX7/X700 : 275W 超高压ランプ SX6 : 270W 超高压ランプ SX60 : 180W 超高压ランプ	
画面サイズ(投写距離)	40 ~ 300型(1.2 ~ 9 m)	
再現色数	1677万色(フルカラー)	
明るさ*	SX7/X700 : 4000ルーメン SX6 : 3500ルーメン SX60 : 2500ルーメン	
コントラスト比	1000 : 1 (全白 : 全黒) / 2000 : 1 (SX60・ホームシアターモード時)	
周辺照度比*	88%	
スピーカー	1W・モノラル×1	
最大入力解像度	1600×1200ドット(圧縮)	
映像信号	アナログPC入力	UXGA/SXGA+/WXGA/SXGA/XGA/SVGA/VGA (走査周波数: 水平: 15 ~ 100kHz・垂直50 ~ 100Hz)
	デジタルPC入力	SX7/SX6/SX60 : SXGA+/SXGA/XGA/SVGA/VGA, X700 : XGA/SVGA/VGA
	コンポーネント入力	1080i, 1035i, 720p, 575i, 575p, 480i, 480p
	デジタルビデオ入力	1080i, 720p, 575p, 480p
	ビデオ/S-ビデオ入力	NTSC, PAL, SECAM, NTSC4.43, PAL-M, PAL-N
入力端子	入力端子-1	デジタルPC、アナログPC、デジタルビデオ(DVI-Iコネクター 29ピン)
	入力端子-2	アナログPC、コンポーネント(ミニD-sub 15ピン)
	ビデオ端子	コンボジット(RCA)
	S-ビデオ端子	S-Video (ミニDIN4ピン)
	音声入力端子	音声信号(SX7/X700 : ステレオミニジャック×3、SX6/SX60 : ステレオミニジャック×1)
	USB端子	マウス制御(USBタイプB)
サービスポート	RS-232C (ミニDIN8ピン)	
映像出力端子	アナログPC (ミニD-sub 15ピン)	
音声出力端子	音声信号(SX7/X700のみ : ステレオミニジャック)	
入力信号	デジタルPC	TMDS (Transition Minimized Differential Signaling)
	アナログPC	0.7Vp-p、正極性、インピーダンス75Ω 水平・垂直同期 : TTLレベル、負または正極性 G信号中のコンボジット同期 : 0.3Vp-p、負極性、インピーダンス75Ω
		映像 : 1Vp-p、同期負、インピーダンス75Ω S映像 : セパレートYC信号、Y : 1Vp-p、同期負、インピーダンス75Ω C : 0.286Vp-p (バースト信号)、インピーダンス75Ω コンポーネント : セパレートY Cb/Pb Cr/Pr信号 Y : 1Vp-p、同期負、インピーダンス75Ω Cb/Pb : 0.7Vp-p、インピーダンス75Ω Cr/Pr : 0.7Vp-p、インピーダンス75Ω
	ビデオ	
	音声	142mVrms、インピーダンス47kΩ以上
騒音(ランプモード 標準/静音)	SX7/SX6/X700 : 35/31dB、SX60 : 30/27dB	
使用温度範囲	5℃ ~ 35℃	
電源	AC100V 50/60Hz	
消費電力(ランプモード 標準/静音、待機)	SX7/X700 : 360W / 290W、7W、SX6 : 355W / 290W、7W、SX60 : 250W / 225W、7W	
本体寸法	幅266mm × 高さ114mm × 奥行336mm (突起物含まず)	
質量	SX7/X700 : 4.8 kg、SX6 : 4.7 kg、SX60 : 4.6 kg	
付属品	リモコン、リモコン用乾電池、電源コード、コンピューター接続ケーブル、USBケーブル、コンポーネントケーブル、キャリーバッグ、レンズキャップ、レンズキャップ用ひも、使用説明書、クイックスタートガイド、保証書	

* 出荷時における本プロジェクター全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911 : 2003データプロジェクターの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については付属書2に基づいています。
 ※液晶パネルの有効画素は99.99%以上です。投写中0.01%以下の点灯したままの点や、消灯したままの点が見られる場合がありますが、これは液晶パネルの特性で生じるもので故障ではありません。
 ※長時間・連続使用する際は、光学部品の劣化を早めることがありますのでご注意ください。
 ※本プロジェクターはJIS C 61000-3-2適合品です。

リモコン

電源	DC3.0V 単4形乾電池2本使用
到達距離	約5m(受光部正面)
本体寸法	幅42mm × 高さ22mm × 奥行135mm
質量(本体のみ)	55 g

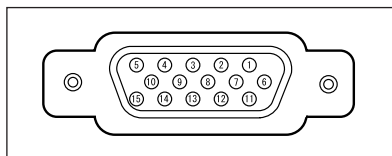
外観図



入力端子-2 (ANALOG IN-2) (アナログPC-2入力/コンポーネント入力端子)

コンピューターのアナログPC入力、コンポーネント入力端子として動作します。接続には、D-sub用コンピューター接続ケーブルをご使用ください。

ミニD-sub15ピン



1	R	9	+5Vパワー
2	G	10	接地 (垂直同期)
3	B	11	モニター ID0
4	モニター ID2	12	DDCデータ
5	接地 (水平同期)	13	水平同期
6	接地 (R)	14	垂直同期
7	接地 (G)	15	DDCクロック
8	接地 (B)		



● 端子仕様は、アナログPC-2入力/コンポーネント入力とも同一です。

英数字

6軸色調整	103、128
AdobeRGB	53、98、128
ANALOG IN-1/DIGITAL IN	24、34、63
ANALOG IN-2	24、34、62
AUTO PC	52
AUTO SET	44、67
DVI	35、63、128
D.ZOOM	77
Focus	49
FREEZE	75
HDCP	128
HDMI	63、128
IMAGE	53
INPUT	46、68
KEYSTONE	50
LEDイルミネーション	109
MUTE	74
NO SHOW	74
POWERランプ	26
P-TIMER	76
SPOT	79
sRGB	53、98、128
S-VIDEO(S-ビデオ)	63、128
VOL	75
WARNINGランプ	26、120
ZOOM	40

あ

明るさ	99
アスペクト	55、70、129
アスペクト設定	86
アナログPC	34、46、129
イメージ調整メニュー	82、98
イメージモード(画質)	53、98
イメージモード設定	98
色調整	101
エアフィルター	115
オートPC	52
オートインプット	44、105
オートキーストーン	44、105

オートセットアップ	44、105
オートフォーカス	44、105
オフセット	101、129
音声出力端子(SX7/X700)	64
音声入力端子(SX6/SX60)	37
音声入力端子(SX7/X700)	36、65
音量調節	75

か

解像度	55、129
ガイド	108
外部モニター	36
外部モニター切り替え(ノートパソコンの準備)	43
画像の拡大	77
画面サイズ	127
ガンマ補正	100、130
キーストーン	50
キーロック	108
記憶色補正	102、130
起動時画面	96
キャリアバッグ	13、19
ゲイン	101、130
工場出荷設定	111
コントラスト	99
コンポジット	130
コンポーネント	62、130

さ

システム設定メニュー	82、105
自動スクリーン色補正	44、105
シャープネス	100
出力解像度(コンピューターの準備)	42
省電力(パワーマネージメント)	59
信号形式	126
垂直位置	90
垂直表示ドット数	91
水平位置	90
水平表示ドット数	91
ズーム(画面サイズ)	40
スクリーンアスペクト	57、71
スクリーンアスペクト設定	97

スクリーン色補正	94
スポットライト	79
接続端子	24
接続端子 (AV 機器との接続)	62
接続端子 (コンピューターとの接続)	34
総ドット数	89

た

台形ひずみ調整	50
ダイナミックガンマ	102
ダイレクトパワーオン	106
チャンネル設定	109
デジタルPC	35、46、130
デジタルビデオ	110
電子音	106
天吊り	31、93
投写距離	30、127
トラッキング	89、131

な

入力信号選択 (AV 機器)	68
入力信号選択 (コンピューター)	46
入力信号選択 (表示設定メニュー)	87

は

パスワード設定	110
パスワード登録	111
パワーマネージメント	59
パワーマネージメントモード (設定)	105
反転表示 (天吊り/リア投写)	93
表示言語の選択	39、107
表示設定メニュー	82、86
表示モード (アスペクト)	55、70
ピント合わせ	49
プログレッシブ	92、131
プロジェクターの設置	14、30
ページ送り、戻し	76
本体パネル	23

ま

マウス操作	78
ミュート	74
無信号時画面	95
メニュー	82
メニュー構成	138
メニュー表示位置	92

や

ユーザー画像位置	95
ユーザー画像登録	94

ら

ランプ	13
ランプカウンター	112
ランプ交換	112、116、117
ランプモード	103
リア投写	31、93
リセット	104、111
リモコン	22、27、109
冷却ファン	11
レンズキャップ	18
ロゴを表示	95、96

保証とアフターサービス

■この商品には保証書がついています

保証書は、本プロジェクターに付属しています。お買い上げ日、販売店名などが記入されていることをお確かめの上、内容をお読みいただき、大切に保管してください。なお、保証内容については保証書に記載しております。

■修理サービスのご相談

修理サービスのご相談は、裏表紙のキヤノンお客様相談センターにご相談ください。(ランプはキヤノンホームページからもご購入いただけます。)

■修理を依頼される前に

120～124ページの「困ったときには」にそって故障かどうかお確かめください。それでも直らない場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、修理をご依頼ください。

【修理方法】

本商品は、引取修理させていただきます。お客様先にプロジェクターを引取にお伺いし、修理完了後にお届けいたします。また、ご要望により代替機の貸出サービスを準備しております。

※上記、引取サービスおよび代替機の貸し出しは、キヤノンお客様相談センターにてサービスをご利用いただいた場合に適用されます。

※引取修理サービスは、国内のみのお取り扱いとなります。

別売品

- ランプ品番：
SX7/X700：RS-LP04
SX6：RS-LP02
SX60：RS-LP03
- 天吊り金具 品番：RS-CL06
- 天吊りパイプ(360mm)品番：RS-CL03*

■修理を依頼されるときに

ご連絡いただきたいこと

- お客様のお名前
- ご住所、お電話番号
- 商品の機種名およびシリアル番号
- 故障の内容(できるだけ詳しく)

■補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

〈修理料金〉

保証期間内	引取修理サービス	無償
	代替機貸出サービス	無償
保証期間終了後	引取修理サービス	有償
	代替機貸出サービス	有償

- 天吊りパイプ(550mm)品番：RS-CL04*
- 天吊りパイプ(760mm)品番：RS-CL05*
- 天吊りプレート 品番：RS-CL02**
- DVI デジタルケーブル 品番：LV-CA29
- ネットワークアダプター 品番：RS-NA01

* 高い天井から本プロジェクターを吊り下げる場合に使用します。

** 天吊り用パイプと天吊り金具をつなぐための部品です。

詳しくは天吊り金具RS-CL06の使用説明書をご参照ください。

メニューの構成

表示設定メニュー

アスペクト	デジタルPC/アナログPC P86	フルスクリーン ★	ユーザー画面設定	ユーザー画像登録	はい/いいえ	P94
	4:3	オート		ユーザー画像位置	左上	P95
	ワイド	リアル			中央 ★	
	ビデオ/Sビデオ P87	フルスクリーン ★			左下	
	4:3	ワイド		無信号時画面	黒	P95
	デジタルビデオ/コンポーネント P86	オート ★			青 ★	ユーザー画像
	フルスクリーン	4:3		NO SHOW時画面	黒 ★	P96
	ワイド	青			青	ユーザ画像
				起動時画面	Canonロゴ ★	P96
					表示しない	ユーザ画像
			戻る			
入力信号選択	アナログPC P87	640×480				
	:	1280×1024	スクリーンアスペクト	4:3	P97	
	ビデオ/Sビデオ P88	オート ★		16:9		
	NTSC	NTSC		16:9Dイメージフト		
	PAL	PAL				
	SECAM	SECAM				
	NTSC4.43	NTSC4.43				
	PAL-M	PAL-M				
	PAL-N	PAL-N				
	コンポーネント P88	オート ★				
	1080i					
	1035i					
	720p					
	575p					
	480p					
	575i					
	480i					
入力信号設定	アナログPC	総ドット数	P89			
	トラッキング	P89				
	水平位置	P90				
	垂直位置	P90				
	水平表示ドット数	P91				
	垂直表示ドット数	P91				
プログレッシブ	コンポーネント/ビデオ/Sビデオ P92	切				
	入					
	オート ★					
メニュー表示位置	P92					
スクリーン色補正		赤/緑/青				
	標準 ★		P94			
	黒板調整					
反転表示	なし ★		P93			
	天吊り					
	リア					
	リア・天吊り					

★:工場出荷時(リセット後)の設定

イメージ調整メニュー

イメージモード設定	スタンダード ★ プレゼンテーション ムービー(SX60/X700) ムービー&フォト(SX6/SX7) ホームシアター(SX60) AdobeRGB(SX6/SX7) sRGB	P98
明るさ		P99
コントラスト		P99
シャープネス		P100
ガンマ		P100
色調整		
ビデオ/Sビデオ/コンポーネント		P101
色の濃さ		
色合い		
共通		P101
赤ゲイン		
赤オフセット		
緑ゲイン		
緑オフセット		
青ゲイン		
青オフセット		
高度な調整		
ダイナミックガンマ	切 ★ 入	P102
記憶色補正	切 ★ 弱 中 強	P102
6軸色調整	切 ★ 調整 色相/彩度	P103
戻る		
ランプモード	標準 静音	P103
リセット	はい/いいえ	P104

システム設定メニュー

オートセットアップ		P105
オートフォーカス	切 入 ★	
オートキーストーン	切 入 ★	
オートインプット	切 入 ★	
自動スクリーン色補正	切 ★ 入	
戻る		
パワーマネジメントモード	切 ★ 待機 終了	P105
ダイレクトパワーオン	切 ★ 入	P106
電子音	切 入 ★	P106
キーロック	切 ★ 本体 リモコン	P108
言語	英語 ドイツ語 フランス語 イタリア語 スペイン語 ポルトガル語 スウェーデン語 ロシア語 オランダ語 フィンランド語 トルコ語 ポーランド語 ハンガリー語 チェコ語 デンマーク語 中国語(簡体) 中国語(繁体) ハンガリー語 日本語 フルウェー語	P107
ガイド	切 入 ★	P108
LEDイルミネーション	切 入 ★	P109
その他の設定		
リモコン	Ch1 Ch2	P109
デジタルビデオ	F ★ L	P110
パスワード設定	切 ★ 入	P110
パスワード登録	パスワード入力	P111
ランプカウンター	戻る リセット(はい/いいえ)	P112
工場出荷設定	はい/いいえ	P111
戻る		

●長年ご使用の液晶プロジェクターの点検をぜひ!(熱、湿気、ホコリなどの影響や使用の度合いにより部品が劣化し、故障したり、時には、安全性を損なって事故につながることもあります。)

このような
症状は
ありませんか

- 電源スイッチを入れても映像や音が出ない。
- 映像が時々消えることがある。
- 変圧においがしたり、煙が出たりする。
- 電源スイッチを切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物が入った。
- その他異常や故障がある。



ご使用
中止

故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして、必ず販売店にご相談ください。

お客様メモ

品番	
お買い上げ年月日	年 月 日
お買い上げ店名	☎



お客様相談センター(全国共通番号)



050-555-90071

[受付時間] (平日)9:00~12:00/13:00~17:00

(土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9348をご利用ください。

※上記番号はIP電話プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。



Y T 1 5 3 3 6 0 0 5